

2020年度

教育学部 講義計画と内容

[目次]

基礎教育学専修 基礎教育学コース

教育社会科学専修

教育社会科学専修 比較教育社会学コース

教育社会科学専修 教育実践・政策学コース

心身発達科学専修

心身発達科学専修 教育心理学コース

心身発達科学専修 身体教育学コース

教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目

教職課程科目 (I) 本郷キャンパス

教職課程科目 (II) 駒場キャンパス

特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

2020年度は UTAS のシラバス情報が随時更新される予定のため、注意してください。

基礎教育学専修 基礎教育学コース

時間割コード	09201101	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	教育哲学概説(教育思想論) Introduction to Philosophy of Education				

授業の目的・概要	<p>人は自分自身と環境との相互作用のなかで自らを変え、また自らが変化していくなかで環境にはたらきかけて文化を生み出し、そして自己と環境との関係性を変容させていく。「ビルドゥング」という概念は、人が<人間>になるそのような変容およびその過程において得られたものの総体を一語のうちに内包している。本授業では、ビルドゥング、そしてアーキテクチャをキーワードとして、文化を介した人間と環境とのそのような力動的な相互作用の特徴について、歴史的な文脈も押さえつつ解説する。同時に、今日の時代状況を踏まえたうえで、アーキテクチャという観点から現代における教育の問題を捉えることの可能性と課題について検討を行う。</p> <p>本授業を通じて、(1)教育哲学・思想論の基礎知識を身につけることができる。(2)そのような基礎知識を踏まえたうえで歴史的および今日的な教育問題を論じることができる。(3)以上のことに基づいて、さまざまな立場にある論者とのコミュニケーションにおいて教育に関する批判的省察を行うことができる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業のキーワードと概要 2 教育としてのアーキテクチャ(1)――都市空間と人間形成の思想 3 教育としてのアーキテクチャ(2)――<田園>の創造と人間形成 4 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(1)――<タムロ>問題から考える 5 アーキテクチャとたわむれる子どもたち(2)――電子空間の拡張と人間形成 6 アーキテクチャと学校教育(1)――学校空間の基本構造とその歴史 7 アーキテクチャと学校教育(2)――開放型学校空間のバリエーション 8 アーキテクチャと学校教育(3)――今日の学校における空間・身体・教育 9 アーキテクチャとしての教育(1)――授業における構造的なるもの 10 アーキテクチャとしての教育(2)――構造をくずす(「命の教育」) 11 アーキテクチャとしての教育(3)――構造と暴力(教育的関係論) 12 アーキテクチャとしての教育(4)――構造と暴力(いじめ) 13 アーキテクチャと人間形成――想起文化論における空間問題と教育 14 アーキテクチャ消失と人間形成――「野生の少年」を再考する 15 本授業のまとめ
授業の方法	<p>教科書の内容を基盤にしつつも、教育に関する多様な事例をとりあげて、人間と文化との力動的な関係性とそこに介入する試みとしての教育の問題について考える。各授業時間における導入部分では、授業担当者がその回のテーマおよび問題視角を提示する(30分)。具体的な事例が紹介された後(30分)、再び授業担当者が解説を試みる(30分)。授業の内容について受講生はリアクションペーパーを作成する(15分)。次回の授業冒頭で受講生の感想が紹介され、そして次のテーマへの導入へと続く。</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎時のリアクションペーパー、授業時の参加姿勢)と期末レポートの総合的評価(前者 5割、後者 5割)とする。</p>
教科書	<p>山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2015年</p>
参考書	<p>授業中に適宜提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教育学に関わる基礎文献を読んでおくことが望ましい。</p> <p>受講生の積極的な参加を求める。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照</p>

時間割コード	09201102	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育人間学概説 Introduction to Educational Thought and Anthropology				

授業の目的・概要	<p>教育の理念とイデオロギーは、その目的とする人間像をめぐる対立・相克し、揺れ動いてきた。そうした対立と相克の様相を、教育の哲学と思想史の基礎理論を学ぶことによって明らかにする。それによって、現代の教育が直面する課題について批判的にとらえる視点を養うことをめざす。今年度は東京でオリンピックが予定されている年であるが、ベンヤミンが「政治の美学化」と批判した全体主義に転化しないための「芸術の政治化」の条件は果たしてあるのか、シティズンシップ教育の視点から徹底的に考えたい。</p>
授業計画	<p>今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。</p> <p>1 プロローグ、ガイダンス 2 古典古代の教育思想 3 ソクラテスのセンス 4 啓蒙的理性とシニズム 5 啓蒙の別の顔 6 ルソーと近代家族 7 国民教育と市民 8 近代的個人の形成 9 マルクス主義の逆説、児童の世紀とユートピア主義その1 10 マルクス主義の逆説、児童の世紀とユートピア主義その2 11 過去と未来の間に立つ 12 教育の再政治化へ向けて(1) 13 教育の再政治化へ向けて(2) 14 教育の再政治化へ向けて(3) 15 全体のまとめ</p>
授業の方法	<p>講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、卒業論文の準備にも資するようにしたい。また、卒論執筆者による発表と検討の時間も設ける。</p>
成績評価方法	<p>レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。</p>
教科書	<p>小玉重夫『シティズンシップの教育思想』白澤社、2003年</p>
参考書	<p>ジュディス・パトラー『分かれ道』青土社など、関連する資料、教材をウェブサイトアップして、受講者がダウンロードできるようにする。</p>
履修上の注意・備考	<p>初回の授業時に発表の分担等を行う予定である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)哲学(公)哲学</p>

時間割コード	09201103	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 2
講義題目	日本教育史概説 Introduction to Japanese Educational History				

授業の目的・概要	現在の学校教育の抱えている問題を歴史的に照射することを目的とする。教師になろうと考えている学生たちにとって、歴史的観点から学校教育の特徴を理解することを、日本教育史の研究を志す学生たちにとって、教育史研究の基礎的な素養が獲得できることを目指している。
授業計画	講義の具体的な柱は次の通りである。 第1回:オリエンテーション(日本教育史を展望する) 第2回:<戦前期1>国民教育の成立 第3回:<戦前期2>総力戦体制と教育 第4回:占領政策と教育 第5回:子どもと人権 第6回:高度経済成長下の教育 第7回:教育における管理体制の再編 第8回:高校紛争とは何だったのか 第9回:非行問題から見えてくるもの 第10回:臨教審答申と教育改革 第11回:国際化と教育 第12回:生涯学習社会の到来と「学習権」 第13回:新自由主義施策と教育の格差 第14回:コミュニティスクールから見えてくるもの 第15回:まとめ—未来への展望
授業の方法	適宜、映像資料、プリント資料を用いる。 また、予め文献を指定し、学生による発表を毎回取り入れる。
成績評価方法	講義内の発表、期末レポートをもって評定する。 なお出席3分の2以上をもって、単位認定の最低要件とする。
教科書	特に指定しない。授業中に資料を配付する。
参考書	適宜紹介する
履修上の注意・備考	初回到履修方法について説明するので欠席しないこと。 毎回、共通文献の事前学習を課し、文献に基づいたディスカッションを時間内に展開するので、事前学習の時間(毎回2時間程度)の確保をお願いしたい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)日本史(地)日本史

時間割コード	09201301	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 4
講義題目	文化と教育の哲学 Seminar in Philosophy of Culture and Education				

授業の目的・概要	「文化」とは、ここでは人間が生み出した人工的な創造物およびそれに関連する営みの総体を指す。本授業では、そのような文化との関連において教育（人が育つことへの意図的な介入）について考察する方法を、とくに「文化的記憶」をキーワードにして学ぶ。学校教育のみならず、ミュージアム、都市（モニュメント、記念公園など）なども広く視野に捉えたうえで、個人の記憶と文化に埋め込まれた記憶との相互作用を把握すると同時に、個別の具体的な対象に焦点を当てて考察を行う。受講によって、教育および人間形成に関する考察を行う際に重要となる概念、問題構成、テーマ領域を理解すると同時に、それらを用いて具体的な教育現象について解釈を行うことができる。
授業計画	授業の前半部では、まず基本的な問題視角、重要概念、問題構成を授業担当者の方から提示する。その後、基本テキスト（授業時に指示）を輪読し、その内容について批判的な検討を試みる。授業の硬派部では、記憶と想起に関するさまざまな〈現場〉（学校、ミュージアム、都市空間）を訪れ、そこで記憶と想起の何が生じているかを、理論的な枠組みを意識しながら考える。最後に、受講生の関心にしたがって、具体的な記憶の〈現場〉をとりあげ、その分析・考察を試みる。
授業の方法	基本的には講義およびフィールドワークの組み合わせによる授業を行う。毎回、感想を書く時間を設け、その内容を受けて次回授業へとつなげていく。受講生数によっては、ディスカッションやグループワークも取り入れることもある。
成績評価方法	平常点（60パーセント）と期末レポート（40パーセント）の総合的評価を行う。
教科書	授業時に指示する。なお、関連資料を授業時に配付する。
参考書	山名淳・矢野智司編『災害と厄災の教育を伝える——教育学は何ができるか』勁草書房、2017年 山名淳「記憶の制度としての教育 ——メモリー・ペダゴジーの方へ——」森田尚人・松浦良充編『現代教育学論集：教育哲学の視座から』東信堂、2019年 アン・ホワイトヘッド『記憶をめぐる人文学』彩流社、2017年 その他、授業時に指示する。
履修上の注意・備考	教育や人間形成に対する関心をもって積極的に参加していただきたい。教育哲学および教育思想史に関する教科書や基本文献を読んでおくことが望ましいが、必須の条件ではない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201302	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 2
講義題目	戦後教育史演習 Seminar in Japanese Educational History after the World War II				

授業の目的・概要	<p>日本教育史研究に必要な研究能力、基礎的教養を獲得することを目指している。</p> <p>具体的には、日本の戦後教育の基本構造が定着した 1960 年代に主に焦点をしぼり、歴史的検討を通じて、現代の問題に対する再検討を試みたい。具体的には、以下のようなテーマを受講者の関心に応じて取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と貧困格差はどのように論じられたかー地域間格差を含めて ・「障害」は教育を通してどのように生み出されたか ・「受験地獄」はどのように形成されたのか ・「学力」はどう論じられたのか ・「不登校問題」はどのように形成されたか <p>などなど</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション:ゼミの参加の仕方、教育史研究の意義</p> <p>第 2 回:オンラインで調べられることは何か</p> <p>第 3 回:<自己学習回> 時間中、質問受付</p> <p>第 4 回:<全員発表>高度経済成長下の教育について</p> <p>第 5 回:「障害」は、いかにして教育の中で取り上げられてきたのか</p> <p>第 6 回:<自己学習回> 時間中、質問受付</p> <p>第 7 回:<全員発表>「障害児教育」の戦後史について</p> <p>第 8 回:「授業」は、どのように論じられてきたのか</p> <p>第 9 回:<自己学習回> 時間中、質問受付</p> <p>第 10 回:<全員発表> 授業記録から見た、1950～70 年代</p> <p>第 11 回:個人発表 2</p> <p>第 12 回:個人発表 3</p> <p>第 13 回:個人発表 4</p>
授業の方法	<p>集団での討議により教育を多面的に見て考える力、議論する力、論点を整理し仮説を構築する力の形成を目指したいと思います。なお、適宜、学校見学を行い、現在の学校教育が抱える問題についての共通した認識を形成する。</p>
成績評価方法	<p>基本的に発表の質によって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1文献を十分に読み込み論点を整理できているか 2周辺の文献、先行研究を踏まえているか 3発表回までのゼミの流れを踏まえた発表になっているか 4新たな視点の提示をなし得ているか
教科書	<p>共通文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。</p>
参考書	<p>適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>基本的に初回から zoom で行います。状況に応じて、数人ずつの受講者には教室に参加していただき、その他の受講者がオンラインで参加するなど、さまざまな工夫をしたいと思います。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201303	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	価値と教育 I Seminar in Values and Education I				

授業の目的・概要	「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会におけるシティズンシップ教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション A Framework for Character Education in Schools: Introduction 精読 A Framework for Character Education in Schools: What character education is 精読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 1 章 序論:アリストテレスの人格教育とは何か」講読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 2 章 アリストテレスの人格教育をめぐる根深い神話」講読 A Framework for Character Education in Schools: What character education is not 精読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 3 章 アリストテレスの人格教育のための徳目の測定」講読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 4 章 『フロネーシス』とアリストテレスの人格教育」講読 A Framework for Character Education in Schools: The psychology of moral development 精読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 5 章 アリストテレスの人格教育は劣悪な生い立ちの影響を取り除くことができるか？」講読 A Framework for Character Education in Schools: Which virtues constitute good character 精読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 6 章 方法に向けて:対話とアリストテレスの人格教育」講読 A Framework for Character Education in Schools: The components of virtues 精読 クリスチャン・クリスチャンソン「第 7 章 教育者を教育する—教師とアリストテレスの人格教育」講読 まとめ
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、ゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに 2,000 字程度で論じたものとする予定である。
教科書	Jubilee Centre for Character and Virtues (2017) A Framework for Character Education in Schools (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues). クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21 世紀のアリストテレスの人格教育』中山理監訳(麗澤大学出版会)。
参考書	アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』朴一功訳、京都大学学術出版会。 片山勝茂(2017)「イギリスの道德教育改革からみる日本の道德『教科化』」明治図書「教育 ZINE」 https://www.meijitoshoh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20170108 酒井喜八郎(2019)「イギリス・ジュリーバーセンターにおけるキャラクター教育の特質—わが国の社会科と道徳科の関連に示唆するもの」『南九州大学人間発達研究』第 9 巻。 その他、授業中に紹介する。
履修上の注意・備考	正当な理由があつて欠席する人は配慮するので、A5(A4の半分)の紙に所属、学籍番号氏名、(欠席する)日付と授業の回数(第何回目の授業か)、欠席理由を書いて提出すること(様式自由、事後でもよい)。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201304	担当教員	田中 智志		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育文化論演習 Seminar in Education and Culture				

授業の目的・概要	この演習では、臨床哲学、また「教育臨床学概説」を踏まえつつ、自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、弱さの力、交感、共鳴共振などの教育臨床学の基礎概念について、具体的な文学作品、映画、音楽、ミュージカルなどを題材に、現代の社会状況を踏まえつつ、その理解を深めることをめざす。
授業計画	第1回 教育臨床学の目的 第2回 教育臨床学の方法 第3回 教育臨床学の基礎概念 第4回 文学作品から臨床哲学的に考える1 第5回 文学作品から臨床哲学的に考える2 第6回 文学作品から臨床哲学的に考える3 第7回 映画から臨床哲学的に考える1 第8回 映画から臨床哲学的に考える2 第9回 映画から臨床哲学的に考える3 第10回 音楽・ミュージカルから臨床哲学的に考える1 第11回 音楽・ミュージカルから臨床哲学的に考える2 第12回 音楽・ミュージカルから臨床哲学的に考える3 第13回 自己を越えるコミットメント 第14回 コミットメントが支える人間性 第15回 演習のまとめと最終レポート
授業の方法	授業は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。 内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成績評価方法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教科書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。また教育学の基礎的素養を必要とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201305	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授業の目的・概要	<p>教育思想の重要文献を購読するゼミである。内容としては、教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向に留意する。</p> <p>本年度は特に、政治学と美学の交差する地平をジェンダー論やセクシュアリティ論の成果をふまえて検討する。特に、スクールカーストや子どもの貧困論などをふまえて、社会で周辺化され、言葉を奪われた存在が自らのこぼを持つ可能性とその条件を、考えたい。この秋にはアメリカ大統領選が予定されており、そこでの争点となるであろう周辺化されるものたちの視点からの排除と包摂の論理の組みかえに迫るために、テキストとしては、スピヴァク『ナショナリズムと想像力』、『サバルタンは語るができるか』、アレント『カント政治哲学講義録』等を検討したい。</p>
授業計画	<p>詳細は、初回の授業時に決めるが、大まかには以下のような流れを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと自己紹介 2 「言葉を奪われた存在が自らのこぼを持つ可能性とその条件」に関する基調報告(小玉) 3～8 スピヴァク『ナショナリズムと想像力』、『サバルタンは語るができるか』の検討 9～15 アレント『カント政治哲学講義録』の検討
授業の方法	報告と討論を中心とする。
成績評価方法	ゼミでの報告等による平常点。
教科書	こちらで用意して参加者に配布の予定。
参考書	小玉重夫『教育政治学を拓く』(勁草書房)
履修上の注意・備考	初回の授業時に分担等を行う予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201306	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	臨床教育現象学演習 Seminar in Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。</p> <p>本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。</p> <p>人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずで、受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 臨床現象学に関する論文講読① 3 臨床現象学に関する論文講読② 4 序章:みんなと普通に生きられること+第一章:家族の形 5 第二章:児童虐待 6 第三章:発達障害 7 第四章:生きられる時空間 8 第五章:いじめ 9 第六章:自閉症スペクトラム障害 10 第七章:カウンセリング 11 第八章:不登校 12 第九章:非行 13 第十章:キャリア教育 14 終章:みんなと普通に生き続けること 15 本ゼミのまとめ
授業の方法	<p>少人数のゼミ形式で行う。</p> <p>人数にもよるが、4 人程度のグループを作成し、毎回担当者を決め、グループでの対話／議論を行う。そのうえでその内容を全体に共有し、講義者も含めた出席者全員での対話／議論を行う。</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎回の出席状況と積極的な参加と発表の内容)50 点</p> <p>最終小レポート 50 点</p>
教科書	遠藤野ゆり・大塚類 2020『さらにあたりまえを疑え！』新曜社
参考書	授業中に適宜指示します
履修上の注意・備考	<p>特になし。</p> <p>当事者意識をもった積極的な受講を期待します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	※当初の開講予定から時限が変更になりましたのでご注意ください(木 5→木 2)

時間割コード	09201401	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	道徳と教育 Morality and Education				

授業の目的・概要	<p>「道徳と教育」をテーマに、道徳教育に関する近年の動向及び理論・歴史・実践についての知識・理解や、人間の道徳性についての近年の研究への知識・理解を得るとともに、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点から多様な道徳教育の授業を実践し、批評する能力を身につけ、現代の道徳と教育に関わる問題について(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、道徳科の学習指導案の実例と作成のポイント 2. 道徳の本質と道徳教育及び道徳科の目標としての道徳性 3. 道徳教育の基本とよくある指導法の問題点、道徳科の多様な指導方法 4. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」① 学習指導要領改訂の経緯と道徳科の主な内容 5. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」② 指導計画の作成と道徳科の評価 6. 戦前のモラルと道徳教育の歴史 7. 日常生活における道徳と情報モラル 8. 道徳(性)はいかにして変化するのか—道徳(性)の生得性と発達 9. ケアの共同体としての学校といじめへの対応 10. 道徳科における充実した教材の開発や活用の研究 11. 道徳的判断の発達とモラルジレンマを用いた道徳教育 12. 問題解決型の道徳教育 13. モラルスキルを育成する道徳教育 14. エンカウンターと価値の明確化による道徳教育 15. まとめと解説
授業の方法	<p>講義による。ただし、できる限りワークショップ形式を取り入れ、(アイスブレイクなどを活用した)参加体験型学習を体験してもらう予定である。また、模擬授業を実施し、相互批評を行うことも予定している。</p>
成績評価方法	<p>試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシート、期末レポート及び授業中の発表を合わせて総合的に評価する。期末レポートは二つをまとめた形での提出を求める予定である。一つは授業で扱った事柄をテーマに 4,000 字程度で論じたものとする。もう一つは、道徳の学習指導案を提出してもらう予定である。</p>
教科書	<p>文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』教育出版(各自購入すること。文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。</p>
参考書	<p>荒木紀幸編(2017)『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書。 尾高正浩(2006)『「価値の明確化」の授業実践』明治図書。 永田繁雄編(2017)『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所。 中戸義雄・岡部美香編著(2005)『道徳教育の可能性—その理論と実践』ナカニシヤ出版。 ジョナサン・ハイト(2014)『社会はなぜ左と右にわかれるのか—対立を超えるための道徳心理学』紀伊国屋書店。 林泰成編(2011)『中学校 道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』明治図書。 ポール・ブルーム(2015)『ジャスト・ベイビー—赤ちゃんが教えてくれる善悪の起源』NTT 出版。 桃崎剛寿(2008)『「中学生を変えた」奇跡の道徳授業づくり』日本標準。 桃崎剛寿(2016)『スペシャリスト直伝 中学校道徳授業成功の極意』明治図書。 諸富祥彦編(2014)『ほんもののエンカウンターで道徳授業 中学校編』明治図書。 柳沼良太編(2017)『子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業 事例集 中学校』明治図書。 ヨーロッパ評議会(2006)『人権教育のためのコンパス[羅針盤]—学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』明石</p>

書店。
ヨーロッパ評議会(2009)『コンパシット[羅針盤]—子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』人権教育啓発推進センター。
渡邊満他編(2016)『シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』北大路書房。
その他、講義において指示する。

履修上の注意・備考
正当な理由があつて欠席する人は配慮するので、A5(A4の半分)の紙に所属、学籍番号氏名、(欠席する)日付と授業の回数(第何回目の授業か)、欠席理由を書いて提出すること(様式自由、事後でもよい)。また、教科書の文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』については、事前に冊子体を購入の上、授業時に持参すること。

教育職員免許法上の認定科目
教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09201402	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	臨床教育現象学概論 Introduction to Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。</p> <p>本講義では毎回、若者・家族・教育にまつわる個別具体的な事例を取り上げます。講義者が体験したり見聞きしたりした出来事だけではなく、マンガ、エッセイなども事例として取り上げる予定です(参考資料参照)。人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 私たちが囚われている「あたりまえ」の枠組み:フッサール「間主観性」とハイデガー「世間」 3 自分の可能性を選びほぐす:ハイデガー「可能性」 4 現代家族と過保護:「毒親」と「心の穴」 5 虐待親が語る虐待:ナラティブ・アプローチ 6 他者は理解できるのか①:フッサール「感情移入」 7 他者は理解できるのか②: 空気を読む・雰囲気に基づく他者理解 8 つながり地獄:現象学における「他者」 9 愛するとはどういうことか①:恋愛に関する諸言説から学ぶ 10 愛するとはどういうことか②: 模図かずおから学ぶ 11 教育／ケアがはらむ独善性と暴力性:認識の変容をめぐる 12 語ることの功罪①:癒しとしての語り 13 語ることの功罪②:戦争に関する語り 14 語ることの功罪③:語りを強要すること 15 総括
授業の方法	<p>受講者の人数にもよるが、講義形式で行なう。</p> <p>毎授業の導入では、前回の授業における受講者からのリアクションペーパーへの回答を行う。</p> <p>その上で、当該授業のテーマと具体的事例ならびに考察を提示する。</p> <p>授業最後の15～20分で、受講者は当該授業のリアクションペーパーを記入する。</p>
成績評価方法	平常点(登録人数が100名を超えた場合毎授業後のリアクションペーパーで出席を管理する)と期末レポート
教科書	特に指定しない。
参考書	<p>W.ブランケンブルク 1978『自明性の喪失』みすず書房</p> <p>遠藤野ゆり・大塚類 2014『あたりまえを疑え!』新曜社</p> <p>M.ハイデガー 2003『存在と時間』中央公論新社</p> <p>穂村弘 2009『世界音痴』小学館</p> <p>E.フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店</p> <p>村上春樹 2007『東京奇譚集』新潮社</p> <p>村上靖彦 2017『母親の孤独を回復する』講談社</p> <p>野口裕二 2002『物語としてのケア』医学書院</p>

	楳図かずお 1995『おろち』秋田書店
履修上の注意・備考	特になし。 当事者意識をもった積極的な受講を期待します。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201403	担当教員	河野 桃子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育思想特論 Special Topics in Educational Thought				

授業の目的・概要	<p>R.シュタイナー(Rudolf Steiner 1861-1925)によって生み出されたシュタイナー教育(Waldorfpädagogik)を巡っては、長く、「その学校は歓迎され、その思想は敬遠される」(西平直)という状況が続いていました。しかし近年、その思想を学術的に吟味する試みは国内外ともに充実してきています。</p> <p>本授業では、まず、シュタイナー教育の実践とその背景にある後期思想(人智学)を紹介し、両者の関係についてどのような解釈がなされてきたのかを確認します。その上で、人智学を、その土台をなす哲学的な前期思想の枠組みを用いて再検討し、「自由と倫理の両立」に向けた〈教育〉のための〈神話〉として捉え直します。この取り組みのなかで、シュタイナー教育に限定されない教育一般について、「ホリスティック(全体論的、包括的)な知」という観点から得られる示唆を探求していきます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 シュタイナー教育の実践と思想(1) 幼児期の教育 3 シュタイナー教育の実践と思想(2) 児童期の教育 4 シュタイナー教育の実践と思想(3) 思春期の教育 5 気質論、十二感覚論について 6 シュタイナー教育の実践と人智学の関係を巡る議論: 批判、不問、評価 7 シュタイナー前期思想と後期思想の連続／非連続 8 通底する「エゴイズムの克服」という課題 9 『自由の哲学』における「自由と倫理の両立」: 「世界自己」と「倫理的個人主義」 10 〈教育〉のための〈神話〉としての人智学 11 知性の成果を担った「ハートの思考」の実現 12 〈神話〉の役割(1) 「この自分」の枠をゆるめる「一体となって知ること」 13 〈神話〉の役割(2) 「認識の外部」についての語りと「想像力」の誘発 14 「ホリスティックな知」による〈教育〉と教育 15 まとめ
授業の方法	<p>授業は講義形式を基本とするが、受講生や授業者が気になった点については適宜時間を取り、意見交換を行う。必要な資料等は、授業時に配布する。</p>
成績評価方法	<p>最終レポート、授業内で課すリアクションペーパー、授業への参加度に基づき、総合的に評価する。</p>
教科書	<p>指定しない。</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・シュタイナー(高橋巖訳)1989『教育の基礎としての一般人間学』筑摩書房 ・シュタイナー(松浦賢訳)1999『完全版 霊学の観点からの子どもの教育』イザラ書房 ・シュタイナー(森章吾訳)2017『自由の哲学』イザラ書房 ・今井重孝 2012『“シュタイナー”『自由の哲学』入門』イザラ書房 ・衛藤吉則 2018『シュタイナー教育思想の再構築—その学問としての妥当性を問う』ナカニシヤ出版 ・西平直 1999『シュタイナー入門』講談社 ・吉田敦彦 1999『ホリスティック教育論—日本の動向と思想の地平』日本評論社 <p>その他、授業内で指示する。</p>

履修上の注意・備考

シュタイナー教育は、しばしばその実践や思想の特殊性にのみ焦点化され、内容を深く知る手前で拒絶されてしまうことも少なくありません。授業時に説明を聞くなかで違和感をもつ場面もあるかもしれませんが、そうした違和感もオープンに共有しながら、「異文化理解」の姿勢で、そこからどのような新しい視点が得られるのかを一緒に探求してほしいと思います。

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09201404	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>4月3日 オリエンテーション <教育における「バリア」></p> <p>4月10日 教育のバリアフリーとICT利用(近藤先生)</p> <p>4月17日 「非行少年」からみた学校というバリア(小国) ゲスト: 渡邊洋次郎氏</p> <p>4月24日 学校組織における包摂と排除(二羽先生) <身体機能を通してみる「バリア」></p> <p>5月1日 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)</p> <p>5月8日 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生) <語り／言葉をめぐる「バリア」></p> <p>5月15日 当事者研究の可能性(熊谷先生)</p> <p>5月22日 障害者の語り(能智先生)</p> <p>6月5日 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生) <ゲスト講義></p> <p>6月12日 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生)) <社会のひずみとしての「バリア」></p> <p>6月19日 災害におけるバリア／障害と社会構造(仁平先生)</p> <p>6月26日 社会現象としての「障害」(星加先生)</p> <p>7月3日 「バリア」の認識論(星加先生)</p>
授業の方法	<p>この授業は、S1についてはガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。S2についても、コロナウィルスの収束がなければオンラインでの開講となります。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行う。リアクションペーパーについては、ITC-LMS を用いて集めます。ただし初回については google フォームを用います。(関連ホームページの欄を参照してください)</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>また、初回のリアクションペーパーの提出先については、「関連ホームページ」欄をご覧ください。講義終了後 10 分以内に提出してください(それ以降の提出は無効とします)</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09201501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名が教育哲学、小玉と片山が教育人間学・教育思想、小国が日本教育史、田中・大塚が教育臨床学・教育実践論を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	<p>この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。</p> <p>第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ</p>
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースで卒業論文を執筆する者は必ず登録すること。
教育職員免許法上の認定科目	

教育社会科学専修

時間割コード	09202301	担当教員	橋本 鉦市		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	高等教育の社会学 Sociology of Higher Education				

授業の目的・概要	<p>専門教育・専門職養成は、中世以来、大学教育の最も中核的な機能の一つであるが、近年、現場における専門的業務(「働き方」との関連や制度的な改編(「専門職大学」など)、制度・教育内容両面にわたって改革が急である。この授業では、大学・大学院における教員養成をはじめとする様々な領域の専門(職)教育について、その理念、制度、政策、カリキュラムなどについて学修し、専門教育・専門職養成に関する知見と洞察を深める。</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクションー講義内容の説明</p> <p>第2回: 専門職(教育)の社会学: 専門職の定義・歴史</p> <p>第3回: 高等教育セクターにおける専門職養成ー専門職性をめぐる議論</p> <p>第4回: 大学・国家による統制ー入学試験・国家試験などによる量のバランス</p> <p>第5回: 専門職集団の戦略ー報酬の確保と職域の拡大</p> <p>第6回: 現場における「(初期)研修」ー専門業務の質保証</p> <p>第7回: 専門職個人における発達ーキャリア形成、プロフェッショナリズム</p> <p>第8回: 専門職の「働き方」ークライアント対応と過重労働</p> <p>第9回: 専門(学部)教育の改編と変容(制度面)ー事例研究(グループワーク)</p> <p>第10回: 専門(学部)教育の改編と変容(内容面)ー事例研究(グループワーク)</p> <p>第11回: 専門職大学院の成立と評価ー事例研究(グループワーク)</p> <p>第12回: 専門職大学の制度化ー事例研究(グループワーク)</p> <p>第13回: 総括ー今後の課題と展望</p>
授業の方法	<p>毎回、様々な重要論文を取り上げ、授業の前半はその内容紹介とレビューを担当・発表するという形で、基本的に演習方式で進める。また後半は事例研究をグループ・個人で手がけてもらうことを予定している(受講生数による)。</p>
成績評価方法	<p>テキストレポート(40%)、討論への参加度(20%)、期末レポート(40%)</p>
教科書	<p>リーディングスはコピーを用意する。随時指定。</p>
参考書	<p>橋本鉦市編 2009『専門職養成の日本的構造』玉川大学出版部</p> <p>橋本鉦市編 2015『専門職の報酬と職域』玉川大学出版部</p> <p>橋本鉦市編 2019『専門職の質保証ー初期研修をめぐるポリティクス』玉川大学出版部</p> <p>市川昭午 2015『教職研修の理論と構造 養成・免許・採用・評価』教育開発研究所</p> <p>市川昭午編 1986『教師=専門職論の再検討』教育開発研究所</p>
履修上の注意・備考	<p>事例研究をグループで進める予定のため、出席を重視する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学</p>

時間割コード	09202302	担当教員	日下田 岳史		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	教育経済学 Seminar in Economics of Education				

授業の目的・概要	人間はなぜ教育を受けるのでしょうか。この問いに答えるための理論の習得と、その理論に関連する多変量解析の方法の習得が、本講義のねらいです。なお本講義は、社会調査士カリキュラム上の E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育と財市場 2 教育と労働市場 3 教育と資本市場 4 大学教育の内部収益率の計測 5 人的資本投資量に影響を与える諸要因 6 教育収益率の計測のための回帰モデル 7 単回帰分析 8 重回帰分析とミンサー型賃金関数 9 重回帰分析に関連する諸課題 10 進学機会を規定する様々な経路(パス解析①) 11 進学機会を規定する様々な経路(パス解析②) 12 教育から期待できる様々な便益に対する主観的評価(因子分析①) 13 教育から期待できる様々な便益に対する主観的評価(因子分析②)
授業の方法	主に講義形式です。ただし演習の時間を設けたいと考えています。演習の頻度は、履修者の皆さんの意見を聞いて決めたいと思います。
成績評価方法	提出課題の内容に基づいて成績を評価します。提出課題は、学期中に 3 回前後出題する予定です。
教科書	指定しません。
参考書	<p>【教育経済学に関連する参考書】</p> <p>ベッカー・G・S(1976)『人的資本 教育を中心とした理論的・経験的分析』東洋経済新報社。</p> <p>金子元久・小林雅之(2000)『教育の政治経済学』放送大学教育振興会</p> <p>矢野真和(2007)『[オンデマンド版]高等教育の経済分析と政策』</p> <p>【多変量解析の方法に関連する参考書】</p> <p>南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎 統合的理解のために』</p>
履修上の注意・備考	ノートパソコンを教室に持参するようお願いする場合があります。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義と演習を行います。履修者の皆さんに連絡事項がある場合、UTAS 上の掲示板を使って連絡を行います。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学期	S1	時限	火 4, 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題 Change and Problems of Japanese Society				

授業の目的・概要	<p>日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。</p> <p>一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。</p>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:日本社会の変容</p> <p>第3回:日本の教育の特徴</p> <p>第4回:教育格差</p> <p>第5回:教育機会と教育費</p> <p>第6回:教育政策と教育実践</p> <p>第7回:子どもの貧困</p> <p>第8回:社会意識・政治意識</p> <p>第9回:少子化の背景</p> <p>第10回:仕事と家族</p> <p>第11回:働き方の問題</p> <p>第12回:連帯の変容</p> <p>第13回:日本のオルタナティブ</p>
授業の方法	<p>文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。</p> <p>授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。</p>
成績評価方法	<p>授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。</p>
教科書	<p>文献等は本授業の初回で提示する。</p>
参考書	<p>本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年</p> <p>本田由紀『社会を結びなおす』岩波ブックレット、2014年</p> <p>本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年</p>
履修上の注意・備考	<p>現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202304	担当教員	恒吉 僚子		
単位数	2	学期	A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	国際比較から見た日本の教育の特徴—可能性、課題、使命 Japanese Education from a Cross-National Perspective—Possibilities, Challenges, and Mission				

授業の目的・概要	<p>グローバル化した今日、一国の教育も様々な国際的文脈の中で初めて理解できる面が少なくない。本講義では、日本の教育が国際的に見て何が特徴であり、何が長所であり、何が課題なのか。他の東アジア諸国と比べた場合はどうなのか、先進諸国の枠組みで見るとどうなのか、アジアの枠組みでは・・・等の軸を変えながら、日本の教育の今について、国際的視野から考える。この過程で、二時間続きであるという利点を生かし、近隣の学校を訪問しながら、「生きた」知識として日本の学校を国際的文脈に位置づけながら理解してゆくことを目指している。</p> <p>内外のゲスト・スピーカーの話題提供(通訳付)、状況によって学校訪問、可能でない場合は映像、を含む二時間続きの講義のため、両方参加できることが前提となっている。</p>
授業計画	<p>第一、二時間目</p> <p>日本の学校の国際的特徴とは何か。1) 今日、各国をランキングする国際学力テストが各国の教育改革に影響するようになっている。そうした中、各国で参照される国際学力テストの中から、日本人生徒の学力や教師の働き方、大学ランキングとそれらをめぐる議論を考察する。他の東アジアとの比較、大学と高等学校以下の比較、課題とされる国際化に関連した指標等を議論する。2) 今日、日本の学校教育モデルは各国に参照されている。国際的に見た日本の教育の「先進性」とは何なのか。逆に「後進性」は。具体的な国際化した日本の教育モデルの検討を通して前者を、「後進性」は日本の教育のアキレス腱、国際化と多文化共生の問題を取りあげる。</p> <p>この時間に見た日本の教育の特徴を体験的学習を通して見るために、次週は学校訪問を予定しているが、その際に学校を見る方法としてのフィールドノーツのとり方に触れる。短い演習をする。</p> <p>第三、四時間目</p> <p>近隣の学校訪問。日本の改訂された学習指導要領は2020年度から小学校で実施され、順次、中学校、高等学校で展開される。その最初の展開の様子を観察する(小学校)。特に改訂で新しく変化した部分(例 外国語教育)に注目する。フィールドノーツをとる。</p> <p>第五、六時間目</p> <p>学習指導要領の改訂の内容を理解する。それと前の週に見た小学校の学校観察の内容を議論する。国際的に評価されてきた日本の教育の側面がどのような状況にあるのか。どのようなメカニズムで変化ないし維持されているのか。国際的に後進性を持つとされてきた日本の教育はどのようにになっているのか。なぜか。グループでの議論を含む。</p> <p>第七、八時間目</p> <p>近隣中学校(高等学校)への訪問。新しい学習指導要領の実施を前に何が起きているのかをノーツをとる。</p> <p>第九、十時間目</p> <p>前の週での観察を受けて、分析をする。21世紀の課題に対応しようと日本で起きている教育の改革は、東アジアの受験社会や世界各国で共有しているものが多い。特定の国々ないし地域を選び、日本の教育と比較してゆく。日本の先進性と言われている「全人的」な教育、教科面だけでなく、教科以外の社会性や人格形成を含んだ教育に関する教育と、日本教育のアキレス腱と言われる民族・人種他の多様性への対応、国際化の二点を軸にする。</p> <p>外国人客員教授(東南アジア)による話、上記軸に関連した各国の教育の映像等を用いる。</p> <p>第十一、十二時間目</p> <p>幼児教育の場を見学する。</p> <p>第十三、十四時間</p> <p>幼児教育から高校までの教育例を振り返りながら、当初の問題関心、国際比較から見た日本の学校、教育について考える。グループ発表(終わらない場合)</p>

	レポートの書き方についての指導をする。
授業の方法	講義と学校見学、グループ討論等を組み合わせる
成績評価方法	通常の授業での参加度 30% ミニ・レポート(講義に関係した内容で A4三枚以内) 50% 3回の教育機関訪問のうち1回の記録(フィールドノーツ) 20%
教科書	なし
参考書	随時指定
履修上の注意・備考	学校訪問がしやすいように、二時間続きの講義です。必ず二時間受講してください。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202305	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、古典から最新のものまで(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:社会学とは何か 第3回・第4回:デュルケム 第5回・第6回:ジンメル 第7回・第8回:ウェーバー 第9回・第10回:パーソンズ 第11回・第12回:マートン 第13回・第14回:ルーマン 第15回:全体の振り返りとまとめ
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。それに加えて各回の担当者が詳細なレジメを作って発表し、その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	佐藤俊樹『社会学の方法－その歴史と構造』ミネルヴァ書房 奥村隆『社会学の歴史 I』有斐閣アルマ
参考書	各回に関する参考文献を前回までに提示する。
履修上の注意・備考	事前に「教育社会学概論」を履修していることが望ましい。 社会学史の幹となる「巨人」たちの思考方法をたどることにより、社会学という学問の固有の特性を理解することができる内容であるため、社会学系の大学院への進学を考えている者はもちろん、幅広い社会科学系の学問分野および仕事分野の基礎教養として役立つ。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09202306	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	教育行政調査演習Ⅲ Seminar in Field Research on Educational Administration III				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。本演習は原則として教育行政調査演習Ⅱとあわせて履修する。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、実地調査、小グループ並びに全体での討議、報告書の作成。
授業の方法	大学での討議と実地調査を組み合わせで行う。時間割上に設定された時間以外に調査に出かける場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席と報告書の執筆による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202307	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	教育行政調査演習Ⅳ Seminar in Field Research on Educational Administration IV				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。本演習は原則として教育行政調査演習Ⅰとあわせて履修する。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、実地調査、小グループ並びに全体での討議、報告書の作成。
授業の方法	大学での討議と実地調査を組み合わせで行う。時間割上に設定された時間以外に調査に出かける場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席と報告書の執筆による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	大学での討議と実地調査を組み合わせで行う。時間割上に設定された時間以外に調査に出かける場合も生じることに留意してほしい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202308	担当教員	橋野 晶寛		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育行政・学校経営演習VI Seminar in Educational Administration and School Management VI				

授業の目的・概要	<p>この授業では、データ分析を通じて、教育行財政・政策、学校経営の諸課題を学ぶ。教育機会・学力、教育費、教員の労働環境、教員評価・学校評価、教育政策をめぐる政治などを題材として、自分でデータ分析を実行してみることを通じて、これらのトピックについてより深い理解を得ることを目標とする。</p> <p>また、実際の研究・実務で用いられる基本的な手法について、その考え方、統計ソフト等の操作、適用例を一体的に理解するとともに、受講後には既存の実証研究を読みこなし、卒業論文にむけて建設的な研究計画の提案ができるようになることが期待される。</p>
授業計画	<p>扱う教育政策・行財政・経営に関するトピックは以下のものを予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育機会・学力 ・教育費・教育財政 ・教員の労働環境・メンタルヘルス ・教員評価・学校評価 ・中央・地方自治体の教育政策における政治過程 <p>授業はデータ分析の手法に沿って構成する。データ分析の手法に関して取り扱う事項は下記の通りである(受講者の関心・理解に応じて変更する可能性あり)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問いの立て方 2. 記述統計(代表値、ばらつき・不平等の測度) 3. 量的・質的変数における相関 4. 多変量解析の考え方 5. 最小二乗法による線形回帰モデル 6. 線形回帰モデルの応用 7. 確率変数と確率分布 8. 統計的検定 9. 最尤法 10. 二項選択モデル 11. 順序選択モデル・多項選択モデル 12. 計数回帰モデル 13. 既存研究の検討
授業の方法	データ分析の実習、課題発表による。
成績評価方法	平常点(授業参加・課題発表、30%)および期末レポート(70%)に基づいて評価する。
教科書	特に指定しない。講義ノートおよび資料を配布する。
参考書	・畑農鋭矢・水落正明(2017)『データ分析をマスターする 12 のレッスン』有斐閣。
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回以降は、パソコンを持参すること。 ・データ分析の実習には Excel およびフリーソフト R を用いる。 ・授業の内容は初学者向けであり、データ分析の知識、統計ソフトの操作・プログラミング等の経験については一切問わないが、予習および課題に十分な時間を確保して臨むことを前提とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202309	担当教員	李 正連		
単位数	2	学期	A1	時限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I				

授業の目的・概要	本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション&「学び」とは何か、教育福祉について考える。 第 2 回 問題の所在(第 1 章～第 4 章) 第 3 回 実践の諸相(第 5 章～第 8 章) 第 4 回 実践から学ぶ①実践現場の見学 第 5 回 課題と展望(第 9 章～第 12 章) 第 6 回 実践から学ぶ②ゲストスピーカーによる特別講義 第 7 回 全体のまとめ(第 13 章)
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。 なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読表、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	岩槻知也編著『社会的困難を生きる若者と学習支援—リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』明石書店、2016年 その他、授業で随時提示する。
参考書	授業で随時紹介する。
履修上の注意・備考	初回の授業では発表の順番や履修方法について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 授業での積極的な発言・参加を求める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学期	A2	時限	月 3, 月 4
講義題目	社会教育学演習Ⅱ Seminar in Adult and Lifelong Education II				

授業の目的・概要	都市における市民の学習・文化活動の実態はどのようなものか。それが都市の形成とどのように作用しあいながら営まれてきたか。行政はそうした活動をどう支えているか。基本文献の講読、東京都もしくは近郊の自治体のケーススタディ(教育行政職員へのインタビュー、社会教育施設への訪問調査等)をつうじて探る。
授業計画	(1)オリエンテーション、(2)基本文献購読、(3)近郊都市への訪問調査、(4)調査のまとめ作業 からなる。
授業の方法	文献講読とフィールドワークによる。
成績評価方法	出席および授業への参加状況により判断する。
教科書	初回に提示する。
参考書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	フィールドワークを交えた授業のため、無断遅刻欠席は避けること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202311	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1	学期	通年	時限	金 6
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	実習は、事前のオリエンテーション、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけではなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事前事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	使用しないが、以下の「博物館実習ガイドライン」を参照。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	<p>・履修するには、原則として前年に、博物館概論(教育学部)、文化施設経営論(文学部)、博物館資料論(文学部)、博物館資料保存論(理学部)、博物館教育論(教育学部)、博物館展示論(文学部)、博物館情報・メディア論(教育学部)のうち最低二つを受講していることが必要である。詳細は相談に応じるので、これらの科目未履修者はオリエンテーションまでに申し出ること。</p> <p>オリエンテーションを行うため、授業初回(出席不可能な場合は第二回)に必ず出席すること。例年欠席者が多いので必ず出席のこと。不明点等はメールにて問い合わせること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202312	担当教員	海野 敏		
単位数	2	学期	S2	時限	月 1, 月 2
講義題目	情報組織論演習 Seminar in Information Organisation				

授業の目的・概要	<p>伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の 2 つの中心であった。21 世紀、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代になって、目録、分類を初めとする情報組織化の理論と実践は発展し、ますます重要になっている。</p> <p>本授業のテーマは、分類やインデクシング(索引語付与)など、主題分析に基づいた情報組織化である。本授業の目的は、主題分析に基づいた情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および主題分析の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した主題目録法(分類法・件名法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつあるインデクシングの理論と技法を学ぶパートから構成する。(3)では、分類・インデクシングという行為の形式化の問題や技術的な動向、理論的境界の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を行う予定。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入: 情報社会における情報組織化と図書館 2. 分類(1): 区分の原則[実習を含む] 3. 分類(2): 主題分類の歴史と現在 4. 分類(3): 日本十進分類法(NDC)の基礎[実習を含む] 5. 分類(4): 自然分類と人為分類 6. 分類(5): 日本十進分類法(NDC)の応用[実習を含む] 7. 分類(6): クラスタリングと自動分類 8. 分類(7): NDLC・DDC・UDC・CC[実習を含む] 9. 件名(1): 語彙統制の意義と実践 10. 件名(2): 基本件名標目表(BSH)[実習を含む] 11. インデクシング(1): 分類からインデクシングへ 12. インデクシング(2): シソーラス[実習を含む] 13. インデクシング(3): フリータームと順位付け出力 14. インデクシング(4): 自動索引の技術 15. まとめ: 識別・代替・構造化
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて実習を行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回資料を配布する予定。
成績評価方法	授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。
教科書	使用しない。毎回オリジナルの資料を配付する。
参考書	以下の 2 点のほかは授業中に随時紹介する。 ・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房, 1998. ・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会, 2013.
履修上の注意・備考	本講義は司書資格のための必修科目である。しかし、司書資格の取得をめざさない学生も、体系的な理解のためには「情報組織論」(隔年開講)を合わせて履修することが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202313	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	S1	時限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習 I Seminar of Research on Teaching and Curriculum I				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]</p> <p>この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究方法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、教育評価、教師に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。 2. 授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、教育評価、教師に関して、研究課題を設定し、探究する。 3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。 4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。 <p>[授業の概要]</p> <p>教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教育内容(リテラシー)、評価、教師などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実践の課題 授業・教師・カリキュラム・教育内容・教育評価</p> <p>第2回 教育実践の研究手法(1) フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法)</p> <p>第3回 教育実践の研究(1)フィールドワーク</p> <p>第4回 教育実践の研究(2)報告会①</p> <p>第5回 教育実践の研究手法(2) 歴史研究・ナラティブ研究</p> <p>第6回 教育実践の研究(3)文献調査</p> <p>第7回 教育実践の研究(4)報告会②</p>
授業の方法	<p>第1回は、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。</p> <p>第2回～第7回は、主として教育研究の方法を学び、調査とその報告を行う。</p>
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書</p> <p>秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー:学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会</p> <p>佐藤学『教育方法学』岩波書店</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会</p> <p>このほか、授業中に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>本授業は、S1 タームに開講される2時間連続の授業である。</p> <p>情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202401	担当教員	藤原 翔		
単位数	2	学期	S1S2	時限	水 3
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology				

授業の目的・概要	<p>教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・度数分布表 ・基本統計量 ・相関係数 ・確率モデルと統計的推定 ・統計的検定 ・平均値の差の検定 ・クロス集計と独立性の検定 ・多重クロス集計とエラボレーション ・回帰分析 ・偏相関と重回帰分析 ・回帰モデルの説明力と検定 ・回帰分析の応用 <p>(以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)</p>
授業の方法	<p>教科書の主要部分を用いて講義を行う。R による実習もあるので、授業時にはノート PC などを持参することが望ましい。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。</p>
成績評価方法	<p>課題レポート 60%、期末試験 40%</p>
教科書	<p>杉野勇『入門・社会統計学——2 ステップで基礎から[R で]学ぶ』(法律文化社、2017 年)</p>
参考書	<p>轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第 3 版]——2 ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2017 年)</p>
履修上の注意・備考	<p>「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。</p> <p>「教育社会学調査実習」を履修しない学生が多数、この講義を履修すると見込まれる場合は、受講者数の調整を行う場合がある(詳細は初回の授業で説明する)。</p> <p>この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学</p>

時間割コード	09202402	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2	学期	S2	時限	火 3, 火 4
講義題目	フィールドワークの理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork				

授業の目的・概要	<p>エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワークを演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。</p>
授業計画	<p>第 1 回 質的調査とはなにかー多様な質的調査の実例(フィールドワーク、参与観察、インタビュー、ライフヒストリー、事例研究、ドキュメント分析)</p> <p>第 2 回 エスノグラフィーのプロセスと実例</p> <p>第 3 回 調査者のフィールドでの役割と関係性</p> <p>第 4 回 参与観察の方法ー現場のメモからフィールドノーツへ</p> <p>第 5 回 小学校における参与観察(1)</p> <p>第 6 回 小学校における参与観察(2)</p> <p>第 7 回 フィールドノーツの書き方と分析メモ</p> <p>第 8 回 フィールドノーツの分析方法ーグラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第 9 回 フィールドノーツの分析実践と発表</p> <p>第 10 回 インタビューの基礎知識と実践</p> <p>第 11 回 インタビューデータの分析</p> <p>第 12 回 エスノグラフィーの書き方</p> <p>第 13 回 プロジェクトのグループ発表</p>
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	<p>小田博志 2010 『エスノグラフィー入門ー〈現場〉を質的研究する』春秋社.</p> <p>佐藤郁也 2007 『フィールドワーク増訂版ー書を持って街へ出よう』新曜社.</p>
参考書	<p>エマーソン, R. 1998. 『方法としてのフィールドノートー現地取材から物語作成まで』新曜社.</p> <p>佐藤郁也 2002 『フィールドワークの技法ー問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社.</p> <p>藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー:新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社.</p>
履修上の注意・備考	学校フィールドワークを通じたデータ収集と分析が中心になるので、学校訪問日は必ず出席すること。積極的にディスカッションに参加して発言することを期待する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09202403	担当教員	知念 渉		
単位数	2	学期	S2	時限	金 4, 金 5
講義題目	不良少年の社会学 Sociology of Delinquent Youth				

授業の目的・概要	<p>不良少年とは何か。誰が不良少年になるのか。こうした問いについて考えようとするれば、その社会の規範や価値、社会制度について考えざるを得ない。なぜなら、どのような存在を不良少年と捉えるかは社会によって様々であるし、社会制度のあり方によって誰が不良少年になるかは変わってくるからである。その意味で、不良少年という存在について考えることは、社会の規範や価値、制度について考えることでもある。</p> <p>本授業では、とりわけ 2000 年代以降の現代日本における不良少年の生活の仕方(=文化)と不良少年に対するまなざしについて検討し、日本社会の規範や価値、制度を考察する。</p> <p>そうした作業を通じて、自己を合理的で他者を非合理的な存在と捉えてしまう私たちの思考の習慣を反転させること、すなわち自己を非合理性と他者の合理性を捉える視座を身につけることを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不良少年の社会学とは？ 2. 不良少年をめぐる学術的議論 3. 不良少年を分析するための学校教育批判の思想1:P. ウィリス 4. 不良少年を分析するための学校教育批判の思想2:P. ブルデュー 5. 〈ヤンチャな子ら〉の学校経験 6. 〈インキャラ〉とは何か 7. 〈ヤンチャな子ら〉の家族経験 8. 〈ヤンチャな子ら〉の仕事への移行 9. 不良少年言説の検討1:不良・ヤンキー・暴走族という言説 10. 不良少年言説の検討2:キレル 17 歳・心の闇 11. インターネット空間の不良少年言説:DQN に着目して 12. 不良少年言説と排外主義 13. 他者の合理性と自己の非合理性を問う
授業の方法	<p>事前に教科書の内容を読んできてもらい、それを前提にして、より発展的な内容を様々な資料を用いながら検討する。</p> <p>授業内にディスカッションの時間を設けるので、積極的な発言・参加を求める。</p>
成績評価方法	<p>毎回のリアクションペーパー(30%)、授業外学習の課題(20%)、最終レポート(50%)。</p>
教科書	<p>知念渉, 2018, 『〈ヤンチャな子ら〉のエスノグラフィー ヤンキーの生活世界を描き出す』青弓社。</p>
参考書	<p>ウィリス, P., 熊沢誠・山田潤訳, 1977=1996, 『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房。</p> <p>ブルデュー, P., 石井洋次郎訳, 1979=1996, 『ディスタクシオン』I・II, 藤原書店。</p> <p>桜井哲夫, 1997, 『不良少年』筑摩書房。</p> <p>難波功士, 2009, 『ヤンキー進化論』光文社。</p> <p>岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣。</p> <p>その他、授業中に随時紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>本授業では、事前に教科書の指定された範囲を読み込み、それに対する疑問や批判をまとめた文章を提出することを授業外学習の課題として課す。</p> <p>受講者の数や関心によって、授業の内容等を変更する可能性がある。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202404	担当教員	小川 義和		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 6
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	<p>博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。</p> <p>博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。</p>
授業計画	<p>第1回 博物館教育の意義と理念(1) 学びの意義</p> <p>第2回 博物館教育の意義と理念(2) 博物館教育の範囲</p> <p>第3回 博物館教育の意義と理念(3) 博物館教育の特徴</p> <p>第4回 博物館教育の意義と理念(4) 博物館教育の歴史</p> <p>第5回 博物館教育の意義と理念(5) 生涯学習の場としての博物館</p> <p>第6回 博物館教育の意義と理念(6) 人材養成の場としての博物館</p> <p>第7回 博物館教育の意義と理念(7) 博物館における学びの特性と学習理論</p> <p>第8回 博物館教育の意義と理念(8) ミュージアムリテラシーの理念と構成</p> <p>第9回 変化する社会における博物館教育(1) コミュニケーションとしての博物館教育</p> <p>第10回 変化する社会における博物館教育(2) 博物館の利用実態と利用者の博物館体験</p> <p>第11回 変化する社会における博物館教育(3) 博物館教育の方針と評価</p> <p>第12回 博物館教育の実際(1) 博物館教育活動の手法(館内、館外)</p> <p>第13回 博物館教育の実際(2) 博物館教育活動の企画と実際</p> <p>第14回 博物館教育の実際(3) 博物館教育と学校教育</p>
授業の方法	<p>各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。</p> <p>受講生は最終回に課題を提出する。</p>
成績評価方法	講義の出席、各回の提出報告書及び最終課題で判断する。
教科書	使用しない。
参考書	<p>ジョージハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社、2010)</p> <p>全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版、2012)</p> <p>小川義和・五月女賢司編著「挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ!!」(ジダイ社、2018)</p> <p>小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」(ジダイ社、2019)</p>
履修上の注意・備考	<p>受講生が主体的に、自主的に博物館を見学し、多様な博物館の様子を把握することをすすめる。また見学した博物館の現状や課題について講義中に共有するように心がける。なお博物館の見学料金や交通費な自己負担とする。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202405	担当教員	前原 健二		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	比較教育行政論—現代ドイツの学校改革を中心に— Comparative Study of Educational Administration: Focusing on Education Reform in Contemporary Germany				

授業の目的・概要	<p>この講義は、教育という大きな社会システムの維持や改革の動き方を具体的に知り、なぜシステムが変わったり変わらなかったりするののかというメカニズムの一端についての理解を獲得すること、及びそうした分析のための方法論についての理解を獲得することである。</p> <p>第 2 次大戦後のドイツの学校制度改革の動向を、教員・学校・学校制度という三つの位相において、順を追って整理、検討する。特にこの 20 年間ほど、ドイツの学校制度は大きく変転を繰り返しているの、その概要、なぜそういう状況になっているのかという動因を考察する。また教育制度論にとってそれが意味するところについても考察する。</p> <p>関連して、現代日本の教育システム改革の動向についても考察する予定である。</p> <p>以上は予定であり、受講者の状況や必要に即した変更がありうる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義の概要の説明、日本とドイツの教育制度について、いくつかの方法論的限定</p> <p>第2回 ドイツの学校制度の歴史と概要</p> <p>第3回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(1)学校監督論争</p> <p>第4回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(2)教員評価</p> <p>第5回 「教員の教育上の自由」をめぐる教育改革(3)教員研修</p> <p>第6回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(1)外的改革から内的改革へ</p> <p>第7回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(2)学校の自律化と競争</p> <p>第8回 「学校の自律性」をめぐる教育改革(3)学校の自律性と教育の機会均等の理念</p> <p>第9回 補論:学校自治論と学校の自律論・日本の場合</p> <p>第10回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(1)学校制度改革の提起と破綻</p> <p>第11回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(2)1990年代:二分岐型の原型の提起</p> <p>第12回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(3)PISA ショック:学校制度改革の再燃</p> <p>第13回 分岐型学校制度をめぐる教育改革(4)学校制度改革の迷走</p> <p>第14回 ドイツの学校制度改革史の理論モデル</p> <p>第15回 日本の学校制度改革との比較検討:経路依存性と制度的補完性の観点を中心に</p>
授業の方法	<p>各回、講師による講義を行う。</p> <p>講義内容についての質疑・議論を行う。</p> <p>毎回の講義後に、短いコメントを提出してもらう予定である。</p>
成績評価方法	<p>期末レポートによる。</p> <p>毎回講義時のコメントを若干加味する。</p>
教科書	使用しない。
参考書	ヘルマン・アベナリウス『ドイツの学校と教育法制』結城忠ほか訳、教育開発研究所、2007年 そのほか随時紹介する。
履修上の注意・備考	ドイツ語及びドイツの教育についての基礎知識は必要としない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202406	担当教員	池田 貴城		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 6
講義題目	教育法 Educational Law				

授業の目的・概要	我が国の教育関係法令の体系を理解しつつ、教育基本法・学校教育法をはじめとする主要な法律の構造や内容、最近の改正の動向などを学ぶことによって、今後の教育政策のあり方や教育現場が直面する重要課題への対応策について考察する上での基礎を培うことを目標とします。
授業計画	第1回 ガイダンス(法令を学ぶ上での基礎、教育関係法令の体系) 第2回 教育基本法 第3回 学校教育法 第4回 地方教育行政制度 第5回 義務教育諸学校における教職員定数・給与 第6回 地方教育行政のあり方(グループ・ワークによる議論) 第7回 スポーツ・文化の振興 第8回 教育公務員制度 第9回 教員の資質能力の向上 第10回 教員の資質能力の向上(グループ・ワークによる議論) 第11回 生涯学習、社会教育 第12回 高等教育(1) 第13回 高等教育(2)
授業の方法	講義形式
成績評価方法	①筆記試験(70%)、②授業への出席状況、授業における議論への貢献度及びレポート(30%)に基づいて評価します。
教科書	講師が最新の情報も含めた資料を用意します。
参考書	授業では直接使用しませんが、授業内容の理解を深める上での参考図書として、以下の文献を挙げておきます。 「教育法講義 ― 教育制度の解説と主要論点の整理」(尾崎春樹、悠光堂) 「新訂第5版 やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦、教育開発研究所)
履修上の注意・備考	授業は、原則として講義形式を中心に行いますが、第6回及び第10回はそれまでに学んだことを前提としてグループ・ワークによる議論を行う予定です。 講師は現役の国家公務員(文部科学省職員)であるため、受講生の中に公務員志望者がいる場合は、必要に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れたり、文部科学省の若手職員を招いて懇談をしたりする機会も作りたいと考えています。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目:(社)法律学、(公)法律学(国際法を含む)

時間割コード	09202407	担当教員	橋野 晶寛		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	教育政策研究方法論 Research Design and Methods of Education Policy Studies				

授業の目的・概要	この授業では、教育行財政・学校経営に関する計量分析の方法について学ぶ。実際の実証分析で用いられる手法について、その原理、統計ソフトの操作・プログラミング、研究・実務における適用を一体的に理解する。教育行財政・政策、学校経営に関するデータ・実証研究を実習・文献輪読の題材とし、データ分析の方法だけでなく、これらのトピックに関しても理解を深めることを目指す。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近年の教育政策研究の動向と問題意識 2. パネル・クラスターデータ分析 I: 基本的な考え方 3. パネル・クラスターデータ分析 II: 教員評価・学校評価における付加価値モデル 4. パネル・クラスターデータ分析の応用 III: 階層モデル 5. パネル・クラスターデータ分析の応用 IV: メタアナリシス 6. 文献検討 7. 制限的従属変数の回帰モデル 8. 政策評価における諸問題 9. 因果的推論の諸手法 I 10. 因果的推論の諸手法 II 11. 因果的推論の諸手法 III 12. 因果的推論の諸手法 III 13. 文献検討
授業の方法	講義・文献輪読と、データ分析の実習を併用する。
成績評価方法	平常点(授業参加・課題発表、30%)および期末レポート(70%)に基づいて評価する。
教科書	特に指定しない。講義ノートまたは関連資料を配布する。
参考書	・Murnane, Richard J. and John B. Willett (2010) Methods Matter: Improving Causal Inference in Educational and Social Science Research, Oxford University Press.
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回以降は、パソコンを持参すること。 ・データ分析の実習にはフリーソフト R を用いる。 ・この授業は大学院生と合同であり、「教育行政・学校経営演習 VI」(学部 S1S2)の発展的内容を扱う。「教育行政・学校経営演習 VI」を履修済み、もしくは取り扱っている分析手法を理解していることを受講要件とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202408	担当教員	山内 祐平		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 3
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	<p>学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。</p> <p>知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る</p> <p>技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける</p>
授業計画	<p>2020/04/07 オリエンテーション 授業の概説</p> <p>2020/04/21 デジタル教材概論 領域の概論</p> <p>2020/04/28 ゲストトーク(宇治橋祐之) 放送とデジタル教材</p> <p>2020/05/12 初等中等教育での展開 Khan Adademy</p> <p>2020/05/19 高等教育での展開 Minerva Schools</p> <p>2020/05/26 幼児教育での展開 Kits</p> <p>2020/06/02 ポートフォリオ Classi</p> <p>2020/06/09 オープンエデュケーション Coursera</p> <p>2020/06/16 シリアスゲーム Minecraft</p> <p>2020/06/23 ICTを用いたプロジェクト学習 Google for Education</p> <p>2020/06/30 構築主義的学習環境 Scratch</p> <p>2020/07/07 ワークショップ CAMP</p> <p>2020/07/14 カフェでの対話と学び UTalk</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)担当グループが事例研究を行い発表する 2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する 3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める 4)教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する
成績評価方法	<p>毎回の小レポート評価(50%)</p> <p>グループの事例研究報告の評価(25%)</p> <p>グループ議論における貢献と発見(25%)</p>
教科書	山内祐平「学習環境のイノベーション」東京大学出版会、2020
参考書	<p>山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会、2010</p> <p>山内祐平編「学びの空間が大学を変える」ポイックス出版、2010</p> <p>山内祐平・森玲奈・安斎勇樹「ワークショップデザイン論」慶応大学出版会、2013</p>
履修上の注意・備考	<p>グループワークのため履修人数制限あり(50名)</p> <p>オリエンテーション時に50名を超えた場合には授業後に抽選を行い、落選者に連絡する。</p> <p>抽選を行った場合公平性を担保するため2回目からの履修はできないので注意すること。</p> <p>新型コロナウイルス対策のため、本授業は発表者のみ対面で参加し、グループディスカッションはZOOMを用いてオンラインで行なう形式にします。各種資料はICT-LMSで提供します。</p> <p>4月7日(火)13:00よりZOOMでオリエンテーションを行ないます。</p> <p>参加する場合は以下のアドレスにアクセスしてください。</p> <p>https://zoom.us/j/308372733?pwd=RWRZVDNvWTI3c1AzdXh5ajVaaHVkdz09</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202409	担当教員	越智 豊		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 3
講義題目	英語教授法・学習法概論 An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English				

授業の目的・概要	英語の教授法と学習法を学ぶことにより、英語教育・学習に対する認識を深め、英語を学び、教える者として効果的な活動ができるようにする。学習者の個人的な英語学習や学校での授業経験を振り返るところから始め、学習者の視点、教師として押さえておくべき論点について議論しながら進めていく。言語習得や外国語教授に関する諸説・方法を概観し、実際の学習場面や教室を想定しながら、学習者としてのみならず、教える側に立っても有効な学習法・教授法を身につけられるよう方向付ける。
授業計画	<p>まず、学習者の個人的な英語学習や学校での授業経験を振り返るところから始め、「どうやって英語を身につけるか」という視点から、「何を学び、教えるべきか」という論点についても議論しながら進めていく。つぎに、語彙、発音、文法、聴解、読解、作文、会話などの学習項目別に英語教授・学習法を分析し、いままで研究されてきた言語習得に関する理論、実践されてきた主な英語教授法を解説、教室での応用について共有する。最後に、日本における英語教育・学習のあり方について実際の学習場面や教室を想定しながら議論する。</p> <p>毎回のテーマは以下のとおり。</p> <p>第1回 英語学習者としての個人的な経験とその共有／学校における生徒としての経験とその見方 第2回 どうやって身につけるか・何を身につけさせるか</p> <p>第3回 語彙・発音</p> <p>第4回 文法</p> <p>第5回 Listening</p> <p>第6回 Reading</p> <p>第7回 Writing</p> <p>第8回 Speaking</p> <p>第9回 言語習得論とその見方</p> <p>第10回 外国語教授法とその見方(1)</p> <p>第11回 外国語教授法とその見方(2)</p> <p>第12回 これからの学習法・教授法(1)</p> <p>第13回 これからの学習法・教授法(2)</p>
授業の方法	<p>学生個人の経験を互いに紹介し合うところから、ペア、グループ、全体で議論し、考えを共有していく。その後、各回のテーマについて議論し、それについての理解を深める。</p> <p>※コロナウイルスの影響を鑑み、開講当初より、教室での授業が可能になるまでの間は、下記「オンライン授業 URL」を使用する予定。</p>
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み、各回での課題と最終レポートを総合的に見て評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	<p>配布されたプリントに基づいて予習をし、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>※コロナウイルスの影響を鑑み、開講当初より、教室での授業が可能になるまでの間は、下記「オンライン授業 URL」を使用する予定。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202410	担当教員	北垣 憲仁		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 5
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館にかんする基礎的な知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養うことをねらいとする。そのために①博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、その歴史や国際比較など多面的な視点から考察できること、②博物館や博物館学・学習支援等にかんする基礎的な知識を習得すること、③博物館での体験や学習成果等をプレゼンテーションする能力を身につけること、を目標とする。この授業では、博物館の基本的な機能(資料の収集・管理、研究、展示・公開、教育・学習支援)や動物園・水族館をめぐる国際的な議論、近代以降の歴史や博物館をめぐる課題、地域社会と博物館、などを国内外の実践や歴史にそくして学ぶ。こうした内容をとおして博物館やほかの文化・教育施設の根幹にある原理を探り、これからの博物館の役割と課題を検討する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 博物館の定義 3. 博物館の目的と機能 4. 博物館の歴史①—前駆的ミュージアムと「驚異の部屋」 5. 博物館の歴史②—近代市民社会の成立と公共博物館 6. 博物館の歴史③—アメリカにおける博物館の展開 7. 博物館の歴史④—日本における博物館の展開と背景 8. 博物館の歴史⑤—戦後・現代社会と博物館 9. 命あるものを展示する—動物園・水族館の課題を生態学的視点から考える 10. 博物学の展開—ヨーロッパと日本の博物学 11. 「記憶の場」としての博物館 12. 地域博物館論 13. 博物館の法と制度 14. 拡大する博物館の概念 15. まとめ
授業の方法	講義による
成績評価方法	試験(評価比率 50%)、リアクションペーパー(同 20%)、プレゼンテーション(同 30%)による
教科書	中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕『触発するミュージアム』あいり出版、2016
参考書	<p>佐藤一子編『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』東海大学出版会、2015</p> <p>ミハエル・パーモンティエ、眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション 感性と知性を拓く想起空間』慶應義塾大学出版会、2012</p> <p>新藤浩伸『公会堂と民衆の近代 歴史が演出された舞台空間』東京大学出版会、2014</p> <p>畑潤・草野滋之『表現・文化活動の社会教育学』学文社、2007</p> <p>浜口哲一『放課後博物館へようこそ』地人書館、2000</p> <p>島田修一編『生涯学習のあらたな地平』国土社、1996</p> <p>その他授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>一口に博物館といっても館種も領域也多岐にわたるため、自分自身の専門領域を超えて幅広く関心を持ち、実際に様々な博物館を訪問して欲しい。</p> <p>ICOM: The International Council of Museums http://icom.museum/</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202411	担当教員	福島 幸宏		
単位数	2	学期	A2	時限	木 4, 木 5
講義題目	図書館・博物館情報メディア論 Information Media in Library and Museum				

授業の目的・概要	図書館・博物館等に情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、図書館・博物館等の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、様々な場面で情報を活用するための重要となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持つことも目標とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資料と情報-その過去と現在 2. 資料と情報-その未来 3. 文化資源をめぐる関係制度・法制 4. 図書館・博物館・公文書館の資料管理システムと web サイト 5. デジタル化作業の実際 6. 図書館・博物館・公文書館の情報の流通と連携 7. 文化資源を拓く
授業の方法	講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各偶数回ごとに意見等の提出を求める。
成績評価方法	授業中の発言等を通じての授業への参加(10%)、レポート(90%)を総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	指定しない。
履修上の注意・備考	様々な図書館・博物館の動向を取り上げて講義を行うので、平素からさまざまな図書館・博物館の動向に注視し、その情報発信の状況に関心を持っておくこと。特に国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル https://current.ndl.go.jp/ を毎日チェックすることが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202412	担当教員	浅田 和伸		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

授業の目的・概要	<p>“人生 100 年時代”、“Society5.0”、“SDGs”といった言葉に象徴されるように、社会が大きく変化する中で、一人ひとりの生涯を通じた学びの在り方も変わっていく。</p> <p>知識基盤社会 (Knowledge-based society) では、私的・公的の両面において生起する様々な課題に対処するために「学び」が不可欠となる。特に人生 100 年時代には、「高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会」を目指す必要があり、その重要な鍵となるのが生涯学習社会の実現である。</p> <p>また特に社会教育は、その中核的な役割を果たすべきものだが、人口減少の中での地域づくりや健康、防災といった課題との関係でも重要性が高まっている。今後は、より多くの住民の主体的な参加を得て、多様な主体の連携・協働と幅広い人材の支援により行われる「開かれ、つながる社会教育」が求められている。</p> <p>本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育について、地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに、今後の展望を考察する。</p> <p>文部科学省や地方公共団体において生涯学習政策、社会教育政策、教育行政等を担当する、あるいは担当した経験のある文部科学省職員による講義の他、関係施設への訪問の機会も設けたい。また文部科学省職員と受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え、感じながら施策の立案・推進に当たっているかを披瀝しつつ、今後の政策についてともに考える「開かれ、つながる」講義としたい。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育政策の全体像と方向性 2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題 3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題 4. 学校・地域の連携・協働、大学と地域との連携 5. 男女共同参画、共生社会に関する学習の現状と課題 6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話・意見交換、関係施設の視察等
授業の方法	講義、討議、実地調査等
成績評価方法	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする。
教科書	特になし。
参考書	講師が講義の中で必要な資料を配付する予定。
履修上の注意・備考	<p>講師との対話や討議の時間を設ける予定であるので、積極的な参加を期待する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202413	担当教員	田所 祐史		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	社会教育経営論 Management of Adult and Lifelong Learning				

授業の目的・概要	<p>社会教育概念、法制、行政、機関・施設の基礎的理解を確認した上で、地域社会を舞台に住民主体で学ぶ環境・条件と、学びの実践についてつかむことを目標とする。</p> <p>現代社会教育の現状と課題の理解、日本社会教育史の理解を通じて、理論と実践、歴史から構造的・実践的に「社会教育経営」をとらえる視座と力量を獲得することを目指す。</p> <p>また、受講生の興味関心や問題意識にもできる限り応じた柔軟な授業展開に努める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 社会教育概念 社会教育法制・社会教育行政 社会教育機関・施設(公民館・図書館・博物館) 地域社会と社会教育 日本社会教育史① 日露戦後～戦間期 日本社会教育史② 戦間期～戦時期 社会教育事業・経営の実際——公民館を例に 連携・協働① 学校教育・社会福祉・地域づくりと社会教育 連携・協働② 現代の学びの場の諸相 日本社会教育史③ 占領期 日本社会教育史④ 高度経済成長期 社会教育実践の現状と課題① (社会教育機関・施設の見学等のフィールドワークまたは理論・実践検討) 社会教育実践の現状と課題②(同上) 社会教育実践の現状と課題③(同上) 社会教育実践の現状と課題④(同上)
授業の方法	<p>・レジュメと資料プリントで講義する(適宜、映画・ドキュメンタリーなども視聴)。</p> <p>・フィールドワークの実施も受講生と検討・相談する予定。</p>
成績評価方法	期末レポート 60%、主体的な授業参加や指定課題など 40%
教科書	なし
参考書	<p>講義中に紹介する。</p> <p>『月刊社会教育』(旬報社)などで社会教育の現状や課題をつかむこと。</p>
履修上の注意・備考	<p>配布資料の熟読。映画やドキュメンタリーなど映像視聴の時間を適宜設ける。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2020年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p> <p>連絡先・方法は講義中に示す。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202414	担当教員	小田 光宏		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	情報サービス論 Information Service				

授業の目的・概要	<p>■ 授業の目標: 図書館が提供する情報サービス(レファレンスサービス)を実践するための専門的スキルに焦点を合わせながら、サービスの原理と方法を理解することが、到達目標となります。</p> <p>■ 授業の概要: 図書館が提供する「情報サービス」は、レファレンスサービス(reference service)という名前で実践されてきました。このサービスを提供するための専門的スキル(知識、技術、態度)は、情報専門職としての図書館員にとって必須のコンピテンシーと位置づけられています。この授業では、レファレンスサービスの原理と方法に関して、業務を分析することを通して確認し、その遂行に求められる実務上の知識、技術、態度の特性を検討します。</p>
授業計画	<p>おおむね次の内容を、扱う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報サービス(レファレンスサービス)の基礎知識 ・情報サービスの専門的スキル(コンピテンシー) ・日本の図書館における情報サービスの現状 ・図書館の種類に応じた情報サービスの特性 ・情報源(レファレンス情報源)の性質 ・調査相談業務(質問回答サービス)の原理 ・書誌・索引の作成原理 ・デジタル環境のもとでの情報サービス(デジタルレファレンスサービス) ・情報リテラシーの育成としての情報サービス
授業の方法	講義形式を基本としますが、参加者の意見や討議を求めるなど、インタラクティブに進めます。
成績評価方法	授業の各回で設定する事前・事後課題への取り組み(50%)と確認テスト(50%)によって、成績評価を行います。
教科書	使用しません。
参考書	小田光宏編著『情報サービス論』日本図書館協会、2012年。 その他は、授業中に、適宜、紹介いたします。
履修上の注意・備考	設定された事前・事後課題に真摯に取り組む、かつ、それに基づく討議に参加すること。履修にあたっては、この点にご留意ください。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202415	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学期	A1	時限	月 5, 木 5
講義題目	図書館情報経営論 Library and Information Center Management				

授業の目的・概要	図書館は非営利組織であるが、様々な職員が運営に関わっているため、その組織を維持し、発展させていくためには適切な経営が必要である。本講義では、こうした組織体としての図書館を適切に経営していくために不可欠である経営組織にかかわる、関連する法制度、業務体制、人材育成、各種計画の立案と評価等についての知識を学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 図書館に関わる法制度 3 職員体制・図書館を支える人々 4 業務体制 5 組織デザイン 6 キャリア 7 人材育成・動機付け 8 計画立案(1) 9 計画立案(2)ディスカッション 10 図書館予算 11 図書館評価 12 運営形態 13 まとめ
授業の方法	基本的にはレジュメを配布しつつ講義形式で進めるが、グループディスカッションなども取り入れる。
成績評価方法	試験、ディスカッションやリアクションペーパーへの返答など講義への参加度
教科書	特に指定しない。
参考書	講義中に指示する。
履修上の注意・備考	司書科目の「図書館制度・経営論」に相当する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202416	担当教員	三浦 太郎		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	図書館文化史 Library and Cultural History				

授業の目的・概要	<p>図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展してきたのだろうか。本講義では、欧米や日本の図書館の歴史を中心に論じる。</p> <p>本を手にしたとき、ふと「これって、なんでこんな形なんだろう」と思ったり、近所の公立図書館や大学図書館で勉強していて、なんとなく「図書館って、いつ頃からあるのか」と疑問に感じたことがあるかもしれない。この授業では、図書や図書館にまつわるいくつかのトピックを拾いながら、その成り立ちや移り変わりについて理解を深めることをねらいとする。なかでも「近代公立図書館」という考え方が誕生した背景や、そうした考え方が日本に入ってきた経緯に焦点を合わせたい。</p>
授業計画	<p>第1回 文字の誕生と古代アレクサンドリア図書館</p> <p>第2回 中世修道院図書室と黙読文化</p> <p>第3回 グーテンベルクの印刷革命</p> <p>第4回 ドイツ図書館学思想の誕生</p> <p>第5回 米国ソーシャル・ライブラリーの成立</p> <p>第6回 米国パブリック・ライブラリーの成立</p> <p>第7回 米国パブリック・ライブラリーの展開</p> <p>第8回 イギリスのパブリック・ライブラリーの成立・展開</p> <p>第9回 日本の公家文庫・僧侶文庫</p> <p>第10回 江戸時代の文庫</p> <p>第11回 明治時代の書籍館・通俗図書館</p> <p>第12回 大正～昭和戦前期の図書館</p> <p>第13回 戦後占領期の図書館改革</p> <p>第14回 戦後の図書館発展の歩み</p> <p>第15回 図書館史研究の手法</p>
授業の方法	講義(日本語)による。
成績評価方法	試験(80%)および課題レポート(20%)による。
教科書	三浦太郎編著『図書・図書館史』講座・図書館情報学 12, ミネルヴァ書房, 2019年。
参考書	<p>相関図書館学方法論研究会編『図書館と読書をめぐる理念と現実』松籟社, 2019年。</p> <p>川崎良孝・吉田右子編著『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』京都図書館情報学研究会, 2017年。</p> <p>小黒浩司編著『図書及び図書館史』JLA テキストシリーズ 3-11, 日本図書館協会, 2013年。</p> <p>根本彰編著『図書館情報学基礎』シリーズ図書館情報学 1, 東京大学出版会, 2013年。</p> <p>岩猿敏生著『日本図書館史概説』日外アソシエーツ, 2007年。</p> <p>小川徹ほか著『公共図書館サービス・運動の歴史』(1)(2) 日本図書館協会, 2006年。</p> <p>その他、適宜、授業時間中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	本科目は、司書資格取得のために大学において履修すべき「図書館に関する科目」の選択科目「図書・図書館史」にあたる。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202417	担当教員	金沢 みどり		
単位数	2	学期	S2	時限	金 3, 金 4
講義題目	読書教育論 Reading Education				

授業の目的・概要	<p>子どもにとって読書とは、豊かな感性や情操、思いやりの心などを育み、基礎学力を育てる上で、重要である。公共図書館の児童サービスでは、保健センター、保育所、幼稚園、学校、子ども文庫などとの連携協力のもとに、地域社会の子どもの読書生活がより豊かなものとなるように、読書支援に積極的に取り組んでいる。本講義では、子どもの読書習慣の確立に向けた児童サービスの理念や取り組みについて学ぶ。また、近年の社会的な課題である子育て支援も含めて、より広い社会的な視野から子どもや子どもを取り巻く環境について考察する。さらに、公共図書館と学校図書館との連携協力も視野に入れて、今後の動向も踏まえながら、子どもの読書活動の推進について、知見を深める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童サービスの意義と基本 2. 児童サービスの対象者である子どもへの理解 3. 児童の発達段階と資料の種類 4. 児童サービスの資料と特徴(1) 絵本、フィクション 5. 児童サービスの資料と特徴(2) ノンフィクション、知識の本、レファレンスブック、本以外の資料 6. 児童サービスのためのコレクションの構築 7. 児童サービスのための環境づくり 8. 資料や情報の提供に関するサービス(1) 読書アドバイス、情報サービス、宿題支援 9. 資料や情報の提供に関するサービス(2) 育児支援、乳幼児サービス、特別な支援を必要とする子どもへのサービス 10. 児童と本を結びつける活動(1) お話し会のあり方、ストーリーテリング、読み聞かせ 11. 児童と本を結びつける活動(2) ブックトーク、科学遊び 12. ヤングアダルトサービス 13. 子どもの読書活動の推進とネットワーク 14. これからの児童サービスの活性化に向けて 15. 児童サービスの評価
授業の方法	講義による。なお、受講生によるプレゼンテーションやディスカッションも含む。
成績評価方法	試験(80%)、授業への参加状況(発表・発言など10%)、課題レポート(10%)による。ただし、レポート提出は必須。
教科書	金沢みどり『児童サービス論 第2版』(ライブラリー図書館情報学 第7巻)学文社、2014年。
参考書	<p>「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』(シリーズ学校図書館学 第4巻)全国学校図書館協議会、2013年第2刷。</p> <p>金沢みどり『生涯学習社会における情報活用能力の育成と図書館』学文社、2012年。</p> <p>金沢みどり『学校司書の役割と活動—学校図書館の活性化の視点から—』学文社、2017年。</p> <p>その他については授業時間中に提示する。</p>
履修上の注意・備考	子ども(0歳から18歳まで)の本について、ブックトークやブックレポートを課題として課すので、発達段階に応じたジャンルの異なる子どもの本について、あらかじめ目を通しておくこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202418	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学期	A2	時限	月 5, 木 5
講義題目	読書と豊かな人間性 Reading and Human Development				

授業の目的・概要	近年、活字離れや電子書籍の流通などが叫ばれる中で、子どもたちの読書を巡る状況が大きく変化している。そこで、日本の読書行政、子どもの発達段階、科学的な読書の理解、読書の歴史、学校、海外の状況、出版流通、地域社会を総合的に把握し、日本の学校図書館が今後どのように読書やその教育と関わっていくべきかについて学ぶ。
授業計画	第1回: イントロダクション 第2回: 子どもの読書の現場 第3回: 日本の読書推進行政 第4回: 発達段階と読書 第5回: 読書をめぐる科学 第6回: 読書の歴史 第7回: 中間まとめ 第8回: 読書教育の実践 第9回: 日本の出版流通 第10回: 図書資料の選択 第11回: 読書と新しいメディア 第12回: 地域社会との連携 第13回: まとめ
授業の方法	主に講義にて行う。
成績評価方法	授業参加度と試験
教科書	特になし
参考書	授業中に適宜指示する
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09202419	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>4月3日 オリエンテーション <教育における「バリア」></p> <p>4月10日 教育のバリアフリーとICT利用(近藤先生)</p> <p>4月17日 「非行少年」からみた学校というバリア(小国) ゲスト: 渡邊洋次郎氏</p> <p>4月24日 学校組織における包摂と排除(二羽先生) <身体機能を通してみる「バリア」></p> <p>5月1日 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)</p> <p>5月8日 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生) <語り／言葉をめぐる「バリア」></p> <p>5月15日 当事者研究の可能性(熊谷先生)</p> <p>5月22日 障害者の語り(能智先生)</p> <p>6月5日 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生) <ゲスト講義></p> <p>6月12日 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生)) <社会のひずみとしての「バリア」></p> <p>6月19日 災害におけるバリア／障害と社会構造(仁平先生)</p> <p>6月26日 社会現象としての「障害」(星加先生)</p> <p>7月3日 「バリア」の認識論(星加先生)</p>
授業の方法	<p>この授業は、S1についてはガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。S2についても、コロナウィルスの収束がなければオンラインでの開講となります。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行う。リアクションペーパーについては、ITC-LMS を用いて集めます。ただし初回については google フォームを用います。(関連ホームページの欄を参照してください)</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>また、初回のリアクションペーパーの提出先については、「関連ホームページ」欄をご覧ください。講義終了後 10 分以内に提出してください(それ以降の提出は無効とします)</p>
教育職員免許法上の認定科目	

教育社会科学専修 比較教育社会学コース

時間割コード	09203101	担当教員	中村 高康		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 3
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	<p>教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐって我々が直面している課題を理解することを目的とする。</p>
授業計画	<p>さしあたり以下の内容を予定している。</p> <p>①イントロダクション(本日)</p> <p><第一部></p> <p>②教育社会学とは何か</p> <p>③教育社会学のパラダイム1</p> <p>④教育社会学のパラダイム2</p> <p><第二部></p> <p>⑤社会の中で生まれる—社会化—</p> <p>⑥家庭の中で育つ—家族と社会—</p> <p>⑦学校に入る—近代化と教育投資—</p> <p>⑧学校の中で育つ1—学校の社会的機能—</p> <p>⑨学校の中で育つ2—学校問題の社会学—</p> <p>⑩進学する・就職する—移動規範と就職格差—</p> <p>⑪働く—職業キャリアと昇進—</p> <p>⑫次の世代へ—社会階層と教育—</p> <p>⑬もう一つの人生—ジェンダーと教育—</p> <p>⑭教育社会学の方法</p>
授業の方法	<p>各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業の最後に出欠確認を兼ねて学生は講読票を提出する。また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は講読票:期末レポート=30:70の比で評価する。</p>
教科書	<p>各回の授業における2本ずつの講読文献を授業内で指示する。</p>
参考書	<p>各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示するが、さしあたりの基礎的参考書として、酒井朗・多賀太・中村高康編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012をあげておく。</p>
履修上の注意・備考	<p>授業への積極的な参加を期待したい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照</p>

時間割コード	09203102	担当教員	橋本 鉦市		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	高等教育概論 Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	<p>今日の高度知識基盤社会にあつて、高等教育が果たす役割と意味はきわめて大きなものになってきている。高等教育はどこから来て、どのような状況にあり、将来どこに向かおうとしているのか。この授業では、近代大学の誕生から産業化に伴う発展と分化、現状とその課題、さらに今後の変容と展望までを視野に入れつつ、高等教育が担う機能、構造、政策、歴史などを扱う。具体的には国内外の高等教育がもつ「歴史・理念」、「政策・政治」、「制度・組織」、「管理・運営」、「財政・財務」、「構成員(教職員・学生)」といった諸側面を政策科学的なアプローチから考察して、高等教育全般にわたる広い視座と方法論を涵養する。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション: 高等教育の概観・講義内容の説明</p> <p>第2回 歴史・理念 1</p> <p>第3回 歴史・理念 2</p> <p>第4回 政策・政治 1</p> <p>第5回 政策・政治 2</p> <p>第6回 制度・組織 1</p> <p>第7回 制度・組織 2</p> <p>第8回 管理・運営 1</p> <p>第9回 管理・運営 2</p> <p>第10回 財政・財務 1</p> <p>第11回 財政・財務 2</p> <p>第12回 現状と課題</p> <p>第13回 総括</p>
授業の方法	<p>講義形式を基本とするが(毎回、ハンドアウトならびにパワーポイントなどでの解説)、随時、リアクションペーパー、グループ・ディスカッション、フィールド調査などの形態も織り込みつつ進める。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加度(30%)、レポート(20%)、最終試験(50%)</p>
教科書	<p>リーディングスはコピーなどを用意する。随時指定。</p> <p>橋本・阿曾沼・杉本編 2020『よくわかる 高等教育論』ミネルヴァ書房(近刊)</p>
参考書	<p>リーディングスはコピーなどを用意する。随時指定。</p>
履修上の注意・備考	<p>グループ・ディスカッション、グループ・ワークを予定しているので、出席を重視する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学</p>

時間割コード	09203103	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。</p> <p>講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域やフィールド、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。</p> <p>具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①文化的マイノリティ、社会的格差と社会的公正、教育制度、学校文化、学力、教育病理、教育改革や海外からのモデルの借用、といった具体的テーマに関する国際比較、②人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民、難民、外国人等の生徒の学力保障、③途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、の3領域である。</p> <p>なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
授業計画	<p>第一週(4/9・担当:恒吉)イントロダクション</p> <p>本講義はオンライン講義として作成されている。比較教育学研究は、グローバル化が進み、また、日本社会内においても外国人児童生徒が増えている中で、一つの社会・地域のみを見ては、その社会・地域さえも理解できない時代になっていることを我々に問題提起している。本講義では、教育とは何か、学校とは何か、国を越えてそれを見ることの意義は何か、社会的弱者にとって学校が果たす役割は何なのか等の教育を考えるにあたって根源的な問いを掲げながら、「社会化」「社会的規範」「逸脱」「アイデンティティ」等の社会学的概念を手掛かりに、国を越えた教育の意味、それを比較する意味について考える。学校の映像等を用いる。</p> <p>第二週(4/16・担当:恒吉)グローバル・アジェンダ</p> <p>今日、世界的に教育改革ばやりであり、比較教育学の一つの研究領域である教育実践や教育政策のトランスファー研究、借用研究がグローバルに展開されている。そうした動きの中の日本の教育は、海外においてどのようにその「先進性」が評価され、何が「後進性」とされてきたのか。国際的に見た日本の強さと課題等について、国際比較の視点を生かしながら考える。さらに、現在世界的に起きている新型コロナウイルスへの対応として教育で起きていること(学校休校、授業・講義のオンライン化)を例に、第一週目に考えた、「学校」「教育」とは何かについて考える。</p> <p>第三週(4/23 担当:恒吉)比較教育学的視点から見た日本の学校</p> <p>日本の学校を手掛かりに、その可能性や課題等を考える材料として、日本や他国の学校の映像を使って考える。前の週までに習った、比較教育学的に見た日本の学校の強さと課題について、それぞれの社会・文化的文脈に位置付けながら、比較分析をする。この週のテーマに関連したゲスト・スピーカーに参加していただくことを考えている。次の週での日本社会・学校の中の異質な条件を持つ子供たちの教育を考える基盤作りともなる。</p> <p>第四週(4/30・担当:額賀)移民教育・多文化教育の国際比較①</p> <p>グローバリゼーションやトランスナショナリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。この30年間に起こっている日本社会の多文化化、多民族化状況を概観し、日本の学校に増える移民的背景をもつ子どもたち(「外国につながる子ども」「外国ルーツの子ども」などとも呼ばれる)が経験する数々の制度的・文化的障壁について理解を深める。映像資料を用いる。</p> <p>(学事歴により5月7日は休講)</p> <p>第五週(5/14・担当:額賀)移民教育・多文化教育の国際比較②</p> <p>世界的な移民の増加を受けて、各国の教育現場ではどのような困難が生じ、どのような対応策が取られているの</p>

か。前回の授業を踏まえ、本授業では移民生徒の学力や教育政策に関する各国のデータを検討する。各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育について学び、国際比較の視点からマイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。

第六週（5/21・担当：北村）比較教育学の理論的・思想的・実践的な変遷
比較教育学が理論的・思想的・実践的にどのように発展してきたのかについて、国内外の研究状況を踏まえながら学ぶ。

第七週（5/28・担当：北村）比較教育学の国際的な視点からの捉え直し
「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題、そしてアジア諸国や途上国における比較教育学のあり方について考える。

授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 50%、最終レポート 50%
教科書	特に指定しない
参考書	随時指定する
履修上の注意・備考	<p>二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。</p> <p>【履修登録上の注意】</p> <p>この科目は「比較教育社会学概論」である。比較教育社会学コースの学生は必ずこのコードで履修登録を行うこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09203201	担当教員	仁平 典宏		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 I Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II~IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。 文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究方法。 文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。 文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。 文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説—作業仮説—検証。 文献講読。社会調査の目的。仮説—質問項目。 文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。 文献講読。質問紙のしくみ。 文献講読。ワーディングの注意点。 調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。 文献講読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。 研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等) 文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第3版]』(2017年、法律文化社)
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09203202	担当教員	仁平 典宏		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅲ Training in Research Methods for the Sociology of Education III				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5月：文献講読(実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ)、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6月前半：調査対象訪問とフィールドワークの報告。 6月後半～7月：仮説構成、質問項目づくり、ワーディング。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレーションを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:東京都X区立中学校生徒 4.主な調査項目:友人関係、家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集(現地調査)の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地・調査員の数:2020年9～11月・東京都X区・区立中学校生徒を対象とする、学校通しのアンケート調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第3版]』(2017年、法律文化社)
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(社)社会学(公)社会学

時間割コード	09203203	担当教員	仁平 典宏		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 II Training in Research Methods for the Sociology of Education II				

授業の目的・概要	<p>この演習では、「教育社会学調査実習 I、III、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 II」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用方法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。 2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。 3 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。) 4 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。) 5 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。) 6 エディティング、コーディング作業。同上 7 エディティング、コーディング作業。 8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。) 9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。) 10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法) 11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。 12 報告書を作成する際の留意点について。 13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第3版]』(2017年、法律文化社)
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09203204	担当教員	仁平 典宏		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習IV Training in Research Methods for the Sociology of Education IV				

授業の目的・概要	<p>この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ～Ⅲ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅳ」では、「教育社会学調査実習Ⅲ」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。</p>
授業計画	<p>10月：質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。</p> <p>11～12月：統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業。</p> <p>1～2月：データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成、成果報告会。</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレーションを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:東京都X区立中学校生徒 4.主な調査項目:家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集(現地調査)の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地・調査員の数:2020年9～11月・東京都X区・区立中学校生徒を対象とする、学校通しの調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第3版]』(2017年、法律文化社)
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09203205	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	水 6
講義題目	比較教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	各教員が第一回ゼミに説明する。
参考書	各教員が第一回ゼミに説明する。
履修上の注意・備考	各教員が第一回ゼミに説明する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09203501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	月 1
講義題目	比較教育社会学研究指導 Tutorial in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
参考書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
履修上の注意・備考	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教育職員免許法上の認定科目	

教育社会科学専修 教育実践・政策学コース

時間割コード	09204101	担当教員	新保 敦子		
単位数	2	学期	S2	時限	木 4, 木 5
講義題目	社会教育論Ⅱ Theories of Adult Education II				

授業の目的・概要	<p>教育は、家庭教育、学校教育、社会教育から構成されると言われています。しかしながら、一般的には近代社会以降において学校教育が大きな比重を占めてきました。しかしながら、実際のところ、教育の原点は何かといえば、それは社会教育といっても過言ではありません。</p> <p>本講義においては、こうした教育の原初的な形態とも言える社会教育の本質を理解すること、その歴史的な発展を跡づけながら、今後の未来社会において教育がどのような方向に向かっていくのか、その中で、社会教育がいかなる役割を果たしていくのか、共に考えることを目的としています。</p> <p>具体的な目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 社会教育・生涯学習の本質と意義を理解する。 2, 社会教育の歴史的な発展を跡づけながら、社会教育という概念を本質から検証する。とりわけ、民衆の読み書きの歴史、識字の歴史に焦点をあて考察する。 3, 生涯学習・社会教育に関する実態、生涯学習施設、学習活動、職員・地域コーディネーターの役割などについて、自らの生活との関連性を考えながら検討する。 4, 教育の未来像を構想する。その上で社会教育の役割について思いをめぐらし、自分自身に何ができるのかを考える。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, ガイダンス＋社会教育の歴史 2, 社会教育の歴史 3, 社会教育の歴史 4, 社会教育施設論(公民館、図書館、博物館) 5, 諸外国の社会教育・生涯学習 6, 地域コミュニティの開発と地域コーディネーター 7, 修了試験
授業の方法	<p>今回の授業については、対面式ではなく、オンデマンド、もしくはオンライン形式をとることが予想されます。そのため、方法としては、社会教育の歴史に関する講義をベースとして授業を展開します。対面式の授業が可能になるようであれば、フィールドワークも取り入れる予定です。</p>
成績評価方法	<p>適宜レポートを課します。</p>
教科書	<p>適宜紹介します。</p>
参考書	<p>『自分の中に歴史をよむ』『<子供>の誕生』『教育の誕生』『コーヒー・ハウス』『ロンドン都市物語』『日本語の歴史』『日本社会教育小史』『江戸の学び』『日本を教育した人々』</p> <p>『つくる生活がおもしろい』『未来を変えた島の学校』『知られざる大英博物館』</p>
履修上の注意・備考	<p>社会教育の醍醐味は、あくまでも現場にあります。そのため、当初は、施設見学を盛り込む計画でした。ただし、状況的に難しいことが予想されます。そのため、講義を中心としたものにならざるを得ないことを、ご了解ください。</p> <p>激動の社会の中でこれから、ますます一生学び続けることが必要となっていきます。これから生涯学び続けるための有益な情報を、少しでも提供できれば幸いです。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09204102	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学期	S2	時限	火 3, 火 4
講義題目	教職論 Introduction to Research on Teacher Development				

授業の目的・概要	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
授業計画	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 オリエンテーション 2回 教師の仕事 3回 教師のキャリア 4回 近代学校と教職の成立 5回 歴史の中の教師 6回 歴史の中の女性教師 7回 授業をつくる 8回 授業における知識と思考 9回 授業研究と研修 10回 反省的实践家としての教師 11回 教師文化の構造 12回 教師の仕事とジェンダー 13回 教師の同僚性 14回 専門職としての教師 15回 まとめ
授業の方法	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
成績評価方法	出席と課題レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。 特になし。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09204103	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学期	S1	時限	月 4, 木 4
講義題目	情報資料論 Information Media				

授業の目的・概要	図書館が扱う情報資源の範囲は年々広がっている。本講義では、そういった幅広い情報資源をまず概観し、それらがどのような性質を持っており、図書館においてどのような意義を持つのかを明らかにする。その上で、図書館はどのように情報資源を収集、蓄積、維持、発展させていくべきであり、また実際の現場において情報資源はどのように扱われているのかという図書館におけるコレクション形成の理論と実際を見ていく。
授業計画	第 1 回 インTRODクシヨ、情報の性質 第 2 回 情報資源の歴史 第 3 回 情報資源の出版と流通 第 4 回 印刷資料 第 5 回 非印刷資料 第 6 回 電子資料、ネットワーク資料 第 7 回 中間まとめ 第 8 回 地域資料、行政資料、灰色文献 第 9 回 人文科学、社会科学分野の情報資源 第 10 回 科学技術分野の情報資源 第 11 回 コレクション形成の理論 第 12 回 コレクション形成の実際 第 13 回 まとめ
授業の方法	講義による。
成績評価方法	試験（40%×2） リアクションペーパーの提出（20%）
教科書	特になし。
参考書	講義中に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09204104	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2	学期	S2	時限	金 5, 金 6
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	<p>具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。</p> <p>次の3つの内容が柱となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶとはどういうことか。 ・学習を促す授業のあり方はどういうものか。 ・教師は実践からどのように学び成長していくのか。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践記録から学ぶ 2. 教育実践の法則性と固有性 3. 海外の実践事例から学ぶ 4. 学習観の転換 5. 子どもの「間違い」をどう捉えるか 6. 教科内容と教材 7. 教科内容の系統性 8. 教師が発する言葉 9. 協同学習の意義と方法 10. 自律的な学習 11. ファシリテーターとしての教師 12. 授業をめぐる対話と省察 13. ミニ模擬授業の実施 14. ミニ模擬授業の検討会 15. 教師による実践研究
授業の方法	グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	<p>定期試験は行わず、授業中に出題する課題をもって評価を行う。</p> <p>出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。</p>
教科書	指定しない。
参考書	<p>渡辺貴裕『授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ―』くろしお出版、2019年</p> <p>フレット・コルトハーヘン『教師教育学 ―理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ―』学文社、2010年</p> <p>佐藤浩一『学習支援のツボ』北大路書房、2014年</p> <p>杉江修治『協同学習入門』ナカニシヤ出版、2011年</p> <p>その他、授業中に適宜指示する。</p>
履修上の注意・備考	履修を希望する場合、初回から必ず出席すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照

時間割コード	09204105	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 5
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	<p>テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」</p> <p>日本の教育課程の歴史的変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回:教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性</p> <p>第2回:現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程</p> <p>第3回:教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係</p> <p>第4回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期</p> <p>第5回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958年~1977年</p> <p>第6回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989年~1998年</p> <p>第7回:2017年改訂学習指導要領の全体構造と特徴—2008年学習指導要領との比較を通して</p> <p>第8回:カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>第9回:カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価</p> <p>第10回:カリキュラム・マネジメントの方法</p> <p>第11回:教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶ—小学校</p> <p>第12回:総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶ—中学校</p> <p>第13回:教育課程の試作—学校教育目標を検討する</p> <p>第14回:試作した教育目標と教科の関係を検討する</p> <p>第15回:試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する</p>
授業の方法	<p>第1回から第10回までは講義中心。適宜、ビデオの視聴とそれに関するディスカッションも行う。第13回から第15回はグループワークを行う。</p>
成績評価方法	<p>双方向的な遣り取りやグループワークといった作業や活動への参加態度(50%)。カリキュラムの試作レポートと発表成果(50%)の合算による。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』</p>
参考書	<p>適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>中等教育免許取得者を念頭に置くが、日本においてカリキュラム開発は初等教育を中心に行われてきた歴史的経緯があるため、初等教育の内容も押さえてゆくことになる。初等中等教育に関わる時事的な情報を、各自意識的に入手しておくこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照</p>

時間割コード	09204106	担当教員	北村 友人		
単位数	2	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。</p> <p>講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域やフィールド、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。</p> <p>具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①文化的マイノリティ、社会的格差と社会的公正、教育制度、学校文化、学力、教育病理、教育改革や海外からのモデルの借用、といった具体的テーマに関する国際比較、②人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民、難民、外国人等の生徒の学力保障、③途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、の3領域である。</p> <p>なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。</p>
授業計画	<p>第一週(4/9・担当:恒吉)イントロダクション</p> <p>本講義はオンライン講義として作成されている。比較教育学研究は、グローバル化が進み、また、日本社会内においても外国人児童生徒が増えている中で、一つの社会・地域のみを見ては、その社会・地域さえも理解できない時代になっていることを我々に問題提起している。本講義では、教育とは何か、学校とは何か、国を越えてそれを見ることの意義は何か、社会的弱者にとって学校が果たす役割は何なのか等の教育を考えるにあたって根源的な問いを掲げながら、「社会化」「社会的規範」「逸脱」「アイデンティティ」等の社会学的概念を手掛かりに、国を越えた教育の意味、それを比較する意味について考える。学校の映像等を用いる。</p> <p>第二週(4/16・担当:恒吉)グローバル・アジェンダ</p> <p>今日、世界的に教育改革ばやりであり、比較教育学の一つの研究領域である教育実践や教育政策のトランスファー研究、借用研究がグローバルに展開されている。そうした動きの中の日本の教育は、海外においてどのようにその「先進性」が評価され、何が「後進性」とされてきたのか。国際的に見た日本の強さと課題等について、国際比較の視点を生かしながら考える。さらに、現在世界的に起きている新型コロナウイルスへの対応として教育で起きていること(学校休校、授業・講義のオンライン化)を例に、第一週目に考えた、「学校」「教育」とは何かについて考える。</p> <p>第三週(4/23 担当:恒吉)比較教育学的視点から見た日本の学校</p> <p>日本の学校を手掛かりに、その可能性や課題等を考える材料として、日本や他国の学校の映像を使って考える。前の週までに習った、比較教育学的に見た日本の学校の強さと課題について、それぞれの社会・文化的文脈に位置付けながら、比較分析をする。この週のテーマに関連したゲスト・スピーカーに参加していただくことを考えている。次の週での日本社会・学校の中の異質な条件を持つ子供たちの教育を考える基盤作りともなる。</p> <p>第四週(4/30・担当:額賀) 移民教育・多文化教育の国際比較①</p> <p>グローバリゼーションやトランスナショナリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。この30年間に起こっている日本社会の多文化化、多民族化状況を概観し、日本の学校に増える移民的背景をもつ子どもたち(「外国につながる子ども」「外国ルーツの子ども」などとも呼ばれる)が経験する数々の制度的・文化的障壁について理解を深める。映像資料を用いる。</p> <p>(学事歴により5月7日は休講)</p> <p>第五週(5/14・担当:額賀) 移民教育・多文化教育の国際比較②</p> <p>世界的な移民の増加を受けて、各国の教育現場ではどのような困難が生じ、どのような対応策が取られているの</p>

か。前回の授業を踏まえ、本授業では移民生徒の学力や教育政策に関する各国のデータを検討する。各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育について学び、国際比較の視点からマイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。

第六週（5/21・担当：北村）比較教育学の理論的・思想的・実践的な変遷

比較教育学が理論的・思想的・実践的にどのように発展してきたのかについて、国内外の研究状況を踏まえながら学ぶ。

第七週（5/28・担当：北村）比較教育学の国際的な視点からの捉え直し

「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題、そしてアジア諸国や途上国における比較教育学のあり方について考える。

授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 50%、最終レポート 50%
教科書	特に指定しない
参考書	随時指定する
履修上の注意・備考	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09204201	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	S1	時限	月 3, 月 4
講義題目	教育行政・学校経営演習 V Seminar in Educational Administration and School Management V				

授業の目的・概要	教育行政・学校経営の現代的課題に関する理解を深め、それに関わる政策や実践の学術的分析や評価が行えるよう、そのために必要となる理論や方法を学ぶ。
授業計画	<p>特に本授業では学校経営にかかわる現代的課題をとりあげる。たとえば、以下の事項をとりあげることを予定しているが、受講者の問題関心に基づいて変更もありうる。</p> <p>コミュニティ・スクール(学校と地域の連携)、放課後学習支援(「子どもの貧困対策」、外国籍児童・生徒に対する支援、教員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携(「チーム学校」、教員の働き方改革</p>
授業の方法	文献研究と実地調査とディスカッションを組み合わせ、課題・事項についての理解を深めるとともに理論や研究方法についても学んでいく。調査先の都合により、設定された曜日・時間以外に実地調査を実施する場合もありうることに留意して欲しい。
成績評価方法	授業中の発表並びにディスカッションへの参加に加え、最終レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に必要なものを指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09204202	担当教員	上田 孝典		
単位数	2	学期	A1	時限	月 4, 月 5
講義題目	社会教育学演習Ⅲ Seminar in Adult and Lifelong Education III				

授業の目的・概要	<p>社会教育・生涯学習に関する基本的な知識と、教育学におけるノンフォーマル(インフォーマル)教育の理論的基礎を習得する。</p> <p>歴史、法制度、行政、実践などの学術的な背景を知り、現代社会の諸課題を教育学の観点からアプローチするための視点を獲得する。</p> <p>指定された文献を購読し、全員で内容について討議し、理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方について説明し、受講者で検討文献を選定する。 また各回の報告者について分担を決める。</p> <p>第2回 (1)文献の検討と討議。 第3回 (2)文献の検討と討議。 第4回 (3)文献の検討と討議。 第5回 (4)文献の検討と討議。 第6回 (5)文献の検討と討議。 第7回 (6)文献の検討と討議。 第8回 (7)文献の検討と討議。 第9回 (8)文献の検討と討議。 第10回 (9)文献の検討と討議。</p>
授業の方法	<p>演習形式で行う。</p> <p>毎回、指定文献について報告者を決め、その他の受講者は小レポートを作成し、それに基づいて討議を行う。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加状況(30%)、小レポート(70%)により評価する。</p>
教科書	<p>牧野篤『公民館はどう語られてきたのかー小さな社会をたくさんつくる①ー』東京大学出版会、2018.11 その他、初回に指定する。</p>
参考書	<p>社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所、2017.10</p>
履修上の注意・備考	<p>検討文献については各自で入手しておくこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09204203	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	A1	時限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習Ⅱ Seminar of Research on Teaching and Curriculum II				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]</p> <p>この授業では、保育・幼児教育施設や小学校、中学校、高等学校などの教育の現場におけるフィールドワークを通して、教育実践を観察することの基礎を身につける。具体的には下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。 2. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 <p>[授業の概要]</p> <p>教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実践の課題 ガイダンス</p> <p>第2回 教育実践の研究(1)フィールドワーク①</p> <p>第3回 教育実践の研究(2)報告会①</p> <p>第4回 教育実践の研究(3)フィールドワーク②</p> <p>第5回 教育実践の研究(4)報告会②</p> <p>第6回 教育実践の研究(5)フィールドワーク③</p> <p>第7回 教育実践の研究(6)報告会③</p>
授業の方法	主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書</p> <p>稲垣忠彦・佐藤学(著)『授業研究入門』岩波書店</p> <p>佐藤学『教育方法学』岩波書店</p> <p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会</p> <p>このほか、授業中に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>本授業は、A1タームに開講される2時間連続の授業である。</p> <p>情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動を行うことになるので、注意されたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09204501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	木 6
講義題目	教育実践・政策学研究指導 Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・社会教育学・図書館情報学・学校教育学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
参考書	テーマに応じて文献紹介を行う。
履修上の注意・備考	卒業論文執筆の規程を踏まえて履修すること。
教育職員免許法上の認定科目	

心身発達科学専修

時間割コード	09205301	担当教員	能智 正博
単位数	2	学期	S1S2
		時限	金 3
講義題目	質的心理学研究法 I Research Methods for Qualitative Psychology I		

授業の目的・概要	めまぐるしく変化する社会のなかで、教育や臨床の現場において現れてくる問題も変化しており、心理学もまた実験室的な研究だけではなく、現場の実践と関わりながらの新たなアイデアの探索と知識の生成が求められている。そうした背景のもとで近年注目されているのが、問題の発見と仮説生成を重視する質的研究であり、質的な方法を用いて〈現実〉にアプローチしようとする心理学の実践の全体を「質的心理学」と呼ぶ。本年は、ナラティブ(語り)に注目したインタビュー研究の方法を中心に、質的研究法の理論と技法について理解を深めることを目標とする。
授業計画	1) イントロダクション 2) 質的研究概説 3) 語りとライフストーリー 4) インタビュー概説 5) インタビューの準備 6) インタビューの実践 7) 語りのテキストの整理 8) テキストの分析① 9) テキストの分析② 10) 分析技法の多様性 11) ライフストーリーをまとめる 12) 研究事例① 13) 研究事例② 14) 成果発表
授業の方法	実習、講義、受講生の発表を適宜用いながら、授業を進めていく。
成績評価方法	授業への出席と参加 60% 最終レポート 40%
教科書	特に使用しない。
参考書	能智正博 『質的研究法』(東京大学出版会、2011) 秋田喜代美・能智正博(監修)『はじめての質的研究法』シリーズ(東京図書、2007) S. Kvale 『質的研究のための「インター・ビュー」』(新曜社、2016)
履修上の注意・備考	原則として、授業にすべて出席できる見込みがあることを受講の条件とする。基本的に授業は時間通りに始める。遅刻しないように。 この授業は、「バリアフリー教育プログラム」の一般科目の1つでもある。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09205302	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	教授・学習心理学演習 Seminar on Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教授・学習心理学やそれに関連する認知発達心理学の研究手法と最近の知見について理解を深めることを目標とする。先行研究の文献検討と、フィールドにおいて収集したデータ(授業場面の録画記録, 児童・生徒が自身の考えを記入したワークシート, 記述型調査のデータ, 児童・生徒に対するインタビューデータなど)の分析などを通じて, 教授・学習心理学や認知発達心理学の知見と方法論(実験研究, 実践研究, 調査研究, 面接研究など)について学ぶ。
授業計画	第1回: イントロダクション: 教授・学習心理学に関する諸概念 第2回: 教授・学習心理学, 認知発達心理学の研究手法 第3~9回: 教授・学習心理学, 認知発達心理学に関する文献検討 第10~13回: フィールドにおいて収集したデータの心理学的分析
授業の方法	文献検討およびデータ分析においては, 各回の担当者を決めて担当者がレポートを行い, 参加者全員で検討・討論を行う。
成績評価方法	授業への参加・発表状況, 授業時の小レポート, および期末レポートにより行う。
教科書	授業時に適宜, 指示する。
参考書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018年) 『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012年) 『発達心理学—周りの世界と関わりながら人はいかに育つか—(第2版)』(藤村宣之編著, ミネルヴァ書房, 2019年)
履修上の注意・備考	フィールドにおける観察・データ収集を授業時間外に1回程度行うことがある。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205303	担当教員	高木 紀久子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	芸術創造性の実践演習 Art and creativity seminar				

授業の目的・概要	<p>この授業では、芸術の実践的な演習を通して身体レベルと思考レベルの創造プロセスの方法を身につける。身体レベルの創造に関しては、外界とのインタラクションを中心としたワークを行い、自己の記録および他者と共有することでその可能性を探る。思考レベルの創造に関しては、既存の思考の枠を外して新しいアイデアを発想することの理解を、関連する心理学論文のレビューとワークの双方を通じて深めていく。身体レベルと思考レベルの双方の活動からアイデアを統合させ作品創作を行い、最後の授業で発表することが求められる。この二つのタイプの活動を通して、芸術の創作プロセスに関する体験的理解を深めると共に、身体と思考を融合した創造活動についての心理学的知見を得ることを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義:オリエンテーション(全体概要とフロッターージュなど身体を通じた表現の解説) 2. 演習:フロッターージュ演習 タクティクルラインの演習(B3サイズ) 3. 論文レビュー1: 芸術創作に関する論文 4. 演習:フロッターージュ演習(描画材の応用)タクティクルラインの演習(B4 または B3サイズ) 5. 論文レビュー2:芸術創作に関する論文 6. 講義:芸術創作のプロセス(参考スライド) 演習:フロッターージュの展開(多様な支持体による効果, 空間への展開) 7. 講義:芸術創作のプロセス(現代美術家の作品創作のモデル) 演習:ポートフォリオへのまとめ 8. 美術館見学(この時期開かれている展覧会に行き、実際の作品の鑑賞体験を得る) 9. 講義:最終作品に向けての解説(参考スライド: 諸領域との関係性) 演習:グループディスカッション、作品企画 10. 作品制作(個別指導) 11. 作品制作(個別指導) 12. 作品制作(個別指導)プレゼンテーション計画(個別指導) 13. 作品発表・講評 <p>なお、授業計画は履修者数や教室状況などにより変更が生じることがある。</p>
授業の方法	<p>実際に身体を動かして作品を作るという演習形式で、アートの創造性について学ぶ。加えて、心理学論文のレビューとディスカッション、ワークを通じて理解を深める。受講生は毎回の実際の制作活動への参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>最終発表ならびに通常授業の出席と授業への積極的な参加を重視して評価を付ける。</p>
教科書	<p>資料は逐次配布する。</p>
参考書	<p>「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ, トーマス・B.ウオード, 森北出版 「ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術」ハル フォスター, ロザリンド・E. クラウス, イヴ-アラン ポワ, ベンジャミン・H.D. ブークロー, デイヴィッド ジョーズリット, 東京書籍</p>
履修上の注意・備考	<p>履修希望者は必ず初回のオリエンテーションに出席すること。実技の授業なので、必ず出席して、授業に参加すること。なお、実践授業の性質上、受講希望者が多い場合は、何らかの形で人数制限をする可能性がある。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>※当初の開講予定から開講時期が変更になりましたのでご注意ください(S1S2・火2→集中講義)</p>

時間割コード	09205304	担当教員	高木 紀久子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 2
講義題目	芸術創造性の実践演習 Art and creativity seminar				

授業の目的・概要	<p>この授業では、芸術の実践的な演習を通して身体レベルと思考レベルの創造プロセスの方法を身につける。身体レベルの創造に関しては、外界とのインタラクションを中心としたワークを行い、自己の記録および他者と共有することでその可能性を探る。思考レベルの創造に関しては、既存の思考の枠を外して新しいアイデアを発想することの理解を、関連する心理学論文のレビューとワークの双方を通じて深めていく。身体レベルと思考レベルの双方の活動からアイデアを統合させ作品創作を行い、最後の授業で発表することが求められる。この二つのタイプの活動を通して、芸術の創作プロセスに関する体験的理解を深めると共に、身体と思考を融合した創造活動についての心理学的知見を得ることを目指す。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義:オリエンテーション(全体概要とフロッターージュなど身体を通じた表現の解説) 2. 演習:フロッターージュ演習 タクティクルラインの演習(B3サイズ) 3. 論文レビュー1: 芸術創作に関する論文 4. 演習:フロッターージュ演習(描画材の応用)タクティクルラインの演習(B4 または B3サイズ) 5. 論文レビュー2:芸術創作に関する論文 6. 講義:芸術創作のプロセス(参考スライド) 演習:フロッターージュの展開(多様な支持体による効果, 空間への展開) 7. 講義:芸術創作のプロセス(現代美術家の作品創作のモデル) 演習:ポートフォリオへのまとめ 8. 美術館見学(この時期開かれている展覧会に行き、実際の作品の鑑賞体験を得る) 9. 講義:最終作品に向けての解説(参考スライド: 諸領域との関係性) 演習:グループディスカッション、作品企画 10. 作品制作(個別指導) 11. 作品制作(個別指導) 12. 作品制作(個別指導)プレゼンテーション計画(個別指導) 13. 作品発表・講評 <p>なお、授業計画は履修者数や教室状況などにより変更が生じることがある。</p>
授業の方法	<p>実際に身体を動かして作品を作るという演習形式で、アートの創造性について学ぶ。加えて、心理学論文のレビューとディスカッション、ワークを通じて理解を深める。受講生は毎回の実際の制作活動への参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>最終発表ならびに通常授業の出席と授業への積極的な参加を重視して評価を付ける。</p>
教科書	<p>資料は逐次配布する。</p>
参考書	<p>「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ, トーマス・B.ウオード, 森北出版 「ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術」ハル フォスター, ロザリンド・E. クラウス, イヴ-アラン ポワ, ベンジャミン・H.D. ブークロー, デイヴィッド ジョーズリット, 東京書籍</p>
履修上の注意・備考	<p>履修希望者は必ず初回のオリエンテーションに出席すること。実技の授業なので、必ず出席して、授業に参加すること。なお、実践授業の性質上、受講希望者が多い場合は、何らかの形で人数制限をする可能性がある。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205305	担当教員	能智 正博		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 6
講義題目	心理実習(Ⅰ) Practicum for Psychological Intervention				

授業の目的・概要	<p>保健医療、福祉の2つの分野の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ・多職種連携及び地域連携 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
授業計画	<p>初回オリエンテーションを行い、支援を要する者の心理などを学び、2～3回に実習の準備をする。</p> <p>4～7回に最初のサイトでの実習を行い、8回目に教室で振り返りを行う。</p> <p>9～12回に2つ目のサイトでの実習を行い、13回目に教室で振り返りを行う。</p> <p>14回目に全体の振り返りを行い、チームアプローチや多職種連携のあり方について、ディスカッションを行う。</p>
授業の方法	<p>医療福祉分野として、東大病院にて、計15時間の実習を行う。リハビリテーションの場で体験される心理的な問題、および支援のニーズの特徴について理解することが主な目標である。また、福祉分野として、世田谷区立岡本福祉作業ホームにて、計15時間の実習を行う。地域における福祉施設に関係する他の専門職との協働のあり方について、理解を深めることが主な目標である。</p>
成績評価方法	平常点。
教科書	特に用いない。
参考書	必要に応じて指示する。
履修上の注意・備考	4年生で、「公認心理師の職責」(教養学部科目)および、「心理実習(Ⅱ)」の単位を修得済みないし修得中の者のみ。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205306	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2	学期	S1	時限	火 1, 火 2
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education				

授業の目的・概要	<p>本授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例や実践(ロールプレイ)を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。</p> <p>親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法、多くの大学で「体育」がないために学生時代にまったく運動を実践せずに就職していく若者と「メタボリック・シンドローム」の問題などは議論しておくべき必須事項である。また、何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。ある動作の学習(例えば、投げる)において、知的発達段階に応じた上手なインストラクション(言語・非言語)の基本を知ることも不可欠である。</p> <p>授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。</p> <p>体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。</p>
授業計画	第 1-5 回は講義、第 6-7 回は履修学生による個人テーマ別のプレゼンテーションとする。
授業の方法	資料・新聞記事・パワポイント・映像などを用いた講義や、教室内でできる簡単な軽運動の実習(インストラクションなどのポイント学習)を行う。プレゼンテーションでは、パワーポイントを用いて、自身でテーマを選び、20 分間程度説明した後に 10 分間の質疑応答を行う。
成績評価方法	毎回の授業の最後に 5 分間程度で記載してもらいミニレポートと、プレゼンテーションの内容(質)とその明快さ(分かりやすさ)を総合して評価する。テストは実施しない。
教科書	とくになし。
参考書	文部科学省: 小学校学習指導要領(体育編)、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育編)
履修上の注意・備考	履修者によるプレゼンテーションは、単位取得の必須条件とする。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)保健体育科の指導法

時間割コード	09205307	担当教員	佐々木 司		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	教育の疫学入門 Studying Epidemiology in the Field of Education				

授業の目的・概要	<p>健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上でも今後必要不可欠になると考えられる。</p>
授業計画	公衆衛生と疫学研究に関する基礎知識を授業する。
授業の方法	<p>基本的に講義形式で行う。</p> <p>スライドなどは使用しない。</p>
成績評価方法	期末試験が基本。これに授業への参加度(出席含む)等を加味する。
教科書	中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第3版)」医学書院
参考書	<p>S.B.Hulley et al. Designing Clinical Research, 4th Edition, Lippincott, Williams & Wilkins. (木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」メディカル・サイエンス・インターナショナル)</p> <p>Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford University Press 2012. (日本語翻訳もあり、授業の最初に紹介する)</p>
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09205308	担当教員	山本 義春		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	<p>教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。</p>
授業計画	<p>【重要なお知らせ】第 1 回(4 月 3 日)の授業は新型コロナウイルスの感染予防へ配慮した形で 109 教室において短時間のガイダンスを行う。</p> <p>【重要なお知らせ(第 2 報、3 月 29 日)】新型コロナウイルスへの対応で、第 1 回(4 月 3 日)の授業(ガイダンス)は原則オンラインで行う。受講希望者は以下の URL から Zoom のミーティングに参加されたい。</p> <p>https://zoom.us/j/4391736635</p> <p>オンライン参加が無理な場合、感染予防へ配慮した形で 109 教室においても短時間のガイダンスを行う。</p> <p>-----</p> <p>以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理) ・運動の制御 ・睡眠と生体リズム ・情動 ・学習と記憶 ・統合失調症と感情障害 ・不安障害と発達障害
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	Physiology of Behavior, Neil R. Carlson, 11th edition, Pearson.
参考書	カールソン、神経科学テキスト 脳と行動、第 4 版、丸善。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09205309	担当教員	多賀 巖太郎		
単位数	2	学期	S1	時限	月 2, 木 2
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の秩序と生命の秩序 生命システムの動的複雑性 形態形成の神秘 脳の発生と発達 運動の起源 睡眠と意識の発生 知覚の発達 乳児期の学習 言語・認知発達 共生 <p>演習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 動的システム課題演習 指定図書についてエッセイの提出とプレゼンテーション 指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	演習課題のレポート、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	開講時に参考書リストを配布。
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)体育心理学に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09205310	担当教員	東郷 史治		
単位数	2	学期	A1	時限	火 1, 金 1
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	<p>近年、我が国の交通事故件数や交通事故死者数が減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、原発事故、薬物など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。</p>
授業計画	<p>各週の予定項目は以下のとおりである。</p> <p>ガイダンス</p> <p>学校安全(1): 安全教育</p> <p>学校安全(2): 体育・スポーツ活動中の事故</p> <p>災害安全(1): 安全安心科学</p> <p>災害安全(2): 救命処置</p> <p>現代生活安全(1): 薬物乱用</p> <p>現代生活安全(2): 飲酒・喫煙</p> <p>現代生活安全(3): 精神保健</p> <p>現代生活安全(4): インターネット・情報セキュリティ</p> <p>現代生活安全(5): 労働安全衛生</p> <p>現代生活安全(6): 高齢社会</p> <p>環境安全(1): 熱中症</p> <p>環境安全(2): 化学物質汚染</p> <p>定期テスト</p>
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	なし
参考書	初回に紹介する
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)(保)学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09205401	担当教員	岡田 謙介		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅱ Psychological Statistics II				

授業の目的・概要	<p>本講義では、心理学統計法Ⅰに引き続き、心理学で用いられる統計手法の基礎、および統計に関する基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>内容としては、統計的推定・検定の考え方からはじめ、その適用場面として平均値差と連関の分析を学ぶ。その後、より発展的な内容への基礎固めとして線形モデルの考え方を導入する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学で用いられる統計手法 2. 統計に関する基礎的な知識 3. 推定と検定 4. 推定量とその標準誤差 5. 検定力とその利用 6. 区間推定 7. 独立な2群の平均値差の検定 8. 平均値差および効果量の区間推定 9. 対応のある2群の平均値差の検定と推定 10. 2群の比率の差の検定 11. カテゴリ変数間の連関の分析 12. 線形モデルの基礎・ベクトル表現 13. 平方和および分散の分割 14. 独立変数の効果の検定と自由度 15. 平均値差への回帰分析的アプローチ
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	<p>「心理学統計法Ⅰ」で扱った内容を前提とする。</p> <p>学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる予定である。</p> <p>本科目は複数学部から開講される合併科目であり、科目間での調整が行われるため試験が通常講義とは異なる曜限で実施されることがある。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017年度以前開講「心理統計学Ⅱ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ Psychological Statistics III				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	<p>下記の事柄を 13 コマで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部分相関係数と偏相関係数 2. 偏回帰係数とその解釈 3. 重回帰分析のしくみ 4. 平方和の分割と重相関係数の検定 5. 個々の独立変数の寄与の評価 6. 完全無作為 1 要因デザイン 7. 多重比較の考え方 8. 完全無作為 2 要因デザイン 9. 対応のある 1 要因デザイン 10. 共分散分析 11. 因子分析の考え方とモデル 12. 因子分析のしくみと因子の解釈 13. 因子の回転 14. 共分散構造と母数の推定 15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年) 南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205403	担当教員	針生 悦子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	ことばの発達心理学(学習・言語心理学) Psychology of Language Development				

授業の目的・概要	人の行動が経験を通して変化する過程や、その中での言語の習得のメカニズムについて、概要を理解することを目標とする。授業では特に、子どもの言語獲得の過程とはどのようなものであるか、それを支えている人間の能力とはどのようなものか、言語獲得は人間の認知や思考にどのような影響を及ぼしうるのか、といった問題にアプローチするための研究方法も学びながら、現在得られている知見から、これらの問いに対してどのような答えを考えることができるのかについても検討していく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, ヒトの言語の特徴:ヒト以外の生き物のコミュニケーション手段との比較から 2, 子どもと言語の出会い 3, 発話から単語を聴き取る 4, 音素聞き分け能力の発達 5, 前言語コミュニケーション 6, 単語の学習①: 音声に意味を結びつける 7, 単語の学習②: 語彙爆発 8, 単語の学習③: 動詞の学習 9, 文法獲得①: 獲得のプロセス 10, 文法獲得②: "生得の文法知識"をめぐる議論 11, 文法獲得③: 文法をつくりだす能力? 12, 言語獲得の敏感期? 13, 言語と認識①: 言語間比較から 14, 言語と認識②: 発達
授業の方法	講義形式。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業で、参加者の授業内容に対するコメントの紹介、質問への回答なども行っていく。
成績評価方法	テスト
教科書	授業において適宜指示する。
参考書	針生悦子「赤ちゃんはことばをどう学ぶのか」中央公論新社 針生悦子(編)「言語心理学」朝倉書店 今井むつみ・針生悦子「ことばをおぼえる仕組み」ちくま書房
履修上の注意・備考	毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらおうが、これは、参加者の理解や興味を把握し、授業の内容や手法を調整するためのものである。単位の認定においては、テスト結果を重視する。 【履修上の注意点】 2018年度以前開講「ことばの発達心理学」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205404	担当教員	岡田 猛		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 2
講義題目	創造性の心理学 Psychology of Creativity				

授業の目的・概要	<p>創造性の心理学、特に「創造性への認知的アプローチ」を中心とした心理学・認知科学の研究知見について紹介する。この講義では、研究領域をくまなく概観することを目指すのではなく、芸術創作や科学的発見などに関する研究の具体例を詳細に紹介しながら、その背後にある考え方や方法論を理解できるように心がける。</p> <p>なお、実際に創造活動に携わっている専門家の講演も予定している。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業案内 ・熟達化 ・創造性の定義 ・創造性の概説 ・科学的発見 ・妥当性境界 ・面白い研究とは ・芸術創作活動 ・芸術的インスピレーション ・表現支援 ・ダンス ・伝統と創造 ・創造性評価 等
授業の方法	<p>基本的には、講義形式の授業である。加えて、参加者間のディスカッションやゲストスピーカーの講演等も計画している。受講生は宿題として、文献を読んで授業に臨むことなどが求められる。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業のレポートの提出と最終レポートにより評価する。</p>
教科書	<p>教科書は特に定めず、授業中に適宜関連文献を紹介する。</p>
参考書	<p>特になし</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205405	担当教員	加藤 健太郎		
単位数	2	学期	A1A2	時限	水 5
講義題目	教育測定 Educational Measurement				

授業の目的・概要	心理学や教育学では、「心理尺度」や「テスト」を通じて、性格・態度・能力・学力といった人間の様々な特性を測定し、研究仮説を実証的に検討することが行われる。また、社会全体を見渡しても、研究に限らず様々な場面でテストが利用されている。本講義では、人間の特性を測定する道具としてのテストに着目し、その作成方法や、その性能を定量的に評価するための基礎を与える「テスト理論」について学ぶ。研究の文脈に限定せず、世の中で用いられている様々なテストに触れ、テストに関する新しい技術等についても紹介する予定である。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・心理測定の概要 2. 教育・心理測定の歴史 3. 様々な教育・心理テスト 4. テスト作成の手順と考え方 5. 古典的テスト理論 6. 一般化可能性理論 7. 項目反応理論 8. テストの信頼性と妥当性 9. テストデータの分析方法 10. 新しいテスト技術
授業の方法	講義を中心に進める。パワーポイントによるプレゼンテーションおよび板書を主な講義方法とする。
成績評価方法	平常点(授業への協力・貢献;授業時間中に簡単な作業やアンケートを求められることがある)30%+期末レポート 70%
教科書	特に指定しない。必要な文献は授業中に適宜指示する。
参考書	南風原朝和『心理統計学の基礎』有斐閣アルマ 2002 野口裕之・大隅敦子『テストングの基礎理論』研究社 2014 日本テスト学会(編)『見直そう、テストを支える基本の技術と教育』金子書房 2010
履修上の注意・備考	(心理)統計学の基礎知識(記述統計・推測統計・分散分析・回帰分析)があること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205406	担当教員	實藤 和佳子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	乳幼児が示す社会的認知の発達 Development of Social Cognition During Infancy and Early Childhood				

授業の目的・概要	乳幼児は周りの世界をどのように見ているのか、特に、乳幼児は他者の“こころ”をどう理解しているのかについて取り上げる。また、自閉症などの発達障がいをもつ子ども達が示す発達についても注目する。発達心理学研究の知見から、乳幼児期に観察される社会的認知の発達について理解し考究することを目標とする。
授業計画	「ヒトに対して示す反応」、「他者の心の理解」、「乳幼児が示すコミュニケーション」、「自己理解と他者理解のつながり」、「自閉症スペクトラム障がい児者が示す他者理解」等のテーマについて、これまでになされてきた研究を紹介しながら講義を行う。
授業の方法	講義形式で、動画を含めたスライドをパワーポイントで提示する。各講義日に、受講者は質問やコメントを書き、提出する。内容に応じて、それらを翌日に取り上げる場合がある。
成績評価方法	授業で提出されるコメントや授業内で実施する課題の提出状況とその内容などから、総合的に判断して成績評価を行う。
教科書	特になし。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	発達初期に他者をどう理解しているか、まだ言葉をうまく話せない乳幼児を対象にして他者の心の理解をいかに測定するか、受講生もそれぞれ考えながら授業にのぞんでほしい。 【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2020年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205407	担当教員	古屋 晋一		
単位数	2	学期	S2	時限	集中
講義題目	音楽医科学 Neuromusic				

授業の目的・概要	音楽を知覚・認知・演奏するヒトの脳神経系の機序や身体の働きと、音楽家の超絶技巧の獲得・洗練・喪失・再獲得や音楽療法の背景にある脳神経可塑性について講義します。
授業計画	音楽の知覚・認知・情動に関わる脳神経機序 音楽演奏訓練と脳神経可塑性 音楽演奏のバイオメカニクスと感覚運動制御のメカニズム 音楽家の障害とリハビリテーション 音楽演奏の効果的で効率の良い練習法とトレーニング 神経音楽療法
授業の方法	講義, 学生によるグループワーク
成績評価方法	レポート(50%), 講義中の発表(30%), 出席(20%)
教科書	特に無し
参考書	ピアニストの脳を科学する. 超絶技巧のメカニズム(春秋社)2012
履修上の注意・備考	音楽と神経科学や心理学, 医学との関係についての学際的な興味を有すること. ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205408	担当教員	稲田 尚子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	水 4
講義題目	心理的アセスメント Psychological Assessment				

授業の目的・概要	臨床心理査定の中核的技法である心理検査法について、その基礎理論から実施法、解釈法を学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理的アセスメントの目的および倫理 2. 心理的アセスメントの観点および展開 3. 知能検査 4. 発達検査 5. 人格検査: 質問紙法・投影法・描画法 6. 精神症状の評価: 質問紙法と面接法 7. 自閉スペクトラム症の評価: スクリーニング 8. 自閉スペクトラム症の評価: 診断・面接 9. 注意欠如多動症の評価 10. その他の発達障害の評価 11. 適応行動の評価 12. 神経心理学的検査 13. テストバッテリー 14. 適切な記録および報告 15. まとめと試験
授業の方法	基本的に講義形式だが、回によってはディスカッションを交え、ミニ・レポートを課す場合もある。
成績評価方法	授業の内容についての筆記試験を通じて成績評価を行う。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
履修上の注意・備考	原則として全回出席の見込みがある学生のみ履修を認める。心理学だけでなく、さまざまな分野の学生の参加を歓迎する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205409	担当教員	高田 治		
単位数	2	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	福祉心理学 Psychology for Social Welfare				

授業の目的・概要	福祉領域における心理援助について学ぶ。特に、どのような援助対象者であり、どのようなニーズがあるのかについて、現場の感覚に触れ、考える。
授業計画	<p>社会福祉とは何かということから始め、様々な福祉領域を概観し、福祉現場において生じる問題及びその背景、そして、心理社会的課題及び必要な支援について考える。</p> <p>福祉政策についてから始め、障害福祉、高齢福祉、児童福祉など各領域を紹介し、福祉サービスを受ける人への心理支援の特徴を概観する。障害を抱える人の様子など映像で紹介する。</p> <p>その後、児童虐待問題で注目される児童福祉施設における心理援助を例に具体的に実践について考える。児童虐待の現状、子どもに与える影響、家族の問題などを概観し、児童心理治療施設における被虐待児の支援の実際を紹介する。適宜グループ討議を入れ、支援者としてどういう心構えが必要かを討議してもらう。</p>
授業の方法	講義、映像資料の視聴、グループ討議
成績評価方法	平常点及びレポート
教科書	小畑文也編「福祉心理学」北大路書店
参考書	滝川一廣他編「心を育む生活」東京大学出版会
履修上の注意・備考	<p>教科書に目を通してくること</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>本科目は開講時期(1-3 月集中講義)の都合上、2020 年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205410	担当教員	武見 ゆかり		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	栄養学概論 Introduction to Human Nutrition				

授業の目的・概要	<p>栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動を続ける営みをいう。人間の健康の維持、増進のためには適切な栄養が必要である。人間は、食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら、こうした栄養の営みを行っている。本講では、人間の栄養の営み及び食生活を、地域社会や環境との関わりも含めてとらえるための基礎と応用を学習する。同時に、自分を事例として、健康状態やライフスタイルに合った、望ましい食生活を実現できる力の修得も目的とする。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、「栄養学」の視野1:世界の栄養課題:栄養障害の二重苦-飢餓と摂取過剰 2. 「栄養学」の視野2:人間が食に求めるもの、家族や友人との共食、楽しさ 3. 何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイド 4. 何をどのくらい食べたらよいか:6つの基礎食品、四群点数法 5. 食事診断の方法:食事調査法 6. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質、食物繊維) 7. 栄養素の機能と代謝② 脂質 8. 栄養素の機能と代謝③ たんぱく質 9. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン、ミネラル、水分 10. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準 11. スポーツと栄養 12. 生活習慣病と栄養:国民健康・栄養調査結果を中心に 13. 農業政策と栄養政策、「健康な食事」実現のための食環境整備 14. 健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう 15. まとめ:自分のライフスタイルにあった健康な食生活の実現に向けて
授業の方法	原則講義形式。一部演習を実施し、提出物を求める。
成績評価方法	最終回に試験(持込不可)(70%)、および提出物の内容(30%)を合わせて総合的に評価
教科書	必要資料は随時配布。参考図書を紹介。
参考書	香川靖雄「やさしい栄養学」(女子栄養大学出版部) 上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版部) 武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版」(第一出版)
履修上の注意・備考	開講中に数回、授業内容に関するコメントなどの提出を求めらるので、それに適宜対応すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205411	担当教員	佐々木 司		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	ストレス・マネジメント概論(健康・医療心理学) Introduction to Stress-Management				

授業の目的・概要	<p>生活上のさまざまな課題、あるいは心理・社会・生物学的ストレスに出会うことは誰もが避けて通れないことである。本講義では、そのような課題やストレスに対処し、それを克服するためのスキルと身体基盤の獲得・向上に必要な知識の習得を目的とする。特に大学生活、あるいは卒業後の生活における課題、ストレスへの対処力向上を、将来の市民的エリートに必要とされる相互扶助精神の涵養とともに図ることを目標とする。この講義で得られた知識やスキルをもとに、受講者自身の健康増進と維持、生活の充実をはかるとともに、自分の周囲の人々、社会全体の幸福の実現、相互の扶助に貢献できる人材として各学生が成長することを期待する。学部・大学院を問わず、また教育学部のみでなく、全学の学部・研究科学生の履修を歓迎する(単位認定については各学部・研究科の規定による)。なお、公認心理師が理解しておくべき、ストレスと病気との関係、医療現場や災害時に必要な心理社会的支援、ならびに保健活動における心理社会的課題とその支援についても学べる内容となっている。</p>
授業計画	<p>講義は毎回オムニバス形式で設定されたテーマごとに、教育学部心身発達専修ならびに本学学生相談ネットワーク本部(精神保健支援室、学生相談所など)の各教員が授業を行う。各回の講義テーマは、オリエンテーションおよび相談機関の紹介、学習の動機付け、生活リズムと心身の健康、不安とつきあう、メンタルヘルス、ストレスと心理的課題、親密な人間関係の発達・発展(家族療法コミュニケーションの知見から)、ハラスメントについて、社会人生活とメンタルヘルス、身体運動とメンタルヘルス、キャリアについて考える、また、ストレスと心身の疾病との関連、医療現場における心理社会的課題および必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題をよび必要な支援、災害時などに必要な心理に関する支援などについて予定している。</p>
授業の方法	<p>基本的には講義形式で行うが、各回で若干異なる</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義で課すレポート(テスト形式の場合もある)で行う。毎回講義の最後に記述してもらい提出する。このレポート(テスト)提出は出席の確認も兼ねる</p>
教科書	<p>特になし</p>
参考書	<p>特に指定なし</p>
履修上の注意・備考	<p>常識的なことであるが、レポート(テスト)提出は各自一人分を提出すること。複数人のレポートを1人が提出することは、公正な採点を行う必要があるため、認めない。遅刻や途中退出の場合も当然ながらレポート提出は認められない。(不正行為には zero-tolerance policy で厳しく対処するので注意されたい)</p> <p>本科目の単位は、学生相談ネットワーク本部でのピアサポート活動に参加する「ピアサポーター」資格取得のための単位の1つともなる。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2019 年度以前開講「ストレス・マネジメント概論」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p> <p>メールアドレス / e-mail address kenkou@p.u-tokyo.ac.jp, sasaki</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健</p>

時間割コード	09205412	担当教員	森田 賢治		
単位数	2	学期	A2	時限	集中
講義題目	脳科学特論 Functions and dysfunctions of the brain				

授業の目的・概要	This lecture gives an introduction to modern systems, cognitive, and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits, computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making), and computational approaches to neuropsychiatric disorders.
授業計画	The currently planned order is as follows, though this can be changed: <ul style="list-style-type: none"> - activity dynamics of neurons and neural circuits - computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making - computational approaches to neuropsychiatric disorders
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	none
参考書	will be announced in the lecture
履修上の注意・備考	We welcome motivated students from any departments (undergraduate or graduate) ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09205413	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	バリア・スタディーズ Barrier Studies				

授業の目的・概要	<p>人々は、社会生活をおくるにあたって様々な困難に遭遇する。中でも、障害者を含めて社会の中で周縁的な位置に置かれているマイノリティの人々にとって、建築物や社会制度や文化価値それ自体が、構造的なバリアを構成していることが多い。バリア研究は、こうした物理的・社会的・文化的バリアを抽出し、記述し、知識を集積することで、そうしたバリアを乗り越える方策を探るものである。本講義は、幅広い専門性を持つ教員による講義を通じて、バリアについて多角的に把握するための視点と道具を提供することを目的とする。</p>
授業計画	<p>4月3日 オリエンテーション <教育における「バリア」></p> <p>4月10日 教育のバリアフリーとICT利用(近藤先生)</p> <p>4月17日 「非行少年」からみた学校というバリア(小国) ゲスト: 渡邊洋次郎氏</p> <p>4月24日 学校組織における包摂と排除(二羽先生) <身体機能を通してみる「バリア」></p> <p>5月1日 現代の暮らしを支える社会環境と心身の健康(東郷先生)</p> <p>5月8日 脳の障害によって生じるバリア(野崎先生) <語り／言葉をめぐる「バリア」></p> <p>5月15日 当事者研究の可能性(熊谷先生)</p> <p>5月22日 障害者の語り(能智先生)</p> <p>6月5日 「見えない障害」とカミングアウト(飯野先生) <ゲスト講義></p> <p>6月12日 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義(河合先生(野崎先生)) <社会のひずみとしての「バリア」></p> <p>6月19日 災害におけるバリア／障害と社会構造(仁平先生)</p> <p>6月26日 社会現象としての「障害」(星加先生)</p> <p>7月3日 「バリア」の認識論(星加先生)</p>
授業の方法	<p>この授業は、S1についてはガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。S2についても、コロナウィルスの収束がなければオンラインでの開講となります。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行う。リアクションペーパーについては、ITC-LMS を用いて集めます。ただし初回については google フォームを用います。(関連ホームページの欄を参照してください)</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。</p> <p>また、初回のリアクションペーパーの提出先については、「関連ホームページ」欄をご覧ください。講義終了後 10 分以内に提出してください(それ以降の提出は無効とします)</p>
教育職員免許法上の認定科目	

心身発達科学専修 教育心理学コース

時間割コード	09206101	担当教員	能智 正博		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	臨床心理学概論 Introduction to Clinical Psychology				

授業の目的・概要	<p>臨床心理学は、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格の成長を促進するとともに、不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」として定義される。2015年9月に公認心理師法が国会で成立し、心理職の国家資格化が実現した。この心理職の専門活動の基盤となるのが臨床心理学である。本講義では、専門職としての公認心理師の基本となる知識と技能を解説する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none">1. 臨床心理学とは何か2. 心理職として必要な知識と技能3. 臨床心理学の生物的基盤4. 臨床心理学の心理的基盤5. 臨床心理学の社会的基盤6. 技法1:認知行動療法7. 技法2:家族療法8. 技法3:コミュニティ心理学9. 効果研究10. 脳科学・生物的研究11. 質的研究12. 研究と実践の倫理13. 質疑 <p>試験</p>
授業の方法	<p>大学院教育学研究科臨床心理学コースの教員のオムニバス講義である。基本的に講義形式だが、回によってはディスカッションを交え、ミニ・レポートを課す場合もある。担当教員のスケジュールとの関係で、授業の順番が変更になる可能性がある。</p>
成績評価方法	<p>授業の内容についての筆記試験を通じて成績評価を行う。</p>
教科書	<p>特に使用しない。</p>
参考書	<p>授業内で指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>この授業は、公認心理師取得のためのカリキュラムの一部である。また、学部横断型バリアフリー教育プログラムの一般科目として認定されている。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09206102	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学) Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教授・学習にかかわる認知プロセス, 小学校～高校の授業における教授・学習のプロセス, それに関連する子どもの発達のプロセス, それらの学習や発達を促進する学習方法について一人一人の学習者の視点から心理学的に明らかにする。それらの心理学的知見をもとに, 子どもの学力やリテラシーの形成に有効な各教科の学習内容や学習方法の構成についても検討する。
授業計画	<p>第1回:世界における教育の動向と教授・学習心理学の意義</p> <p>第2回:子どもの学力の心理学的分析①(数学的・科学的リテラシー, 概念的理解)</p> <p>第3回:子どもの学力の心理学的分析②(読解力, 無答率, 学習観, 手続き的知識)</p> <p>第4回:教授・学習のベースとなる発達プロセス①(発生的認識論, 構成主義)</p> <p>第5回:教授・学習のベースとなる発達プロセス②(素朴理論, 概念発達)</p> <p>第6回:教授・学習に関わる認知的プロセス①(知識獲得, 熟達化, 初心者と熟達者)</p> <p>第7回:教授・学習に関わる認知的プロセス②(発見学習, 有意味受容学習, 認知的葛藤, 探究)</p> <p>第8回:教授・学習に関わる認知的プロセス③(社会的相互作用, 他者, 協同過程)</p> <p>第9回:授業を通じた個人の変化と学習方法①(既有知識, 概念変化, 方略変化)</p> <p>第10回:授業を通じた個人の変化と学習方法②(協同的探究学習, 教科学習)</p> <p>第11回:授業を通じた個人の変化と学習方法③(授業過程, 教育評価)</p> <p>第12回:授業を通じた長期的変化(個人内変化, 自己説明, 記述型課題)</p> <p>第13回:教授・学習心理学の展開(社会性の発達, 発達と学習の関連)</p>
授業の方法	学校の授業における教授・学習のプロセスや, それを基礎づける発達や認知のプロセスについて, 教科書に記載されている具体的な研究事例をもとに理解し, さらに, それにもとづく学習方法や学習内容の構成について, 教科書に記載されている心理学的実践研究を中心に考察を深める。
成績評価方法	授業時の小レポート, および期末レポートにより行う。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018年)
参考書	『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012年), 『発達心理学—周りの世界と関わりながら人はいかに育つか—(第2版)』(藤村宣之編著, ミネルヴァ書房, 2019年), 『新しい時代の教育方法(改訂版)』(田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著, 有斐閣, 2019年)
履修上の注意・備考	<p>授業内で数回, 小レポートも課す予定である。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2019年度および2017年度以前開講の「教授・学習心理学概論」と同一科目のため, 既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(公)心理学

時間割コード	09206103	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 2
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology				

授業の目的・概要	<p>授業の目標: 現代発達心理学の成果に基づき、子どもの発達のプロセスとメカニズムおよび人の一生に亘る連続性と変化について基本的理解を得るとともに、心身の発達に資する養育・教育環境の役割について考究する力を身につける。</p> <p>授業の概要: 近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するか、加えて、人生後半、とりわけ中高齢期にどのような心理的課題があるかなどもについても論考することにした。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHD や自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。</p>
授業計画	<p>第1回: 私的発達心理学序論: 錯覚と発達①</p> <p>第2回: 私的発達心理学序論: 錯覚と発達②</p> <p>第3回: 生涯発達心理学の展開と課題</p> <p>第4回: 遺伝と環境①: 進化発達心理学</p> <p>第5回: 遺伝と環境②: 行動遺伝学</p> <p>第6回: 発達における時間の意味: 個体発生</p> <p>第7回: 発達の素地としてのアタッチメント</p> <p>第8回: アタッチメントの起源と発達</p> <p>第9回: アタッチメントの個人差とその規定因および発達の帰結</p> <p>第10回: 子どもの対人関係の広がりとの自己の発達</p> <p>第11回: 「心の理論」の起源と発達</p> <p>第12回: 感情および感情知性の発達とその機序</p> <p>第13回: 人生後半(中高年期)における心理的課題</p> <p>第14回: 発達障害とその支援</p> <p>第15回: 総括と展望</p> <p>定期試験</p>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	基本的に試験成績に基づいて行う(小レポートを適宜、課す場合もある)。
教科書	特に用いない。
参考書	<p>数井みゆき・遠藤利彦(編著)『アタッチメント: 生涯にわたる絆』ミネルヴァ書房 2005年</p> <p>遠藤利彦(編著)『発達心理学の新しいかたち』誠信書房 2005年</p> <p>遠藤利彦(編著)『読む目・読まれる目: 視線理解の進化と発達の心理学』東京大学出版会 2005年</p> <p>数井みゆき・遠藤利彦(編著)『アタッチメントと臨床領域』ミネルヴァ書房 2007年</p> <p>遠藤利彦・他(著)『乳幼児のこころ: 子育て・子育ての発達心理学』有斐閣 2011年</p> <p>小西行郎・遠藤利彦(編著)『赤ちゃん学を学ぶ人のために』世界思想社 2012年</p> <p>氏家達夫・遠藤利彦(編著)『発達科学ハンドブック 5: 社会・文化に生きる人間』新曜社 2012年</p>

小林隆児・遠藤利彦(編著)『甘えとアタッチメント』遠見書房 2012 年
遠藤利彦(著)『「情の理」論: 情動の合理性をめぐる心理学的考究』東京大学出版会 2013 年
遠藤利彦・他(編著)『よくわかる情動発達』ミネルヴァ書房 2014 年
箱田裕司・遠藤利彦(編著)『本当のかしこさとは何か: 感情知性を育む心理学』有斐閣 2015 年
秋田喜代美(監修)・遠藤利彦・他(編著)『乳幼児の発達と保育』朝倉書店 2019 年

履修上の注意・備考

授業時に指示する参考文献に、授業後、可能な限り、目を通すこと。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09206201	担当教員	全教員		
単位数	4	学期	S1S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅱ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology II				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査(質問紙)データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(学校、老人ホーム)の見学も行っていく。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。 2019年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅱ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09206202	担当教員	全教員		
単位数	4	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology III				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	必要に応じて授業中に指示する
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。「教育心理学実験演習Ⅰ」「教育心理学実験演習Ⅱ」とともに、実質的に、教育心理学コースの必修科目である。ほかの実験演習に比べると、参加者自身が、研究に積極的に関わっていける余地が大きく、コースの科目では模擬卒業論文のような位置づけとなっている。 【履修上の注意点】 2018 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅲ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09206501	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	通年	時限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導 Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行います
授業計画	個別指導と、コース教員参加の発表会。
授業の方法	個別あるいは集団で行います
成績評価方法	参加を持って行います
教科書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
参考書	「心理学の実践的研究法を学ぶ」2008 下山晴彦・能智正博(編)新曜社
履修上の注意・備考	主体的な参加が前提です
教育職員免許法上の認定科目	

心身発達科学専修 身体教育学コース

時間割コード	09207201	担当教員	野崎 大地		
単位数	3	学期	S2	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習 I Laboratory in Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 ガイダンス、レポート作成、文献調査の仕方 AD 変換器の使い方(握力データの PC への取り込み) 表計算ソフトの使い方、簡単なデータ処理(統計処理も含む) 筋の電氣的活動(筋電図)の測定 解析用アプリケーション(Matlab)の使い方 身体パワーの測定 運動学習能力の測定
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健 ※当初の開講予定から開講時期が変更になりましたのでご注意ください(S1→S2)

時間割コード	09207202	担当教員	野崎 大地		
単位数	3	学期	A1	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅱ Laboratory in Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09207203	担当教員	野崎 大地		
単位数	2	学期	A2	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅲ Laboratory in Physical and Health Education III				

授業の目的・概要	身体教育学演習Ⅰ,Ⅱで得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。
授業計画	2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。 ・毎週、進捗状況を報告する。 ・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	参考書は指定しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09207204	担当教員	野崎 大地		
単位数	2	学期	S2	時限	集中
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目) Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	2020年度は7月下旬に3泊4日を実施予定(費用は個人負担)。 ガイダンスを6月、事前打ち合わせを7月上旬に行う。 日程は決まり次第掲示する。
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)体育実技」に該当する。 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09207501	担当教員	全教員		
単位数	2	学 期	通年	時 限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	本年度に卒業論文を執筆し提出する予定の4年次を対象とする。
教育職員免許法上の認定科目	

教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目

時間割コード	09208001	担当教員	山辺 恵理子		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	Philosophical Issues in Education				
	Philosophical Issues in Education				

授業の目的・概要	<p>COURSE OBJECTIVES</p> <p>The aim of this course is to deepen students' understandings on education through philosophical dialogues on ethical and controversial issues in education.</p> <p>Abilities 1) to pose philosophical questions, 2) to think logically and critically, 3) to listen to counterarguments and to take them into serious account, 4) to reflect on one's own conceptions, perceptions, and assumptions and at times reshape or even abandon them, and 5) to read and write philosophical papers, are essential to philosophical dialogues, and thus will be developed and assessed in this course.</p>
授業計画	<p>COURSE OUTLINE (TENTATIVE)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: What is philosophy, and what does it have to do with education? 2. Topic #1: What is the difference between "education," "teaching," and "learning"? 3. Dilemma of "socialization" through education 4. Dilemma of structuring and systemizing education 5. Dilemma of having rules in education 6. Topic #2: What is the difference between a "child" and an "adult"? 7. Historical arguments on what makes a "child" 8. Ethical issues regarding the distinction between children and adults 9. Rethinking children's rights and abilities for political participation 10. Topic #3: Does education build or burn bridges between different groups? 11. Students' Presentation and Facilitation #1: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 12. Students' Presentation and Facilitation #2: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 13. Students' Presentation and Facilitation #3: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 14. Students' Presentation and Facilitation #4: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 15. Reflection: Looking back on the discussions we had throughout the course, students will reflect on how their conceptions, perceptions, and assumptions about education changed in the past months.
授業の方法	<p>COURSE REQUIREMENTS AND POLICIES</p> <p>All classes will be conducted in English. Students are required to read assigned papers before class, and be well prepared to participate in class discussions. Active participation is essential throughout the course.</p>
成績評価方法	<p>GRADING CRITERIA</p> <p>Class participation 30%</p> <p>Presentation and in-class discussions 30%</p> <p>Final essay 40%</p>
教科書	None. Reading assignments will be announced or handed out in class.
参考書	Biesta, J. J. G. (2010). Good Education in an Age of Measurement: Ethics, Politics, Democracy. New York: Paradigm Publishers.

Martin, J. R. (1987). *Reclaiming a Conversation: The Ideal of Educated Woman*. Yale New Haven, CT: University Press.

Ariès, P. (1965). *Centuries of Childhood: A Social History of Family Life*. Oxford, England: Vintage Books.

Stanford, J. A. (1996). *Responding to Literature* (2nd. Ed.), pp. 12–13. Mountain View, CA: Mayfield Publishing Company.

and other papers will be mentioned and/or handed out in class.

履修上の注意・備考

No prior experience or learning is necessary to take this course.

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09208002	担当教員	西島 央		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling				

授業の目的・概要	<p>学校は、現代日本社会において重要な役割を担っています。それゆえに、社会的な問題にもなりやすく、学校にかかわるできごとが新聞やテレビで取り上げられない日はないと言っても過言ではありません。しかし、学校にかかわるできごとは、自分や身近な人の体験などをもとに主観的に語られることが多く、客観的なデータに基づく検証が十分なされないまま、社会問題化してしまうこともしばしばです。</p> <p>学校について学術的に分析する際はもちろんのこと、政策課題として検討するときや、教員として、または保護者や地域の人間として学校に関わる時も、主観が先行して議論が錯綜したり迷走したりしないためには、データに基づいて客観的に学校を理解していることが望ましいでしょう。しかし、どんなデータであれ、一つのデータで学校を丸ごと描くことはできません。どのようにデータを作成し、どのようにそのデータを読むかで、描ける学校は変わってきます。</p> <p>この講義では、学校について論じたいテーマに適したデータはどのようなものか、そのデータをどのように読めばよいかということについて、「蒐集」「分類」「比較」という3つの手続きに注目しながら考えていきます。具体的には、学校制度の全体的状況、学校段階、学校内のいろいろな場面など、学校を多面的に捉えながら、データによって語る技法や注意点について学習します。講義を通して、データから学校を想像する力や、学校についてデータを使いながら考える力を身につけていくことを目的とします。</p> <p>なお、この講義は、社会調査士資格取得のための「【 C 】 基本的な資料とデータの分析に関する科目」に該当しています。</p>
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>データや資料に基づく検証のしかたについて、データをつくり(「蒐集」、データをまとめ(「分類」、データを読む(「比較」)手続きを説明する。</p> <p>第2回 カリキュラムから描く</p> <p>統計資料や学校文書等を、単純集計や度数分布等の形で整理して、日本の学校制度やカリキュラムの特徴について説明する。</p> <p>第3回 人数から描く</p> <p>官庁統計資料等を、度数分布や代表値を用いてグラフに整理して、学校規模や進学率等から捉えられる日本の学校の実態の特徴について説明する。</p> <p>第4回 教育費から描く</p> <p>官庁統計資料等を、度数分布や代表値を用いて整理して、学校教育に関わる教育費の特徴について説明する。</p> <p>第5回 対象からデータを「蒐集」「分類」「比較」する</p> <p>受講者間で模擬調査を行って、そのデータを使いながら、代表値の算出とクロス分析の手続きを実際にやってみる。</p> <p>第6回 学習の様子や学力から描く</p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、因果関係・相関関係・擬似相関などを読み解きながら、児童・生徒の学習のようすや学力の特徴について説明する。</p> <p>第7回 教師から描く</p> <p>調査報告等のデータを、代表値やクロス集計、回帰分析等を用いて整理して、相関係数から相関の強さを読み解きながら、日本の教師の特徴について説明する。</p> <p>第8回 授業場面から描く</p> <p>フィールドワーク論文の資料等を用いて、観察やインタビュー等の質的データをどのようにまとめているかを読み解きながら、日本の学校の授業場面の特徴について説明する。</p>

	<p>第9回 特別活動、部活動から描く 調査報告やフィールドワーク論文のデータや資料等を用いて、特別活動と部活動の特徴について説明する。</p> <p>第10回 学校建築、教具から描く 歴史研究論文の資料等を用いて、ドキュメント資料をどのようにまとめているかを読み解きながら、日本の学校の施設・設備の特徴について説明する。</p> <p>第11回 学校の規模、立地から描く 既存統計資料や調査報告等のデータを、代表値やクロス集計等を用いて整理して、学校規模や学校の立地する自治体の人口規模の違いが学校教育活動に及ぼす影響について説明する。</p> <p>第12回 教育の国際化から描く 官庁統計やフィールドワーク論文のデータや資料等を用いて、量的データと質的データがそれぞれ対象をどう描き出しているかを読み解きながら、日本における教育の国際化がどのような状況にあるのかについて説明する。</p> <p>第13回 まとめ さまざまなデータの「蒐集」「分類」「比較」という3つの手続きについて再確認しながら、学校を描くにあたりどのようなテーマにはどのようなデータを用いるのが適切かを説明する。</p>
授業の方法	<p>基礎的な資料とデータの分析に関する講義と、模擬調査のためのアンケートを作成し、そのデータを集計・分析する演習作業を行います。</p>
成績評価方法	<p>(1) 模擬調査の小レポート(50%) (2) 最終レポート(50%)</p>
教科書	<p>教科書は使用しません。 基本的に、毎回プリントを配布します。</p>
参考書	<p>藤田武志・西島央 2020 『教育調査の基礎』(放送大学教育振興会) 北川由紀彦・山口恵子 2019 『社会調査の基礎』(放送大学教育振興会) 安藤明之 2013 『第2版 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』(日本評論社) 盛山和夫 2004 『社会調査法入門』(有斐閣ブックス) 佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』(新曜社) 佐藤郁哉 2015 『社会調査の考え方』(上・下)(東京大学出版会) 地方史研究協議会 2019 『学校資料の未来』(岩田書院)</p>
履修上の注意・備考	<p>履修のための予備知識その他の条件はありません。 授業時間外の作業が多少あります。 社会調査士資格の取得をめざす学生は、受講するようにしてください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学</p>

時間割コード	09208003	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	A2	時限	月 3, 月 4
講義題目	学校教育学概論 An Introduction to Study on School Education				

授業の目的・概要	<p>私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに学校教育の歴史、世界やグローバル社会との関係における学校、教職と教員育成、教科教育という4つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。</p>
授業計画	<p>第1回 授業において学ぶこと 第2回 授業において教えること 第3回 授業を構成しているヒト・モノ・コト 第4回 授業における子どもの経験と教師の経験 第5回 学校で学ぶとは～英語の授業を通して 第6回 学校で学ぶとは～学校の生徒の視点から 第7回 学校で教えるとは～英語の授業を通して 第8回 学校で教えるとは～学校の教師の視点から 第9回 近代学校の成立 第10回 学校改革の展開 第11回 学校への包摂と排除 第12回 現代の学校 第13回 まとめ</p>
授業の方法	<p>授業の方法: 第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、3名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。</p>
成績評価方法	<p>成績評価方法: 授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
参考書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>配布された資料や教材を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09208004	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 2
講義題目	教育行財政学 Educational Administration and Educational Finance				

授業の目的・概要	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。前半を本多が、後半を勝野が担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
授業計画	以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある 教育行財政学分野(本多担当) 日本の教育行財政制度の概要、民主性と専門性、集権と分権、事前統制と事後統制、教育と福祉 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 「効果のある学校」研究、学校経営におけるリーダーシップ、教員評価、学校と保護者・地域の連携
授業の方法	講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	特になし。
参考書	村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』(有斐閣) 青木栄一・川上泰彦編著『教育の政治・行政・経営』(放送大学教育振興会) 勝野正章・村上祐介『新訂 教育行政と学校経営』(放送大学教育振興会) 勝野正章・藤本典裕編著『教育行政学(改訂新版)』(学文社)
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)

時間割コード	09208005	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	社会教育論 I Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会教育・生涯学習とは何か 2. 社会教育の歴史的理解 3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論 4. 生涯学習の国際的動向①: 欧米の動向を中心に 5. 生涯学習の国際的動向②: アジアの動向を中心に 6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策 7. 社会教育施設・職員 8. 学校教育と社会教育・生涯学習 9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習① 10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習② 11. まちづくりと社会教育・生涯学習 12. 参画型社会と市民の学び 13. 期末試験
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末試験 70%
教科書	なし
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09208006	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 4
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents				

授業の目的・概要	<p>標準的な統計学や調査法演習の一手手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うと言う意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの先端的統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることとなります。特に何ということもありませんが、授業は英語でやります。</p>
授業計画	<p>第1回:導入・データのかたち 第2回:表のかたち、表のバリエーション、グラフのバリエーション、用語、統計の大枠 第3回:量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 第4回～第6回:一変量データの分析(1) 図示とRの使い方 第7回～第9回:一変量データの分析(2) 区間推定の考え方とRの使い方 第10回～第12回:一変量データの分析(3) 仮説検定と分散分析 第13回:二変量・多変量・マルチウェイデータ 第14回:再び、データのかたち 第15回:再び、解釈の枠組みについて</p>
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組合せて進めます。
成績評価方法	成績は、主に(1)については課題の遂行により、(2)については小テストと授業への参加度により評価します。
教科書	使いません。
参考書	<p>直接授業には関係しませんが、並行して新井紀子『数学は言葉』(東京図書)を推奨します。</p> <p>(2)に関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。好みに応じて手元に置いておくとよいでしょう。英語ではホーエルの原書および Verzani Using R for Introductory Statistics. Chapman & Hall.が授業との関係ではお勧めです。中級まで進みたい場合 DeGroot & Schervish Probability and Statistics. Addison Wesley.がよいでしょう。Rを用いた入門書として日本語では山田ほか『Rによるやさしい統計学』(オーム社)をお勧めします。</p>
履修上の注意・備考	<p>実習でコンピュータを使います。</p> <p>駒場の情報基盤センターで行います。特に何ということはありませんが、講義とやりとりは基本的に英語で行います。ただし、状況に応じて、日本語に切り替えます。卒業時まで英語で高等教育レベルの議論ができるようになるというのは当然のことで、その「あたりまえ」を踏まえて英語で行いますが、別に昨今のあまり何も考えていない空疎な「英語化」の流れに与するのは教育に従事する者として無責任なので、このような扱いにします。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09208007	担当教員	影浦 峽		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	教育資料調査法演習 Seminar in the Survey of Educational Materials				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「考える」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミッ クな議論に参加し「考える」基本的な手続きを学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論: 考えていることと考えていると考えていること、など 2. 近代以降: デカルトと記号の問題 3. 「べきだ」の普遍へ向けた解放 4. 「考え」をはじめること 5. 「考え」を支えることと参照 (1) 6. 「考え」を支えることと参照 (2) 7. 支えることと表現すること 8. 表現すること (1) 言語と記号 9. 表現すること (2) テキストのメカニズム 10. つなげること 11. 分析的課題と探究 (1) 12. 分析的課題と探究 (2) 13. 評価 14. およそ考えることを可能にする条件をめぐって
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な分析的課題を、4:3:3の割合で評価します。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	教育学部教育実践・政策学コース進学者は必修です。 特に何ということもありませんが、場合に応じて英語で授業をするかもしれません。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09208008	担当教員	クリストファー・ボンディー		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	日本の教育研究 Analysis of Japanese Education				

授業の目的・概要	<p>Education serves multiple purposes in any society. It provides training and knowledge of specific information, the “basics” if you will. In addition, education also reflects what a given society considers important for future generations to know in order to be a functioning member of that society. In this course, we will consider the expectations and outcomes of Japanese education by looking at both intended and unintended outcomes. Further, we will consider how the education system provides for those who do not fit within this structure.</p>
授業計画	<p>Week 1 Introduction to course, expectations, etc.</p> <p>Week 2: The relationship of an education system and the broader society Conflict Model/Structural Functionalism</p> <p>Week 3: Social Class and Education</p> <p>Week 4: Elementary Education – learning to be a student</p> <p>Week 5: Junior High School – the pressures increase</p> <p>Week 6: Mid Term Examination</p> <p>Week 7: High School – Diversified experiences</p> <p>Week 8: Alternative and Minority education</p> <p>Week 9: Visit with Tokyo Shurei Alternative School staff member</p> <p>Week 10: Shadow education – Juku and Yobiko</p> <p>Week 11: Special Education</p> <p>Week 12: Visit to Korea University (in Tokyo)</p> <p>Week 13: Presentations of research project</p> <p>Week 14: Make Up class – Presentations on research project/ Film on Japanese Education and discussion/ wrap up</p> <p>FINAL PAPER: Submit on the last day of class.</p>
授業の方法	<p>Discussion: Each week, a student (or group of students) will lead the discussion. This requires all students to have done the reading and come to class ready to talk about what you read. The discussion leader(s) will need to provide their own brief summary (2–3 pages double spaced), highlighting the key issues in the reading(s) and prepare discussion questions to guide the class. Other students will need to submit a one page summary of the readings along with questions from the readings.</p> <p>Paper: You will be expected to write a 10 page (double-spaced) paper on a topic of your choice, as long as it is related to education. The paper will be written in flowing prose, without grammatical or spelling errors. You will be expected to present a brief summary of the paper at the end of the term.</p> <p>Exam: The exam will be a combination of true/false, multiple choice and short essay based on the readings/lectures up to that point in the course.</p>
成績評価方法	<p>Evaluation:</p> <p>Attendance: 10%</p> <p>Midterm Exam: 25%</p> <p>Final Paper: 40%</p> <p>Discussion leader/Participation: 25%</p>

教科書	<p>Readings:</p> <p>Required: Readings will be prepared by the instructor</p>
参考書	<p>Recommended:</p> <p>Tsuneyoshi, R. (2001) The Japanese Model of Schooling: Comparisons with the United States</p> <p>Tsuneyoshi, R. K. Okano and S. Boocock (2011) Minorities and Education in Multicultural Japan. London: Routledge Press.</p> <p>DeCoker, G. and C. Bjork (2013). Japanese education in an era of globalization: Culture, politics and equity. New York: Teachers College Press.</p>
履修上の注意・備考	<p>I encourage you to take the course, even if you are not confident in your English. We can all learn from each other.</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09208009	担当教員	野崎 大地		
単位数	2	学期	A2	時限	火 2, 金 2
講義題目	バイオダイナミクス Bio Dynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	<p>下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～ 3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～ 4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～ 5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～ 6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～ 7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～ 8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～ 9. 学習と記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～ 10. 意思決定のダイナミクスと自由意思
授業の方法	講義形式で行う。使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	講義中に指定する。
参考書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	<p>教育職員免許法上の認定科目:(体)運動学(運動方法学を含む)</p> <p>使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。</p> <p>http://researchmap.jp/dnozaki/資料公開/</p> <p>http://researchmap.jp/kenjimorita/資料公開/</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09208010	担当教員	佐々木 司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病) Functional Anatomy				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造と機能、それに関連した癌、生活習慣病、精神疾患などの疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	最終回は期末試験とし、残りを、総説、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生に分けて講義を行う。講義は佐々木と川内とで、分野によって分担する。
授業の方法	主に板書を用いた講義形式で行う。ノートは必ずとること。
成績評価方法	期末試験を行う。出席点も加味するが、基本的には試験の成績を重視する。
教科書	現在選定中
参考書	佐々木担当の授業では、坂井建雄、橋本尚詞「ぜんぶわかる 人体解剖図」成美堂出版 を主な参考書とする
履修上の注意・備考	2017 年度以前開講「機能解剖学 I」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。 特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09208011	担当教員	岡田 謙介		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	心理学統計法 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	<p>本講義では心理学で用いられる統計手法の基礎、および統計に関する基礎的な知識を学ぶ。内容としては、心理学の研究を進めるために統計学がなぜ必要となるかを概観したのち、1変量と2変量の記述統計学を扱い、そして推測統計学の導入を行う。これは、下記教科書の第1章から第4章までの範囲に対応する。本講義の目標は、受講生が心理統計学の基礎理論について数学的および概念的な理解を確立すること、およびそれを実際の心理学データ分析において適用するための手続きと技術を身につけることである。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学で用いられる統計手法 2. 統計に関する基礎的な知識 3. データとその表現・統計的方法の必要性 4. 分布の代表値・分布の散布度 5. 変数の線形変換と標準化 6. 共分散と相関係数 7. 回帰直線のあてはめ・予測値と残差の性質 8. 相関係数と回帰係数の性質の違い 9. 相関と共変と因果 10. 測定の妥当性と信頼性 11. 確率モデルと標本分布 12. 比率の標本分布の導出 13. 正規分布モデルと平均の標本分布 14. 2変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布 15. 確率モデルの適用に関する諸問題
授業の方法	講義形式で実施する
成績評価方法	期末試験により評価する
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009年)
履修上の注意・備考	<p>学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる予定である。</p> <p>本科目は複数学部から開講される合併科目であり、科目間での調整が行われるため試験が通常講義とは異なる曜限で実施されることがある。</p> <p>【履修上の注意点】</p> <p>2017年度以前開講「心理統計学 I」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09208012	担当教員	全教員		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場（養護学校、家庭裁判所）の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要な場合には授業中に指示を出す。
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09208013	担当教員	山本 義春		
単位数	2	学期	A1	時限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論 I Introduction to Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	<p>からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。</p>
授業計画	<p>主要な設定課題は以下の通りである(2017年度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT/IoT とヘルスケア ・日常生活のモバイル行動医学 ・身体活動のゆらぎとリズム ・睡眠のしくみ ・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構 ・価値の学習・価値に基づく意思決定の脳身体機構 ・神経・精神疾患の機序(パーキンソン病・依存症などに焦点を当てて) ・競争のバイオソシオロジー ・身体運動の制御・学習の潜在性 ・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン ・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構 ・身体運動の学習過程の科学
授業の方法	<p>教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。</p>
成績評価方法	<p>平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。</p>
教科書	<p>授業内で提示する。</p>
参考書	<p>授業内で提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>授業内で提示する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理</p>

時間割コード	09208014	担当教員	多賀 巖太郎		
単位数	2	学期	A2	時限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論Ⅱ Introduction to Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	<p>脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達とは何か ・健康とは何か？保健で何を学ぶか？ ・心身の発達 ・心身の健康・発達と遺伝・環境 ・脳の発達 ・免疫・アレルギーと感染症予防 ・睡眠・運動・代謝 ・セーフティ・プロモーション ・認知・言語・学習 ・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学 ・動的システム ・小児発達障害とはどのようなものか
授業計画	<p>発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ</p> <p>健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的な方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ</p>
授業の方法	<p>教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。</p>
成績評価方法	<p>出席、レポート、試験の総合評価とする。</p>
教科書	<p>指定はしない。</p>
参考書	<p>ストロガッツ: 非線形ダイナミクスとカオス、田中久陽、中尾裕也、千葉逸人(訳)丸善出版 2015</p> <p>木原雅子、木原正博訳: 医学的研究のデザイン(第4版)メディカル・サイエンス・インターナショナル社</p>
履修上の注意・備考	<p>この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)学校保健 に該当する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健</p>

教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス

時間割コード	09209101	担当教員	小森 潔		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	国語科教育法(基礎) Basic Studies on Japanese Language				

授業の目的・概要	授業の目標:「国語科」の授業を実践する際に必要な基礎的知識を身につける。 授業の概要:「学習指導要領」の内容を理解するとともに、授業を実践する際に必要な知見について具体的な教材を用いて考察する。あわせて、国語教育の理論的・歴史的問題も視野に含めつつ、現在の「国語科教育」の抱える諸問題を考察する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、「国語科教育法(基礎)」で何を学ぶか 2. 「学習指導要領」の解説 3. 「国語科教育」の現状と課題 4. 評論の教材研究1(評論学習の意義、日本文化論、言語論) 5. 評論の教材研究2(哲学的な考え、現代的なテーマ) 6. 小説の教材研究1(小説学習の意義、近代の小説) 7. 小説の教材研究2(現代の小説) 8. 詩、俳句、短歌の教材研究 9. 「表現教材」の教材研究 10. 古文の教材研究1(散文) 11. 古文の教材研究2(韻文) 12. 漢文の教材研究 13. これからの「国語科教育」 14. 指導計画・学習指導案の作成、模擬授業に向けて(情報機器の活用を含む) 15. 「国語科」の評価方法
授業の方法	講義、ディスカッション、個別発表による。
成績評価方法	毎授業時の課題(50%)、レポート(50%)による。
教科書	高等学校の国語教科書(『国語総合』教育出版)を用いる。入手方法は、第1回目の授業時に説明する。
参考書	授業時間中に提示する。また、授業時に「学習指導要領」、その他の資料を適宜配付する。
履修上の注意・備考	この科目は教職に関する科目であるので、原則として「国語」の教員免許を取得しない者の受講は認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09209102	担当教員	頓所 本一		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)A Practical Studies on Japanese Language A				

授業の目的・概要	<p>1. 国語を学ぶってどういうことだろう？</p> <p>国語を学ぶってどういうことだろうという哲学的な問いのない授業から、子どもは逃走していきます。改めて国語を学ぶってどういうことだろう？という哲学的な問いに対して、国語の真正性(世界づくり)、友との学び合い(仲間づくり)、自己形成(自分づくり)の三つの視座を通して、子どもが夢中になって言葉の意味を問い直し、友とその差異を突き詰め合いながら、一人もあきらめずにもがき合って取り組む国語の授業づくりをデザインします。</p> <p>2. 教える教師から学ぶ教師への転回</p> <p>また、今までのような知識注入型の「教える教師」から、子どもの事実から「学ぶ教師」への転回を図ります。テキストを分析・解釈する授業に子どもは魅力を感じません。子どもが自分の思いや考え、生き方と重ねた叙述を学習課題に据え、その叙述の奥にある経験や絆を仲間や教師と一緒に問い直し、読み描いていく、子どもの自己形成としての授業づくりを目指します。</p> <p>3. 3つの問い直し</p> <p>そのために本講座では、以下の三つについて問い直していきます。</p> <p>①教師としての「わたし」の自己形成を問い直します。</p> <p>②保育園見学から園児の非言語の世界を保育士の先生方がどのように聴いていच्छるか教師の「聴く」身体を問い直します。</p> <p>③教育現場で実践を重ねている先輩のお話から、学習課題の設定の仕方や教師の居方について問い直します。</p> <p>また、講義後半は受講生全員に模擬授業(20分)をしていただきます。「教える」授業ではありません。ことばを「読み味わう/読み描く」授業です。受講生(学生)が生徒役になって学習課題を探究します。授業デザインには受講生全員が理解できる『共有の課題』(平等性)と、グループで追究し合う『探究の課題』(質の向上)の2つを設定します。</p> <p>このような授業デザインづくりや学習課題の設定を受講生の仲間と共有することで、今後の教育実習に生かしていただければ幸いです。</p>
授業計画	<p>1 日目『聴くということ』～テキストの声を聴く・園児の声を聴く～★教師の「聴く」身体感覚</p> <p>1 回【ガイダンス・演習】「素朴な琴」(八木重吉)を中高生に授業をしたときに、あなたはどのような学習課題を設定しますか？/事前に送付した受講生の「詩画集」を読み、受講生の言葉や画像の奥にある「ひと」を感受していく。</p> <p>2 回【保育園見学「たんぽぽ保育園」】(予定)言葉以前である園児の声を聴く保育士の身体感覚に学ぶ</p> <p>3 回【保育園見学リフレクション】保育士さんの耳・身体から学んだことを share し合う。* 保育園見学レポートA4版 1枚 本日 22 時メール送信厳守</p> <p>2 日目『子どものくらしに身を置くということ』～教育現場で実践を重ねている先輩から学ぶ(予定)～</p> <p>4 回【講話・演習】「わたし」の国語授業づくり～ことばと向き合う・子どもと向き合う・自分と向き合う～(先輩のお話)【ビデオカンファレンス】教育現場の先輩の授業から学ぶ「子どもの声を聴く、友だちとつなぐ、テキスト(叙述)に戻す」</p> <p>5 回【講話・演習】教育現場からみえてくる国語授業の課題、今後の国語教育のゆくえ(先輩のお話) 予定</p> <p>6 回【演習】自分が選んだテキスト(模擬授業に向けて)に対して仲間の受講生はどの叙述に触発され、どんな問いをもったか、仲間のメッセージをもとに授業デザイン(探究の課題)を作成する。* 模擬授業用ワークシート提出 本日中 21 時厳守</p> <p>3 日目 模擬授業「1 人 20 分間」～「わたし」が構想した学習課題は受講生を夢中にさせたか？工夫させたか？もがかせたか？～</p> <p>7 回【模擬授業に向けての授業計画】聴く・つなぐ・もどす (導入計画・指名計画・板書計画など)</p>

	<p>8回【模擬授業】①1人20分間×4人 * 授業者の順番は講義当日お知らせします。</p> <p>9回【模擬授業】②1人20分間×4人</p> <p>4日目 模擬授業「1人20分間」教師の居方(聴く・つなぐ・もどす)を授業に取り入れる</p> <p>10回【模擬授業】③1人20分間×4人</p> <p>11回【模擬授業】④1人20分間×4人 * 受講生の人数によって内容に変更もあります。</p> <p>12回【カンファレンス】模擬授業からの学び(省察)/教育実習で生かしたいこと</p> <p>13回 本講座の振り返り</p> <p>* 上記の講義内容は受講者が16人の場合を想定して計画しました。受講者全員に模擬授業をしていただきますが、人数によって講義内容が変わることを予めご承知おきください。</p>
授業の方法	講義 保育園見学 グループ学習(男女混合) 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業(20分間の模擬授業)
成績評価方法	<p>①事前提出物(詩画集・模擬授業テキスト)状況</p> <p>②講義中の提出物(保育園見学事後レポート・模擬授業ワークシート)状況</p> <p>③講義の出席状況</p> <p>④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。4,000字以上。×切 受講後2週間以内)</p>
教科書	<p>「学びの光源」 頓所本一著 明治図書 2,500円</p> <p>* 生協にて購入いただけます。</p>
参考書	<p>「授業研究入門」稲垣忠彦・佐藤学 岩波書店</p> <p>「学びのゆくえ」牛山榮世 岩波書店</p> <p>「教師花伝書」佐藤学 小学館</p> <p>「教師の身体技法」佐藤学 太郎次郎社</p>
履修上の注意・備考	<p>【集中講義前に提出していただきたいこと】</p> <p>1 講義の事前に「詩画集」の作成を求めます。詳細は掲示板でお伝えしますが PDF 化し下のメールアドレスまで送信してください。提出期限は厳守をお願いします。また、作成した「詩画集」は受講生全員に配布いたしますので予めご承知おきください。</p> <p>2 講義後半に予定されている「模擬授業」のテキストを決めておいてください。テキストのジャンルは問いません。あなたが中高生と読み味わいたいもので結構です。ただしテキストの分量は4枚以内(A4版)をお願いします。詳細は掲示板でお伝えしますが1と同様、講義の事前に PDF 化しメールにて添付していただきます。</p> <p>【集中講義中の提出物】</p> <p>1 保育園見学事後レポート A4用紙1枚 当日送信×切</p> <p>2 模擬授業ワークシート(学習課題含む) A4用紙1枚 当日送信×切</p> <p>【集中講義中の持ち物】</p> <p>パソコンを持参してください。(保育園見学レポート作成・授業デザイン作成などに使用します。)</p> <p>【最終レポート提出】</p> <p>講義終了2週間以内 8月14日(金)24:00までに送信。A4用紙 4,000字以上</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09209103	担当教員	浅香 真弓
単位数	2	学期	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B Practical Studies on Japanese Language B		

授業の目的・概要	<p>本授業は、教育実習に必要な技能を身につけることを目標とします。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中等教育における国語科の授業を行うための教材研究・学習指導案の作成ができる。 2. 協働学習、探究的な学習を意識した授業を計画することができる。 3. 目的と状況に合わせた教具の選び方、使い方を工夫することができる。 4. 自己の授業改善につながる授業見学をすることができる。
授業計画	<p>第1回 学習指導案の構成と学習指導要領との関係</p> <p>第2回 国語科における教材の役割</p> <p>第3回 協働学習・探究的な学習の意義と方法</p> <p>第4回 授業時の指導者の役割</p> <p>第5回 授業検討(ビデオ)</p> <p>第6回 教材研究のあり方・教具の工夫</p> <p>第7回 教材研究</p> <p>第8回 指導案作成</p> <p>第9回 指導案検討</p> <p>第10回 模擬授業 A</p> <p>第11回 授業検討 A</p> <p>第12回 模擬授業 B</p> <p>第13回 授業検討 B</p>
授業の方法	<p>第1回～第4回・第6回 授業者による講義および受講生による議論</p> <p>第5回 ビデオによる授業紹介とその検討</p> <p>第7回・第8回 教材研究と指導案作成(グループに分かれての作業)</p> <p>第9回 受講生による議論</p> <p>第10回～第13回 模擬授業と授業検討</p>
成績評価方法	参加状況・受講態度・提出物(学習指導案・レポート)により、総合的に評価する。
教科書	<p>【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説</p> <p>【国語編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説</p>
参考書	<p>【国語編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説</p> <p>【国語編】高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説</p>
履修上の注意・備考	<p>欠席すると、その後の活動が困難となる。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09209104	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎) Basic Studies on Social Studies, Geography and History				

授業の目的・概要	<p><テーマ></p> <p>中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を理解している。 2. 中学生(及び高校生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、評価の考え方の基本を理解している。 3. 中学校社会科の学習指導案の構成を理解して(高校への接続を視野に入れて)、具体的に作成できるとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 <p><授業の概要></p> <p>本授業は、①社会科の成立からその後の変遷と学習指導要領における社会科(地理・歴史的分野)及び地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係を把握し、③教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を行う。</p> <p>その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションー社会科との出会いー、第2回:社会科の成立ー「問題解決学習と系統学習」ー、第3回:社会科の変遷と新しい学力観ー「『覚える』から『考える』社会科へ」ー、第4回:中学校学習指導要領における社会科(地理的分野)の目標・内容・指導上の留意点、地理歴史科の成立と学習指導要領における地理歴史科の目標と構成、第5回:中学校学習指導要領における社会科と歴史的分野の目標・内容・指導上の留意点、高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点ー「歴史総合」「地理総合」ー、第6回:社会科授業論1(地理的分野)ー「地理的技能、地図の活用と読図・作図」ー、第7回:社会科授業論2(歴史的分野)ー「資料の活用と歴史的思考力」ー、第8回:社会科学習指導案の作成1ー「学習指導案の骨子をつくる」ー、第9回:社会科学習指導案の作成2ー「学習評価と問い、教材の効果的な活用」ー、第10回:社会科学習指導案と模擬授業1ー導入を中心にー、第11回:社会科学習指導案と模擬授業2ー「語り」を中心にー、第12回:社会科学習指導案と模擬授業3ー「板書」を中心にー、第13回:社会科地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正</p>
授業の方法	<p>講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)</p>
参考書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成22年)</p> <p>このほか授業中に適宜資料を配布する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業より必ず出席すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法</p>

時間割コード	09209105	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A(1) Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	<p><テーマ></p> <p>中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解と指導の実践</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を深く理解している。 2. 高校生(及び中学生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。 3. 社会科・地理歴史科にかかわる専門領域や探究的な実践研究の動向を知り、様々な指導理論を理解している。 4. 高等学校地理歴史科の学習指導案の構成を理解して(中学校社会科との連続性に配慮して)、具体的に作成するとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 <p><授業の概要></p> <p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションー地理歴史科における講義型と探究型の授業ー、第2回:歴史教育と教科書ー日本の教科書と世界の教科書、共通教科書ー、第3回:探究型で学ぶ社会科教育の実践と評価ー「思考・判断・表現力等」の育成、社会認識と価値判断ー、第4回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容及び指導上の留意点1ー「地理総合」「地理探究」ー、第5回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容及び指導上の留意点2ー「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」ー、第6回:環境・防災教育と情報機器の活用ー地理情報システム<GIS>の活用ー、第7回:地域調査ー伝統・文化の理解と持続可能な社会の形成ー、第8回:モノ教材の効果的な活用と博学連携、教材(文字史料・絵画史料等)の効果的な活用と「問い」、第9回:現代的な諸課題と新科目「歴史総合」「地理総合」、学習指導案の作成、第10回:模擬授業1ー導入「効果的な導入とは」、第11回:模擬授業2ー展開「資料の活用」「単元の基軸となる問い」、第12回:模擬授業3ー展開「類似・差違」「因果関係」、まとめ「現代的な諸課題とのかかわり」、第13回:社会科・地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正</p>
授業の方法	<p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を 60%、発表活動など授業への取り組みを 40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成 30 年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成 31 年)</p>
参考書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成 20 年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年)</p> <p>このほか授業中に適宜資料を配布する。</p>

履修上の注意・備考

教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業から出席すること。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09209106	担当教員	武田 竜一		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A(2) Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	中学校社会科と高等学校における地理・歴史における授業内容について、学習指導要領や教科書などの位置づけを理解した上で、具体的なイメージをつかむ。将来、社会科の教員を志望する者が受講する科目であるため、各自がすぐれた授業実践を積極的に学び、授業デザインを組み立てられるようになることが、最終的な目標となる。戦後に誕生した社会科の歴史をたどりながら、経験主義と系統主義カリキュラムの間で揺れ動いてきた社会科をどう評価し、今後の社会科教育はどうあるべきか、受講者とともに考えたい。
授業計画	1、オリエンテーション(教育のしごととは?) 2、社会科教育の歴史とその目標 3、学習指導要領を読み解く① 4、学習指導要領を読み解く② 5、教科書の批判的検討 6、社会科の学力と評価 7、主権者教育とシティズンシップ教育 8、学習指導案の作成 9、模擬授業とその検討① 10、模擬授業とその検討② 11、模擬授業とその検討③ 12、「主体的・対話的で深い学び」とは? 13、授業づくりの実際 14、筆記試験
授業の方法	講義と演習(受講者同士の意見交換、模擬授業の相互評価の実施など)を組み合わせて進める。毎回のテーマに関心を持ち、教員として生きる自身の将来をイメージしながら主体的に参加してほしい。
成績評価方法	模擬授業と筆記試験に加え、授業への積極的な参加の度合いを総合的に評価する。
教科書	授業ごとにプリントを配付する。
参考書	文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科(最新版)
履修上の注意・備考	教職にかかわる講座という性格上、出席は重視する。毎時提出するレスポンスシートをもって出席の確認をする。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09209107	担当教員	小澤 富士男		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	社会の成員としての自覚と能力を生かし、社会科学的な知識や人文科学的な知識を踏まえ、自主的な探求や主体的な関りを通し、さまざまな授業事例を学びながら、多面的で多角的な公民科教育を探究する
授業計画	<p>1時間目:「この授業」を創る「この」から始まる「この」とは？</p> <p>2時間目:主体的個人による公共への旅 授業事例1</p> <p>3時間目:「平和的状态とは何か？」を考える 授業事例2</p> <p>4時間目:「無知のヴェールを被って」(法の支配と人権について学ぶ) 授業事例3</p> <p>5時間目:貨幣を通して金融を展開(ゼロないしはマイナス金利の世界) 授業事例4</p> <p>6時間目:ロールプレイング・資料作成・討論など、様々な授業法を試みる 授業事例5</p> <p>7時間目:初期キリスト教を授業化してみる 授業事例6</p> <p>8時間目:アクティブラーニングによる他者との協働を通じた問題解決学習 授業事例7</p> <p>9時間目:授業案作成と授業スキルについて 模擬授業への準備</p> <p>10時間目:授業をやってみよう 模擬授業1</p> <p>11時間目:授業をやってみよう 模擬授業2</p> <p>12時間目:授業をやってみよう 模擬授業3</p> <p>13時間目:「自己責任」の時代とは 公民科教育の課題について考える 授業事例8</p>
授業の方法	授業事例への批判と討議を通して、公民科教育のスキルと教案作成上の留意点を学び、授業を行っていく上での実践的な態度を涵養する
成績評価方法	レポートによる評価 80%及び授業への参加意欲 20%を加味する
教科書	公民科学習指導要領 教科書:現代社会(出版元は問わない)
参考書	吉見俊哉著『ポスト戦後社会』 大澤真幸著『不可能性の時代』(いずれも岩波新書)
履修上の注意・備考	<p>社会的成員としての自覚と批判力、社会へ関わる主体的な態度が求められる</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09209108	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎) Basic Studies on Mathematics				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人」の先生になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。中学校授業参観、数学体験館での体験も行う。授業・教材におけるICTの利活用についても講義する。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション 第2回:学習指導要領の変遷 第3回:教材研究(数量領域「数と式①」) 第4回:教材研究(数量領域「数と式②」) 第5回:教材研究(図形領域① ユークリッド空間) 第6回:教材研究(図形領域②) 第7回:教材研究(関数・解析領域) 第8回:教材研究(確率・統計領域) 第9回:学習指導法・学習指導案の作成 第10回:中学校授業参観 第11回:数学体験館見学 第12回:ICTの活用 第13回:デジタル教科書の実際 第14回:筆記試験</p> <p>詳細はオリエンテーションで伝えます。</p>
授業の方法	<p>講義とグループ活動・作業的活動を行う。 模擬授業を必須として行う。</p>
成績評価方法	<p>小論文課題と筆記テストを行う。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成29年)、中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領解説 理数編(平成30年)</p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房 ”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房 その他は授業中に紹介します。</p>
履修上の注意・備考	<p>算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。 授業開始29分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとする。 講義回数(14回)の4分の3以上(11回以上)の出席を履修条件とします。</p> <p>【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法</p>

時間割コード	09209109	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 1
講義題目	数学科教育法(実践)A Practical Studies on Mathematics A				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成および模擬授業を行い、評価についても考える。教材研究のあり方や課題解決型授業の実践例を構成する。授業・教材におけるICTの利活用についても体験する。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:学習指導案の作成について</p> <p>第3回:模擬授業1(数と式1)</p> <p>第4回:模擬授業2(数と式2)</p> <p>第5回:模擬授業3(数と式3)</p> <p>第6回:模擬授業4(数と式4)</p> <p>第7回:振り返り1</p> <p>第8回:模擬授業5(図形1)</p> <p>第9回:模擬授業6(図形2)</p> <p>第10回:模擬授業7(図形3)</p> <p>第11回:模擬授業8(図形4)</p> <p>第12回:振り返り2</p> <p>第13回:ICTの活用</p> <p>第14回:模試授業の振り返り</p>
授業の方法	<p>教材研究と模擬授業を必須として行う。</p> <p>模擬授業実施後ディスカッション及び受講生による相互評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>模擬授業、模試授業の学習指導案、振り返りとまとめの課題により評価する。</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成29年)(各自購入)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理数編(平成30年)(各自購入)</p> <p>中学校数学の教科書(学校図書株式会社 中学校数学1~3)(第1回に希望を確認し一括購入)</p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数/数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房</p> <p>”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房</p> <p>その他は授業中に紹介します。</p>
履修上の注意・備考	<p>算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。</p> <p>数学科教育法(基礎)を履修していることが望ましい。4領域の内容を理解していること。学習指導案の作成については既習であることを前提とします。受講までに確認しておくこと。</p> <p>模擬授業を欠席した場合は、単位を認めないので注意してください。</p> <p>授業開始29分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。</p> <p>講義回数の4分の3以上(11回以上)の出席を履修条件とします。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法</p>

時間割コード	09209110	担当教員	西脇 佳子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B Practical Studies on Mathematics B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	<p>第1回:「数学」と「学校数学」との違い</p> <p>第2回: 現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム</p> <p>第3回: 学習指導要領の歴史</p> <p>第4回: 学習指導法</p> <p>第5回: 評価</p> <p>第6回: 教材研究(空間図形の模型作りを例にして)</p> <p>第7回: 教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして)</p> <p>第8回: 教材開発(教科書の問題を生かす)</p> <p>第9回: 教材開発(生徒の反応・誤答を生かす)</p> <p>第10回: 数学的な考え方</p> <p>第11回: ICTの活用</p> <p>第12回: 数学的モデル化</p> <p>第13回: 学習指導案の書き方</p> <p>第14回: 模擬授業(学習指導案の進め方)</p> <p>第15回: 模擬授業(授業を評価する)</p>
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
参考書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
履修上の注意・備考	<p>上記の成績評価方法で記入したように、毎回の講義で学生の活動を重視し、さらにレポートを課すので、講義に出席することを前提とする。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09209111	担当教員	加藤 竜一		
単位数	2	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	理科教育法(実践)C(1) Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	<p>教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。</p> <p>理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。</p> <p>この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業Ⅰ① 9. 模擬授業Ⅰ② 10. 実験・観察の意義・授業における安全管理 11. 模擬授業Ⅱ① 12. 模擬授業Ⅱ② 13. 模擬授業Ⅱ③
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、模擬授業、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編</p>
履修上の注意・備考	<p>A1A2 タームの理科教育法(実践)C(2)と同内容である。</p> <p>履修生全員に模擬授業2コマを担当してもらう。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09209112	担当教員	加藤 竜一		
単位数	2	学期	A1A2	時限	水 5
講義題目	理科教育法(実践)C(2) Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	<p>教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。</p> <p>理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。</p> <p>この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業I① 9. 模擬授業I② 10. 実験・観察の意義・授業における安全管理 11. 模擬授業II① 12. 模擬授業II② 13. 模擬授業II③
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、模擬授業、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 理科編</p> <p>高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編</p>
履修上の注意・備考	<p>S1S2 タームの理科教育法(実践)C(1)と同内容である。</p> <p>履修生全員に模擬授業2コマを担当してもらう。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09209113	担当教員	青木 秀憲		
単位数	2	学期	S2	時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)A Practical Studies on Health and Physical Education A				

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た知識、経験をもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時には不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。</p> <p>なお、本授業ではバスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球等のアリーナスポーツを中心に取り扱い、これらのスポーツの指導実践および指導後の振り返りを実施する。また、「ニュースポーツ」と呼ばれる新興スポーツの説明、指導実践も行う予定である。</p>
授業計画	<p>1. イントロダクション 体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義、下手な動作を分析する</p> <p>2. 授業指導案の考え方、授業指導案の作成</p> <p>3. 指導実践見学</p> <p>4. 模擬授業および振り返り(第1回/バスケットボール)</p> <p>5. 模擬授業および振り返り(第2回/バレーボール)</p> <p>6. 模擬授業および振り返り(第3回/卓球・バドミントン)</p> <p>7. 模擬受領および振り返り(第4回/ニュースポーツ)</p> <p>※1回の授業は原則2時間分連続で実施する。 ※模擬授業でのスポーツ種目は予定。</p>
授業の方法	授業の前半は講義、ディスカッション、作業が中心。後半は模擬授業を実施するため、教師役、生徒役に分かれての実践が中心。
成績評価方法	実践が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。
教科書	文部科学省、中学校：学習指導要領（平成29年度告示）「第7節保健体育」、 https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf その他、随時、授業時に紹介する。
参考書	必要があれば、随時授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09209114	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	英語科教育法(実践)A Practical Studies on English Language A				

授業の目的・概要	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。 2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。 3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。 4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。
授業計画	<p>第1回: イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】</p> <p>第2回: 英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】</p> <p>第3回: 学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】</p> <p>第4回: 英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】</p> <p>第5回: 4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】</p> <p>第6回: 4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】</p> <p>第7回: 新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】</p> <p>第8回: ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板】</p> <p>第9回: 授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】</p> <p>第10回: 学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】</p> <p>第11回: 録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】</p> <p>第12回: 新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】</p> <p>第13回: ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】</p> <p>第14回: 学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】</p> <p>第15回: 授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】</p>
授業の方法	<p>まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(20%)、模擬授業の学習指導案(20%)、模擬授業への講評と議論(20%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(20%) 英語教育に関する最終レポート(20%)を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東洋館出版社 ISBN978-4-491-03460-7</p> <p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05168-5</p> <p>中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1558-50</p> <p>中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2</p>

高等学校学習指導要領(平成 21 年 3 月公示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1478-1
高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-04164-8

参考書

JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社
金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店
金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店
Jim Scrivener. (2011) Learning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition. Oxford: Macmillan Books.

履修上の注意・備考

原則として、教員免許取得予定者を対象とする。履修者数によっては上記の予定を多少変更する。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09209115	担当教員	越智 豊		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)B Practical Studies on English Language B				

授業の目的・概要	学習者の視点から、外国語教授法の歴史的背景と現代日本の学校の授業における応用について学び、学習指導案の作成、模擬授業等を行い、議論を通じて将来英語教師として必要な事柄と考え方を身につける。
授業計画	<p>第1回: イントロダクション、学ぶ側と教える側の視点の共有、外国語教授法の概観、英語教育が抱える現代的課題【キーワード 教える側 学ぶ側】</p> <p>第2回: 文法訳読法【キーワード オールイングリッシュ 受験勉強】</p> <p>第3回: ディレクト・メソッド【キーワード クリティカル・ピリオド 学習者の不安】</p> <p>第4回: オーラル・メソッド【キーワード オーラル・イントロダクション】</p> <p>第5回: オーディオリンガル・メソッド【キーワード 反復練習 自学自習】</p> <p>第6回: トータル・フィジカル・レスポンス【キーワード 身体 ノンバーバル 学習者の年齢】</p> <p>第7回: サイレント・ウェイ【キーワード 学習者の自律 学習と修行】</p> <p>第8回: コミュニティ・ランゲージ・ラーニング【キーワード 学習環境 アクティブ・ラーニング】</p> <p>第9回: サジェストペディア【キーワード 自己啓発 インプット アウトプット】</p> <p>第10回: クリル他最新の教授法【キーワード 教授法とトレンド メタ認知】</p> <p>第11回: 評価法、テスト、授業評価、学習指導要領【キーワード 評価の視点と方法】</p> <p>第12回: 模擬授業(1)【キーワード 導入、オールターナティブ】</p> <p>第13回: 模擬授業(2)【キーワード 】</p>
授業の方法	資料の読解、オーディオ・ビジュアル資料をもとにした、ペアやグループでのディスカッション、指導案の作成、模擬授業。外国語教授法についてはそれぞれの教授方法で授業を展開し、受講者はその経験をもとに自分の授業での応用方法について考える。
成績評価方法	短期集中授業という性質上、欠席は1コマ以内に留める。授業への参加度(資料の読解、ペアやグループでのディスカッションへの積極的な参加)(30%)、指導案と模擬授業の内容(30%)、最終授業内での講義に関するレポート(40%)。
教科書	授業中のハンドアウトによる。
参考書	白畑知彦他著(2009)『改訂版 英語教育用語辞典』東京:大修館書店
履修上の注意・備考	<p>備考 原則として、教員免許取得予定者を対象とする。履修者数によっては上記の予定を多少変更する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09209116	担当教員	今田 健蔵		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)C Practical Studies on English Language C				

授業の目的・概要	<p>1 授業のねらい</p> <p>学習指導要領と基礎的な学習指導理論を理解し、それらをふまえて英語の授業運用能力をつける。</p> <p>2 目標達成のための手立て</p> <p>(1) 学習指導要領を読み、学校教育で求められていることを理解する。</p> <p>(2) 理論を理解した後で、模擬授業などの実践を行い、授業設計力や授業運営力を身につける。</p> <p>(3) 個人で考えたり、グループで話したり、クラス全員で話す場を設け、協働的に学習する場を多く設ける。</p> <p>3 活動のゴール</p> <p>(1) それぞれが設定した授業のめあて(目標)に向かって授業が進められているか確認する。</p> <p>(2) 講義等で学んだ知識や技術を活用して、めあて(目標)に向かった授業ができていないか確認する。</p> <p>(3) 授業では、話し合い等の協働学習等を用いて生徒が思考を深める場面を設定しているかを確認する。</p> <p>4 思考のポイント</p> <p>(1) 授業を計画する過程で、教授法、学習者の動機付けなど、様々なことをバランスよく考えて構想をねられる。</p> <p>(2) 自分が興味を持って考えることができる。</p>
授業計画	<p>英語教師として必要な知識および技術を身につけることを目標とする。日本の公教育として英語を扱うことの意義から始まり、英語学習についての歴史的概観をし、今求められている英語力を考える。また、年間授業計画や毎時の授業の指導案の立て方、授業方法、素材の見極め、教科書の本文の扱い方等を、講義・ペアワーク・グループワークなどを通して学習していく。指導案作成および模擬授業を履修者全員が行い、その過程を振り返ることで、各自の課題を明確にする。また、テスト作りも行い、実際に受講者が将来現場で教員をする上で必要な知識・技能を身につけるために以下のように計画する。</p> <p>第1回: 講義, 学習指導要領が目指す英語教育, 英語の授業の目的について</p> <p>第2回: 講義, 英語教授法について</p> <p>第3回: 講義, 指導手順・技術について</p> <p>第4回: 演習, 教材研究と学習指導案</p> <p>第5回: 演習, 新出事項の導入(模擬授業1回目)</p> <p>第6回: 演習, ビデオによる授業研究1回目</p> <p>第7回: 講義, リーディング・リスニングの指導技術</p> <p>第8回: 講義, スピーキング・ライティングの指導技術</p> <p>第9回: 模擬授業準備</p> <p>第10回: 演習, 4技能を高める指導(模擬授業2回目)</p> <p>第11回: 演習, ビデオによる授業研究2回目</p> <p>第12回: 講義, 英語の授業における評価とテスト①(英語力とは, 信頼性とは, 妥当性とは, 波及効果とは)</p> <p>第13回: 演習, 英語の授業における評価とテスト②(単語テスト・定期テストを作る)</p>
授業の方法	<p>教壇に立った際に、英語教師として授業がしっかりと行えるように、学習理論を習得しつつ実践力を身につけることを目的としていることから、講義形式だけでなく、グループワークやペアワークを取り入れながら授業を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>演習の取り組み, およびそのリフレクションシートの内容 30%</p> <p>模擬授業の評価, およびそのリフレクションシートの内容 40%</p> <p>講義内容についてのミニクイズ 30%</p>
教科書	<p>中学校学習指導要領(平成29年告示)</p>

	<p>中学校学習指導要領解説・外国語編(平成 29 年告示)</p> <p>高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)</p> <p>高等学校学習指導要領解説・外国語編(平成 30 年告示)</p> <p>* 資料が多岐にわたるため、こちらからレジュメを提供する。</p>
<p>参考書</p>	<p>樋口忠彦・緑川日出子・高橋一幸(編著)『すぐれた英語授業実践—よりよい授業づくりのために』[大修館書店]2007 年</p> <p>樋口忠彦・高橋一幸(編著)『Q&A 中学英語指導法事典—現場の悩み 152 に答える』[教育出版]2015 年</p> <p>鈴木渉(編著)『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』[大修館書店]2017 年</p>
<p>履修上の注意・備考</p>	<p>本授業は教員として将来役に立つ知識技能を身につけてもらうことを目標とすることから、教育実習前後の学生や教員志望の学生に受講を推奨する。指導案の作成などに使うため、ノートパソコンなどを持参してほしい。理由なき欠席や遅刻は厳禁し、活動への主体的・積極的な参加を求める。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p> <p>原則としてシラバス通りに授業は進行するが、本授業は他の英語科教育法と内容が重複することを避けるため、適宜受講者と内容を相談しつつ進めていく予定。テストの作り方も教える予定です。実際に学校現場で役に立つ知識や技能を身につけてもらいます。</p>
<p>教育職員免許法上の認定科目</p>	<p>教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法</p>

時間割コード	09209117	担当教員	田中 昌弥		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ Educational Principles II				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の教育が形成された歴史的経緯と、その背景で織りなされてきた海外と日本の教育の諸理念・思想を理解する。 2. 今日の教育課題を社会・制度・人間発達の相互関係の観点から捉え直す。 3. 代表的な教育理論・教育実践が、どのように創られ、選択されたのかを知り、教職に就く者として、これからの時代に求められる教育を具体的に構想できるようになるための基本的素養を身につける。
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回: 教員養成における教育原理の意味</p> <p>第2回: 受講生の教育イメージ グループ討論</p> <p>第3回: 公教育の目的と理念</p> <p>第4回: 教育の歴史 近代教育の三重構造説</p> <p>第5回: 21世紀型能力をめぐる国際的動向と文科省</p> <p>第6回: 学力をめぐる学習指導要領の歴史</p> <p>第7回: 学力の構造</p> <p>第8回: 学習権論と人材養成論</p> <p>第9回: 発達論と教育の思想</p> <p>第10回: 教育問題を教育の原理から考察する</p> <p>第11回: 教育実践の検討</p> <p>第12回: 子ども理解とナラティブ・アプローチ</p> <p>第13回: まとめ ナラティブ・アプローチから見た教育の理念・歴史・思想</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理論と現実・実践との往還を重視して授業を進めるため、映像や資料を通して具体的な教育現実・実践のイメージをもつことを重視し、その教育学的な検討を行う。 2. 受講人数にもよるが、討論、発言の機会を折々に設定する。
成績評価方法	中間レポートと最終レポートを主としつつ、授業への参加、授業の区切りごとに提出してもらったメモも合わせて評価する。
教科書	・汐見稔幸他編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・堀尾輝久『教育入門』(岩波新書) ・荒井、田中、本田、宮田、山田編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版
履修上の注意・備考	<p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p> <p>※2018 年度以前開講「教育原理」(担当教員: 田中昌弥)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照

時間割コード	09209118	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2	学期	S1	時限	金 1, 金 2
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	<p>【目標】</p> <p>学習および発達の過程について理解を深め、発達段階に即した子どもの心理的特性を理解し、教育実践場面へつなげるための基礎となる考え方を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学で扱われてきた学習の原理、発達、思考の特徴などについて理解を深める。 2. 発達段階に即して子どもの心的メカニズムを理解し、教育実践へつなげるための能力を育む。 3. 教員になったときに直面する問題に対して、心理学的な観点から考えることができる。 <p>【概要】</p> <p>教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」を中心に子どもの発達状況に応じてどのような心理メカニズムが働いているかについて理解を深めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:学習の原理</p> <p>第2回:記憶のメカニズム</p> <p>第3回:乳児期から児童期の発達の過程</p> <p>第4回:青年期以降の発達の過程</p> <p>第5回:ことばや概念の発達</p> <p>第6回:問題解決と推論のプロセス</p> <p>第7回:協同で取り組むことの効果</p> <p>第8回:学習方略の有効性</p> <p>第10回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ</p> <p>第11回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ</p> <p>第12回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは</p> <p>第13回:活動性を高める授業づくり</p> <p>第14回:教育実践に対する教育心理学の貢献</p> <p>第15回:まとめ</p>
授業の方法	講義以外にグループワーク、少人数による討論をほぼ毎回の授業において行う予定である。
成績評価方法	<p>授業への貢献度(10%)</p> <p>レポート(30%)</p> <p>学期末試験(60%)</p> <p>ただし、出席状況が悪い場合には試験の結果によらず不可とする。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編 ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	<p>本授業は教職課程科目のため、出席(毎回のコメント提出)を重視する。また、グループ活動などへの積極的な参加も求める。</p> <p>教育実習等で欠席が多数見込まれる場合には、下記メールアドレスまで必ず事前に相談するか、授業時に必ず申し出ること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09209119	担当教員	堤 英俊		
単位数	1	学期	集中	時限	集中
講義題目	特別支援教育総論 An Introduction to Special Needs Education				

授業の目的・概要	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することできる。
授業計画	<p>次のようなテーマを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮 3. 障害の個人モデルと社会モデル 4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性 5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等) 6. 人種、国籍、性、母国語、貧困等の理解 7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ 8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体 9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用 10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習 11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携 12. 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動 13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育 14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて 15. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題
授業の方法	講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー(50%)、課題レポート(50%)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝 編(2019)『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房。
参考書	<p>堤英俊(2019)『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたちーインクルーシブ社会への教育学ー』東京大学出版会。</p> <p>木村泰子・小国喜弘(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。</p> <p>障害児の教授学研究会 編(2019)『アクティブ・ラーニング時代の実践をひらく「障害児の教授学」』福村出版。</p> <p>この他、各回の授業の中で関係する文献を紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>主体的な参加を前提とする。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p>

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

時間割コード	09209120	担当教員	上野 正道		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育課程Ⅱ Curriculum Studies II				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることとする。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 教育課程の変遷(1) 第3回 教育課程の変遷(2) 第4回 教育課程の変遷(3) 第5回 教育課程の変遷(4) 第6回 授業と学習(1) 第7回 授業と学習(2) 第8回 授業と学習(3) 第9回 学力とは何か(1) 第8回 学力とは何か(2) 第10回 教師とカリキュラム 第11回 外国の教育課程(アメリカ) 第12回 外国の教育課程(ヨーロッパ) 第13回 外国の教育課程(アジア) 第14回 教育課程の今日的課題 第15回 試験
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点と試験とレポートによる
教科書	授業中に指示
参考書	上野正道『民主主義への教育』東京大学出版会、2013年 上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014年
履修上の注意・備考	【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2020年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm ※2018年度以前開講「教育課程」(担当教員:上野正道)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5参照※F参照

時間割コード	09209121	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。</p>
授業計画	<p>道徳教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。</p>
授業の方法	<p>講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをおこなう。</p>
成績評価方法	<p>成績は、授業時間内に行う小テスト、小レポート・課題提出、資料作成・発表、最終レポートで判断する。授業内で実施する小テスト・課題等は、公欠のみ考慮する。</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。</p>
参考書	<p>参考書は使用しないが、次のものを使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文部科学省『中学校学習指導要領』 2 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則』 3 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 <p>3は、可能であれば持参すること。</p> <p>その他、関連する資料・文献等は授業中に適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09209122	担当教員	越智 豊		
単位数	1	学期	集中	時限	集中
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	中等教育段階における総合的な学習の時間について、現状を踏まえ、問題点および改善点を考え、実際の授業を想定して模擬授業を行う。
授業計画	第1回 総合的な学習の現状 第2回 総合的な学習の具体例(中学校) 第3回 総合的な学習の具体例(高等学校) 第4回 総合的な学習の種類とあり方 第5回 総合的な学習の将来像 第6回 模擬授業 第7回 フィードバック
授業の方法	中等教育段階における総合的な学習の時間について、現状に関する資料と受講者自身の経験を踏まえ、問題点および改善点を考え、ディスカッション形式で検討する。総合的な学習の将来像を描き、実際の授業を想定して模擬授業を行う。受講者相互の意見交換と内容を想定した模擬授業の実践、振り返りも議論でフィードバックしていく。
成績評価方法	議論への参加度、模擬授業の実践、振り返りレポートによる。
教科書	特に指定しない。
参考書	文部科学省学習指導要領
履修上の注意・備考	積極的な議論への参加と工夫を凝らした実践的な模擬授業の実施を期待します。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09209123	担当教員	森 俊二		
単位数	2	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学級びらき、学級通信 2. 生活指導と生徒指導 3. 子ども集団づくりへ 4. ゼロトレと子どもの権利条約 5. HR 実践分析① 6. HR 実践分析② 7. 三者協議会と生徒会実践分析 8. 指導と管理 ケーススタディ 9. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか ②HRにおける行事の指導 10. 文化祭指導案討議 11. 生徒会の指導 12. 子どもをめぐる課題 いじめ問題の指導 13. 実践事例分析 14. 特別なニーズのある子どもと生活指導 15. 実践事例分析 まとめ
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)
教科書	使用しません。授業用プリントを配布します。
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800円＋税 『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2019年 1200円＋税 『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200円＋税 『高校生活指導』201号 高生研編 教育実務センター 2016年 1200円＋税 『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税 『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016年 2500円＋税 『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005年 2100円＋税 『18歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400円＋税</p>
履修上の注意・備考	参考書の内容を進んで読んで下さい。

受講者の上限を約 50 名とします。定員を超えた場合は、原則として上級学年の受講を優先します。

【履修上の注意】

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照

時間割コード	09209124	担当教員	森 俊二		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学級びらき、学級通信 2. 生活指導と生徒指導 3. 子ども集団づくりへ 4. ゼロトレと子どもの権利条約 5. HR 実践分析① 6. HR 実践分析② 7. 三者協議会と生徒会実践分析 8. 指導と管理 ケーススタディ 9. HRの指導①班・討議・リーダーをどうつくるか ②HRにおける行事の指導 10. 文化祭指導案討議 11. 生徒会の指導 12. 子どもをめぐる課題 いじめ問題の指導 13. 実践事例分析 14. 特別なニーズのある子どもと生活指導 15. 実践事例分析 まとめ
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。
成績評価方法	レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)
教科書	使用しません。授業用プリントを配布します。
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200円＋税 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800円＋税 『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2019年 1200円＋税 『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200円＋税 『高校生活指導』201号 高生研編 教育実務センター 2016年 1200円＋税 『新しい時代の生活指導』山本敏郎他著、有斐閣アルマ、2014年、1800円＋税 『新・生活指導の理論』竹内常一 高文研 2016年 2500円＋税 『子ども集団づくり入門』全生研常任委員会編 明治図書 2005年 2100円＋税 『18歳を市民にする高校教育実践』白石陽一他編 大学図書出版 2400円＋税</p>
履修上の注意・備考	参考書の内容を進んで読んで下さい。

受講者の上限を約 50 名とします。定員を超えた場合は、原則として上級学年の受講を優先します。

【履修上の注意】

※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照

時間割コード	09209125	担当教員	北田 佳子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ Teaching Methods II				

授業の目的・概要	<p>教育方法の基礎的理論を理解し、目的に適した基本的指導技術を習得する。具体的には、21世紀を生きる子どもに必要な資質・能力の育成に適した学習形態、教材教具(情報機器を含む)、評価方法等について基礎的理解を深め、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。また、実際の授業映像の分析や小グループでの討議により理解と習得を深める。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教える」「学ぶ」とはどのような営みか(教育方法の基礎理論と実践) 2. 21世紀に求められる資質・能力とは 3. 学習形態は子どもの学びにどのような影響を与えるのか 4. アクティブラーニングにより育まれる資質・能力とは 5. 情報機器の活用で授業はどう変わるか 6. 21世紀型スキルとしての情報活用能力(情報モラル含む)の育成 7. 学習評価の理論と実践(測定しやすい力と測定しにくい力) 8. 真正の評価とパフォーマンス評価とは 9. 授業をデザインする①(学習指導要領と教材研究) 10. 授業をデザインする②(学習目標の設定と学習指導案の作成) 11. 授業をデザインする③(教材・教具の選定と板書計画) 12. 授業を実践する①(多様な学習形態の活用) 13. 授業を実践する②(教室談話と行為の中の省察) 14. 授業を評価する①(形成的評価と総括的評価) 15. 授業を評価する②(授業研究と教育方法研究)
授業の方法	<p>授業のテーマに沿った資料を配付し、それにもとづいた小グループによるディスカッションを中心に進めていく。</p>
成績評価方法	<p>最終課題(50%)、レポート(30%)、授業や議論への貢献度(20%)で評価する。</p>
教科書	<p>特に指定せず、講義の中で適宜資料を配付する。</p>
参考書	<p>・P.グリフィン他編(三宅なほみ監訳)『21世紀型スキル:学びと評価の新たななたち』北大路書房、2014年 ・松下佳代編『<新しい能力>は教育を変えるか:学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年 ・稲垣忠彦『授業研究の歩み 1960-1995年』評論社、1995年 ・稲垣忠彦、佐藤学『授業研究入門』岩波書店、1996年 その他参考資料は、講義の中で適宜示す。</p>
履修上の注意・備考	<p>この講義の履修にあたり必要となる予備知識や事前に履修しておくべき科目は特にないが、毎時間、配付資料や参考資料等と自分の経験を結びつけ、積極的に議論に臨むこと。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8参照※J参照</p>

時間割コード	09209126	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2	学期	A1	時限	火 2, 火 3
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

授業の目的・概要

■授業の概要

もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいのでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょうか？

教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。

受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ、生徒の立場で、生徒指導・進路指導を経験してきたはずですが。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場も踏まえて理解を深めていきましょう。

■授業の目標

本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。

■授業の到達目標

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。
- 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。
- 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。
- 4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。
- 5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。
- 6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。

授業計画

第1回：生徒指導・進路指導の意義と目的

第2回：生徒指導の現状(1)学校教育現場の抱える問題(体罰)

第3回：生徒指導の現状(2)学校教育現場の抱える問題(行き過ぎた指導)

第4回：生徒指導の現状(3)学校教育現場の抱える問題(校則問題)

第5回：生徒指導の理論(1)生徒指導の原理と学校教育裁判

第6回：生徒指導の理論(2)教師の生徒指導上の諸問題の背景要因

第7回：生徒指導の方法(1)特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携

第8回：生徒指導の方法(2)対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST

第9回：生徒指導の方法(3)暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱等の現状と対応

第10回：生徒指導の方法(4)インターネットや性に関する問題の現状と対応

第11回：進路指導の理論と方法(1)進路指導・キャリア教育の原理

第12回：進路指導の理論と方法(2)進路指導・キャリア教育の方法

	<p>第 13 回:進路指導の理論と方法(3)進路指導・キャリア教育の今日的課題</p> <p>第 14 回:総括</p>
授業の方法	講義のほかグループディスカッション等の班学習を実施します。
成績評価方法	授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内レポート 50%、期末レポート 50%で評価します。
教科書	特定の教科書は使用せず、適宜資料を配付します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『学習指導要領』および『学習指導要領解説 総則編』(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm) ・文部科学省『生徒指導提要』2011 年(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm)。 ・山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣アルマ、2014 年。 ・教育科学研究会[編]『いじめと向きあう』旬報社、2013 年。 ・山下英三郎『いじめ・損なわれた関係を築きなおすー修復的対話というアプローチ』学苑社、2010 年。 ・山本宏樹「なぜ学校で体罰や指導死が起こるのか?——社会に蔓延する“ダークペダゴジー”」2017 年(http://synodos.jp/education/19720)。 ・山本宏樹「『ダークペダゴジー』が、危険タックルを引き起こした。教育学者が指摘」2018 年(https://www.huffingtonpost.jp/2018/05/29/darkpedagogy_a_23446448/)。
履修上の注意・備考	<p>初回到授業の進め方について資料配付のうえ説明を行います。</p> <p>やむをえず初回到欠席をした場合は、申し出て必ず資料を入手してください。</p> <p>学生からの質問・相談には随時お答えしますので、お気軽にご連絡ください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照

時間割コード	09209127	担当教員	綾城 初穂		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 1
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II				

授業の目的・概要	<p>本授業では、主に学校教育領域での対立問題(生徒同士の衝突、生徒—教員間の対立、いじめ、暴力など)に対する、ナラティブセラピーによるアプローチを学ぶ。また、社会構成主義的な視点に立った支援の方法についても検討する。基本的には講義形式だが、実践の方法についての体験的な取り組みも入れる予定である。ナラティブセラピーおよび社会構成主義の観点から、理論的かつ実践的に学校で生じる諸問題について考え取り組めるようになることが到達目標となる。授業では学生からの積極的な参加が期待される。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション:学校現場の対立問題について</p> <p>第2回 ナラティブセラピーの理論</p> <p>第3回 ナラティブセラピーの技法</p> <p>第4回 対立コーチング</p> <p>第5回 メディエーション</p> <p>第6回 修復会議</p> <p>第7回 修復的实践</p> <p>第8回 いじめ問題</p> <p>第9回 秘密いじめ対策隊</p> <p>第10回 サークル会話</p> <p>第11回 暴力に関するグループカウンセリング</p> <p>第12回 ガイダンス授業</p> <p>第13回 ポジショニング理論</p> <p>第14回 ディスコースの視点から見た保護者支援</p> <p>第15回 学校教育領域における社会構成主義的アプローチの意義</p>
授業の方法	主として講義によるが、適宜グループワークも取り入れる
成績評価方法	複数回の小レポートと最終レポートを総合して評価する
教科書	ウインズレイド, J. ウィリアムズ, M. (著) 綾城初穂 (訳) (2016). いじめ・暴力に向き合う学校づくり—対立を修復し、学びに変えるナラティブ・アプローチ 新曜社. (Winslade, J. & Williams, M. (2012). Safe and peaceful schools: Addressing conflict and eliminating violence. Thousand Oaks: Corwin press.)
参考書	Gergen, K. J. (1994). Realities and relationships: Soundings in social construction. Cambridge, MA: Harvard University Press. 永田素彦・深尾誠 (訳) (2004). 社会構成主義の理論と実践—関係性が現実をつくる. ナカニシヤ出版.
履修上の注意・備考	特にない
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照

時間割コード	09209128	担当教員	斎藤 兆史
単位数	3	学期	集中
講義題目	教育実習 I Student Teaching I		

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	<p>事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。</p> <p>本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。</p> <p>事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。</p>
授業の方法	<p>事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。</p> <p>本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。</p> <p>事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。</p>
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	<p>履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(2週間)

時間割コード	09209129	担当教員	斎藤 兆史		
単位数	5	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育実習Ⅱ Student Teaching II				

授業の目的・概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	<p>事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。</p> <p>本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。</p> <p>事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。</p>
授業の方法	<p>事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。</p> <p>本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。</p> <p>事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。</p>
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(3週間以上)

時間割コード	09209130	担当教員	斎藤 兆史		
単位数	2	学期	A2	時限	金 5, 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高) Seminar on Professional Practice in Teaching				

授業の目的・概要	<p>教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。</p> <p>内容は、以下の2つに大別される。</p> <p>① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解: 現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。</p> <p>② 授業の計画・実施・研究協議: グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。</p>
授業計画	-
授業の方法	<p>教育学研究科教員と東大付属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。</p>
成績評価方法	演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。
教科書	特に指定しない。
参考書	各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。
履修上の注意・備考	<p>教職実践演習を履修する年度末に、教育職員免許状を取得する見込み者又は教育職員免許状の取得に必要な単位の修得をすべて終える見込みの者が対象となる。履修登録は UTAS によらず特別な方法で行うので、下記「関連ホームページ」にて各自確認のうえ遺漏のないよう注意すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス

時間割コード	09209201	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	教育原理 I Educational Principles I				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐり、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。
授業計画	<p>授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のメルクマール 2. 人類化と人間化 3. 近代化の行方:イゾラド 4. 生命倫理を考える:エンハンスメント 5. 正常と異常を考える:野生児の事例 6. 近代学校の胎動と近代の人間観 7. 臨界期 8. 現代発達環境論 9. 発達と教育の基礎理論 10. 明治初期の教育 11. 戦時下の教育 12. 教育基本法 13. 戦後の中等教育制度 14. 学力観:PISA 等の構想 15. 現代の学校改革
授業の方法	<p>基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す。その論述を相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。</p> <p>「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。</p>
成績評価方法	<p>学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、いずれにしても、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。</p>
教科書	堀尾輝久他編『地球時代の教育原理』(三恵社)
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	<p>この科目は教職に関する科目である</p> <p>※2019 年度以前開講「教育原理」(担当教員:下地秀樹)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照

時間割コード	09209202	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 6
講義題目	教師論 I Teaching and Teacher Education I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。 2. 教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に、その検討のための材料を提供する。 3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む。 <p>【授業の概要】授業を通じて教員の職務内容とその特徴、教員にとっての学ぶことの意味、教員の服務と身分保障、教員養成の歴史、保護者・地域住民との関係づくり等について理解する。さらに、教員のライフコースに即して新採用教員、中堅教員、管理職教員の話聴く機会を設けることで、上記の理解を深めるとともに、教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に対して、その検討のための材料を提供する。</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション 授業計画、参考書、評価方法の説明</p> <p>第2回: 教員の職務【キーワード やりがい、無境界性、不確実性、再帰性】</p> <p>第3回: 教員にとっての学ぶことの意味【キーワード 研修の権利と義務、同僚性、授業研究】</p> <p>第4回: 教員のライフコース【キーワード 初任期、中堅期、管理職期】</p> <p>第5回: ゲストティーチャー(新採用教員)</p> <p>第6回: 教科指導の基礎【キーワード 教材研究、授業のデザイン、学習評価】</p> <p>第7回: 生徒指導の基礎【キーワード 子ども理解、コミュニケーション、カウンセリング】</p> <p>第8回: 教員の服務と身分保障【キーワード 身分上の義務、職務上の義務、ILO/ユネスコ教員の地位に関する勧告】</p> <p>第9回: ゲストティーチャー(中堅教員)</p> <p>第10回: 教員養成の歴史と現代的課題【キーワード 師範学校、開放制教員養成、免許状制度】</p> <p>第11回: 保護者・地域住民との関係づくり【キーワード 開かれた学校づくり、信頼、説明責任】</p> <p>第12回: ゲストティーチャー(管理職教員)</p> <p>第13回: 授業のまとめ</p> <p>ゲストティーチャーの都合等により、授業計画には変更がありうる。</p>
授業の方法	<p>毎時、授業でとりあげたトピックに関するグループ・ディスカッションの時間を設けるとともに、リアクションペーパーを記入して、内容理解の確認、深化を図るとともに振り返りを行う。</p>
成績評価方法	<p>講義で扱った内容に関する理解の確認を中心とする試験を行う。この試験の結果に授業への参加態度等を加味し、上記の到達目標を基準として総合的に評価する。</p>
教科書	なし
参考書	<p>佐藤学・秋田喜代美編著『新しい時代の教職入門』(有斐閣アルマ)</p> <p>勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』(有斐閣)</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>※2018 年度以前開講「教師論」(担当教員: 勝野正章)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照 ※当初の開講予定から開講時期および曜日が変更になりましたのでご注意ください(S1S2・火 6→A1A2・月 6)</p>

時間割コード	09209203	担当教員	高井良 健一		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	教師論Ⅱ Teaching and Teacher Education II				

授業の目的・概要	<p>教師という職業は、生徒にとって身近な職業であるが、その仕事の奥行き—難しさと複雑さ—を正確に理解することはたやすいことではない。逆に、この職業は、身近であるがゆえにはじめからわかったつもりになる危険をはらんでいる。そして、現在、教師の仕事はますます重要になるとともに、困難さを増している。こうした状況の中で、教師を志す人たちが確かなヴィジョンをもち、学びの世界に踏み出せるように、この教職論の授業では、教師の世界を内側—教師による語り・教師のライフストーリー—と外側—教職の社会的位置づけ・社会的使命—から理解することをめざしている。また、授業のなかでは、受講生が主体となり、参加するセッションも取り入れる。公教育における教師の使命は、民主主義社会を担う他者への配慮に満ちた市民を育成することにある。自らもアクティブな市民であるとともに、他者への配慮に満ちた市民を育てるという使命をもった教師たちが、東京大学から巣立っていくことを期待している。</p> <p>なお、具体的な授業の到達目標及びテーマは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。 2. 教職を将来の進路として真剣に検討している学生に進路選択のための材料を提供する。 3. 教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む
授業計画	<p>第1回: イントロダクション—教師の仕事とは</p> <p>第2回: 教師の新任期のとまどい—リアリティ・ショックと先輩教師からの学び</p> <p>第3回: 教師の新任期の発達—イニシエーションとアイデンティティの形成</p> <p>第4回: 教師の学びと研修—校内研修と教師の成長</p> <p>第5回: 教師の学びと同僚性—授業研究と授業づくり</p> <p>第6回: 教師の学びとキャリア・ステージ—中堅期の課題</p> <p>第7回: 教師の生活時間とサービス—教師の一日、一週間、一年</p> <p>第8回: 教師の精神的な報酬—感情労働と教師のやりがい</p> <p>第9回: 世界の教師たち—イギリスの事例より</p> <p>第10回: 世界の教師と21世紀の教育改革—フィンランドの事例より</p> <p>第11回: 協働的な学習と教師の仕事の変容—学び合いを育てる教師</p> <p>第12回: 教師のライフストーリー—教師の経験世界と時代</p> <p>第13回: 教師のライフサイクル—教師の一生</p> <p>第14回: 教師のミッションと歴史</p> <p>第15回: 学びの振り返り</p> <p>最終レポート</p>
授業の方法	講義、ビデオ視聴、グループ・ディスカッションのほか、個人発表、ワークショップなども取り入れる。
成績評価方法	授業への参加(個人発表・グループワーク・コメント・ミニレポート)70点と最終レポート30点で総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	<p>秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』(有斐閣)</p> <p>高井良健一『教師のライフストーリー—高校教師の中年期の危機と再生』(勁草書房)</p> <p>金子奨・高井良健一・木村優『「協働の学び」が変えた学校 新座高校 学校改革の10年』(大月書店)</p> <p>武田忠・伊藤功一『教師が変わるとき・授業が変わるとき』(評論社)</p> <p>伊藤功一『校内研修』(国土社)</p>
履修上の注意・備考	この授業では、受講生が教室の前に出て、話をする機会や、ワークショップ形式の授業を行うこともある。教師を志す

者として当然のことであるが、他の受講生や講師といった他者を尊重し、コミュニケーションに向けてひらかれることが求められる。これができない時は、受講を見直していただく場合があるので注意されたい。

授業中の私語やスマートフォンの使用など、ほかの受講生の学びを妨げる言動は慎まれない。

【履修上の注意】

※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと

学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

※2018 年度以前開講「教師論」(担当教員:高井良健一)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09209204	担当教員	林 明子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	教育と社会 Education and Society				

授業の目的・概要	この授業では、教育と社会をめぐる今日的な問題を取り扱い、学校教育に期待される役割や学校教育が抱える課題等について学びます。授業は教育社会学的な観点や知見をベースに展開します。以下の2点をこの授業の目標とします。1.学校とはどういう場所なのか、そこでは何を学んだのかという経験的な事柄について社会的に考え、相対的な視点をもてるようになる、2.そうした視点をもとに教育や社会に関する諸問題について、自分なりに検討できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンスー教育と社会について 2.学校経験の多様性 3.教育制度の歴史 4.階層と教育① 5.階層と教育② 6.子どもの貧困① 7.子どもの貧困② 8.学校・家庭・地域との連携 9.教育問題① 10.教育問題② 11.学校と教師 12.マイノリティと教育① 13.マイノリティと教育② 14.学校と子どもの安全 <p>※受講者の関心や理解の程度によって順番を変更したり内容を変えたりする場合があります。</p>
授業の方法	<p>授業内で配布したレジュメと資料に沿って、教育社会学の知識や方法、視点を学び、教育問題について検討していきます。講義のほか、必要に応じてグループワークやディスカッションを行います。</p> <p>授業後に、リアクションペーパー(感想や意見、要望等)を書いてもらうことがあります。また授業内容の理解度を高めるため、小テストを行います。</p>
成績評価方法	<p>小テスト(20%)、リアクションペーパー(30%)、期末レポート(50%)</p> <p>以上を総合して成績評価を行います。</p>
教科書	教科書は指定しません。授業では、レジュメ(授業の概要をまとめたもの)と必要に応じて資料を配布し、これに基づいて授業を行います。また授業内で、授業理解の手助けとなるような参考文献を随時紹介します。
参考書	<p>苅谷剛彦他 2010『新版教育の社会学 <常識>の問い方、見直し方』有斐閣アルマ</p> <p>酒井朗他 2012『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房</p>
履修上の注意・備考	この科目は、教職課程における「教育の基礎的理解に関する科目のうち「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」に該当します。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照

時間割コード	09209205	担当教員	小野田 亮介		
単位数	2	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I				

授業の目的・概要	<p>【授業の目標】「学ぶこと」や「教えること」のメカニズムについて心理学の観点から理解し、子どもの学習を支援できるようになることを目指す。また、教育心理学的な視点から社会的な問題を分析し、教育の展開可能性を考えられるようになることを目指す。</p> <p>【概要】教育心理学の中でも「発達」「教授・学習」「思考」などのテーマを中心とした講義を行う。各テーマについて心理学の知見を紹介し、それらの知見を踏まえて自他の学習場面を分析し、支援に反映する方法について考える。</p>
授業計画	<p>第 1 回: ガイダンス—教育心理学とは</p> <p>第 2 回: 認知と言語の発達</p> <p>第 3 回: 社会性の発達—障害のある子どもへの理解と支援</p> <p>第 4 回: 記憶のメカニズム</p> <p>第 5 回: 知識と理解</p> <p>第 6 回: 問題解決</p> <p>第 7 回: 学習のメカニズム</p> <p>第 8 回: 動機づけ(1) 自己決定と自己効力感</p> <p>第 9 回: 動機づけ(2) 原因帰属と達成目標</p> <p>第 10 回: 学級集団と教師の関係</p> <p>第 11 回: 集団の中での学習</p> <p>第 12 回: 授業のデザインと評価</p> <p>第 13 回: 期末テストおよび解説</p> <p>※講義内容は変更になることがある。</p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式だが、グループワークを取り入れることもある。</p> <p>講義前には予習を行い、講義後にはリアクションペーパーによって授業内容の理解や疑問点の記入を求める。また、これらの活動は WEB 上で行う予定である。</p>
成績評価方法	<p>予習とリアクションペーパーの内容(20%)</p> <p>講義内課題(20%)</p> <p>期末テスト(60%)</p> <p>ただし、出席状況が悪い場合には試験の結果によらず不可とする場合もある。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	授業時に適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回の授業で伝えるため、初回ガイダンスは必ず出席すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09209206	担当教員	岩田 一正		
単位数	2	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	教育課程 I Curriculum Studies I				

授業の目的・概要	<p>教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。この課題に迫ることによって、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。具体的には、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史の変遷・役割・意義・改訂の背景、教科領域横断的総合的学習、教育内容の選択基準・カリキュラム編成の類型、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを学ぶこととなる。なお、扱うテーマによっては、グループワークに取り組んでもらうこともある。</p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション、カリキュラムという用語の歴史、カリキュラムを巡る諸争点</p> <p>第2回: 戦前・戦時期的カリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947年、1951年、1958年学習指導要領の内容、社会的背景】</p> <p>第3回: 学習指導要領の変遷 2【1968年、1977年、1989年学習指導要領の内容、社会的背景】</p> <p>第4回: 学習指導要領の変遷 3【1998年、2008年、2017年学習指導要領の内容、社会的背景】</p> <p>第5回: カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】</p> <p>第6回: 教科領域横断的総合的学習の編成 1【総合的学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】</p> <p>第7回: 教科領域横断的総合的学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】</p> <p>第8回: カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型</p> <p>第9回: 教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異</p> <p>第10回: ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】</p> <p>第11回: ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】</p> <p>第12回: 他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】</p> <p>第13回: 他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】</p> <p>第14回: 他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】</p> <p>第15回: まとめ</p> <p>以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。</p>
授業の方法	<p>本授業はプレゼンテーション用ソフトを利用した講義形式で実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料の視聴も行う。なお、テーマによっては、受講生にグループワークに取り組んでもらい、グループワークを踏まえてレポートを記述してもらう。</p> <p>プレゼンテーション用ソフトのスライドをPDFファイルとしたものを、LMSを通じて配布する。</p>
成績評価方法	試験(80%)、授業内レポート(20%)。
教科書	金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019年。
参考書	<p>文部科学省(文部省)『学習指導要領』(各年度版)</p> <p>Philip Jackson, <i>Life in Classrooms</i>, Holt, Rinehart and Winston, 1968.</p> <p>国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』1・2・3、ぎょうせい。</p> <p>同前『生きるための知識と技能』4・5・6・7、明石書店。</p> <p>ブルデュー、パスロン『再生産』藤原書店、1991年。</p> <p>天野正子編『新編 日本のフェミニズム 8 ジェンダーと教育』岩波書店、2009年。</p>

直井道子・村松泰子編『学校教育の中のジェンダー』日本評論社、2009年。
 生田久美子編著『男女共学・別学を問いなおす』東洋館出版社、2011年。
 北野秋男・吉良直・大桃敏行編『アメリカ教育改革の最前線』学術出版会、2012年。
 熊倉啓之『フィンランドの算数・数学教育』明石書店、2013年。
 友野清文『ジェンダーから教育を考える』丸善プラネット、2013年。
 教育科学研究会編『学力と学校を問い直す』かもがわ出版、2014年。
 丹羽美之・吉見俊哉編『記録映画アーカイブ2 戦後復興から高度成長へ』東京大学出版会、2014年。
 山本由美『教育改革はアメリカの失敗を追いかける』花伝社、2015年。
 鈴木大裕『崩壊するアメリカの公教育』岩波書店、2016年。
 北川達夫他編『フィンランドの教育』フォーラム・A、2016年。
 エステル・デュフロ『貧困と闘う知』みすず書房、2017年。
 日英教育学会編『英国の教育』東信堂、2017年。
 岩田一正『教育メディア空間の言説実践』世織書房、2018年。
 デイヴィッド・ラバリー『教育依存社会アメリカ』岩波書店、2018年。
 樋田敦子『東大を出たあの子は幸せになったのか』大和書房、2018年。
 ジャック・ジェニングズ『アメリカ教育改革のポリティクス』東京大学出版会、2018年。
 OECD『図表で見る教育 OECD インディケーター』2019年版、明石書店、2019年。
 文部科学省『諸外国の教育動向』2018年度版、明石書店、2019年。
 その他の参考文献は、授業の際に提示する。

履修上の注意・備考

学部1年生から授業できる科目であるため、受講するために必要な予備知識というものはないが、上記したPDFファイルは事前に読んで授業に参加してもらいたい。
 ※2018年度以前開講「教育課程」(担当教員:岩田一正)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照

時間割コード	09209207	担当教員	西野 真由美		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校カリキュラムの全体を捉え、教科等横断的な視点や地域社会の資源を活用した道徳教育のカリキュラム・マネジメントを実践し、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。</p>
授業計画	<p>以下のテーマに沿って、進めます。</p> <p>(1)学校における道徳教育の意義</p> <p>学校で「道徳」を「教える」なんて不可能、仮にできたとしても、危険。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何を指すのかを批判的に検討しましょう。</p> <p>(2)日本における道徳教育の歴史</p> <p>明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。</p> <p>(3)道徳教育の理論</p> <p>代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。</p> <p>また、道徳の教科化に向け、「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。</p> <p>(4)現代的な諸課題と道徳教育</p> <p>キャリア教育、科学技術教育、情報教育など今日的なテーマに道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。</p>
授業の方法	<p>授業テーマに沿ったグループワークを中心に進めていきます。講義形式で進める場合も、グループワークやディスカッションでの意見を取り上げながら進めます。</p>
成績評価方法	<p>平常点(グループワークにおけるパフォーマンス評価)30%、グループワークの成果 30%、レポート 40%で評価します。</p>
教科書	<p>講義テーマごとにレジュメを配布します。</p>
参考書	<p>参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。</p>
履修上の注意・備考	<p>授業では、道徳教育をめぐる様々な問題にグループワークで取り組みます。そのため、授業は、多様な意見交換を元に合意形成を図ってテーマを深めていく協同探究が中心になります。探究に必要な知識はレジュメや参考文献で補充しながら、最後は自分の問題意識を明確にしてレポートを作成してください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09209208	担当教員	福島 昌子
単位数	2	学期	A1A2
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity		
		時限	火 6

授業の目的・概要	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>近年の児童生徒の問題状況を受け、道徳や総合的な学習の時間、特別活動に対する期待が高まる一方で、従来の指導法に対する厳しい批判の目も向けられるようになっている。そこで本講義では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.特別活動の本質をなす「望ましい集団活動を通して」という方法原理の再検討・再確認 2.道徳や総合的な学習の時間と特別活動の関わりと適切な指導法 3.現在の児童生徒の問題状況を踏まえた生徒指導の方法 4.学校組織の中で求められる教師としての役割に対する認識と自覚 <p>の4点を柱に講義を展開し、教職に求められる資質の育成を図ることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション これかたの学校教育に求められるもの、特別特別活動の目標と方法原理。</p> <p>第2回:自分たちが体験してきた特別活動①(学級活動を中心に)</p> <p>第3回:自分たちが体験してきた特別活動②(学校行事・生徒会活動を中心に)</p> <p>第4回:自分たちが体験してきた特別活動③(他の教科との関連)</p> <p>第5回:特別活動の目標と方法原理①(なぜ体験活動なのか、総合的な学習の時間をを中心に)</p> <p>第6回:特別活動の目標と方法原理②(なぜ探究とアクティブラーニング、協働なのか)</p> <p>第7回:特別活動の指導の在り方(教育課程の中での位置づけと関係性)</p> <p>第8回:児童生徒の問題状況と特別活動①(いじめ・不登校の予防に資する課題と事例)</p> <p>第9回:児童生徒の問題状況と特別活動②(発達障害の生徒へのケアに資する課題と事例)</p> <p>第10回:特別活動の実践例(中・高等学校における授業例と指導案作成のポイント)</p> <p>第11回:教材研究の進め方(家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方)</p> <p>第12回:中・高等学校における模擬授業の発表①</p> <p>第13回:中・高等学校における模擬授業の発表②</p> <p>第14回:中・高等学校における模擬授業の発表③</p> <p>第15回:まとめ</p>
授業の方法	<p>授業の概要</p> <p>多くの学生は、小中高の12年間を通して、特別活動や道徳、総合的な学習の時間の授業を受けてきたはずであるが、必ずしも明確な記憶を持っていなかったり、乏しい体験しか持っていなかったりすることが少なくない。そこで、講義の進め方は学生皆さんの体験を批判的思考をもって検討するとともに、近年の新しい考え方や取組を紹介する形で進めていく。また特別活動(道徳、総合的な学習の時間を含む)の性質も踏まえ、話し合い(議論)を重視し、事例検討とともに教育実践に近い状況を設定し講義を行う。※テキストについては、初回のオリエンテーション時に詳細を連絡する。</p>
成績評価方法	<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業への参加度、課題(発言、発表、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する(ワーキングペーパーは、加点評価のみに用いる(減点材料にはしない))。</p> <p>なお、期末試験は行わない。ただし指導案の提出、模擬授業の発表を評価に含める。</p> <p>合計得点60点以上で合格とする。</p>
教科書	<p>テキスト</p> <p>『中学校学習指導要領解説(平成27年3月)』</p> <p>『高等学校学習指導要領解説』</p>

	※必要に応じて、連絡する。
参考書	参考書・参考資料等 授業中に指示(Web からダウンロードできる「生徒指導リーフ」シリーズ等)
履修上の注意・備考	初回の授業では履修方法について説明するため、履修希望者は必ず出席すること。 本授業は 6 限に駒場キャンパスで開講されるため、5 限に本郷キャンパスで他の科目の履修予定者は、授業開始に間に合わないため、注意すること。 授業での積極的な発言・参加を求める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照

時間割コード	09209209	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学期	S1	時限	月 5, 月 6
講義題目	教育の方法 I Teaching Methods I				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]</p> <p>学校教育における「授業」について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における授業の特質について理解する。 2. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。 3. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。 4. 専門家としての教師の知識の特徴、専門的発達について理解する。 5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。 <p>[授業の概要]</p> <p>学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追及していく。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 学校教育の目的と学力形成の課題</p> <p>第3回 学校における学習の特質</p> <p>第4回 授業を支える制度や文化</p> <p>第5回 カリキュラムと授業</p> <p>第6回 授業のコミュニケーションの特徴</p> <p>第7回 授業のコミュニケーションと学習</p> <p>第8回 学び合うコミュニティづくりとIT技術の活用</p> <p>第9回 授業の構成要素</p> <p>第10回 学習の理論</p> <p>第11回 授業の理論</p> <p>第12回 教師の知識と思考</p> <p>第13回 教師の成長とライフ・コース</p>
授業の方法	講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。
成績評価方法	<p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。</p> <p>「出席および授業中の課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、出席が授業回数の3分の2に満たない場合および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。</p>
教科書	指定せず、授業中に資料を配付する。
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会)</p> <p>秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣)</p> <p>稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店)</p> <p>佐藤学『教育方法学』(岩波書店)</p>
履修上の注意・備考	とくになし

※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員:藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照

時間割コード	09209210	担当教員	寺崎 里水		
単位数	2	学期	S1S2	時限	月 6
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance				

授業の目的・概要	<p>学校教育における生徒指導、進路指導およびキャリア教育の意義と原理を理解するとともに、今日の中学生、高校生を取り巻く環境、若者のキャリア形成上の課題について学ぶ。また、個別の事情や課題を抱えた児童・生徒に対する生徒指導、進路指導およびキャリア教育の適切な指導に向けた方法原理、体制づくり、法令の内容を理解する。</p> <p>具体的には個別のトピックをとりあげながら、家庭環境の変化、多様性への対応、標準的キャリアの揺らぎ、若者文化と学校文化の衝突などの学校をとりまく状況を理解し、生徒に向き合うための教育観、発達観、指導観を確立する。また、ロールプレイングやグループワークを取り入れながら、児童生徒理解、個別の課題への対応、家庭や地域・関係機関との連携などに関して、実践に向けた基礎的な知識や指導方法を獲得する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導・進路指導の意義と教育課程上の位置づけ 2 社会の変容と学校における生徒指導の変化①生徒理解、居場所づくり 3 社会の変容と学校における生徒指導の変化②生活習慣の確立と規範意識の醸成 4 教育問題への対応①:学校に行かない、行けない子ども 5 教育問題への対応②:非行、逸脱行動 6 教育問題への対応③:生徒指導の体制と方法 7 進路指導・キャリア教育①:若年層のキャリア形成上の諸課題 8 進路指導・キャリア教育②:キャリアプランを考える 9 進路指導・キャリア教育③:学校の教育活動とキャリア教育 10 進路指導・キャリア教育④:生涯にわたるキャリア形成 11 学校と家庭・地域・関係機関との連携 12 地域・学校の多様性と進路指導・生徒指導 13 いじめ自殺裁判から「いじめ」と「自殺」を考える 14 自分自身の命を守る安全教育 15 まとめ
授業の方法	<p>授業の内容に関するプリントを配布し、それに沿った形で進める。</p> <p>講義形式を主体として、課題に応じてグループワークや DVD 鑑賞、ロールプレイングを行う。その結果をコメントシートにまとめて提出してもらう。</p>
成績評価方法	授業中のグループワークの成果や課題をまとめたコメントシート 40%、期末試験 60%。
教科書	とくに指定しない。
参考書	文部科学省(2010)『生徒指導提要』※web でダウンロード可能 授業内で適宜指示する。
履修上の注意・備考	配布資料をしっかりと保存すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照

時間割コード	09209211	担当教員	高岡 佑壮		
単位数	2	学期	A1A2	時限	月 5
講義題目	教育相談 I School Counseling I				

授業の目的・概要	<p>幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には、①学校における教育相談の意義と理論、②カウンセリングの意義及び理論や技法に関する基礎的知識、③教育相談の具体的な進め方やそのポイント・組織的な取組みや連携の必要性を理解することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション／教育相談とは 第2回:子どもの適応・不適応 第3回:児童・思春期の精神疾患の理解と対応 第4回:カウンセリングの基本とその考え方 第5回:カウンセリングの基本的な技法 第6回:認知行動療法 第7回:クライアント自身の気づき・成長の支援 第8回:不登校の理解と対応 第9回:いじめ・非行の理解と対応 第10回:発達障害の理解と対応① 他者との関わりを苦手とする子どもの特性理解 第11回:発達障害の理解と対応② 見えにくい発達の偏りを持つ子どもの特性理解 第12回:発達障害の理解と対応③ いじめや不登校などの背景にある発達に関する問題への対応 定期試験</p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式を取り、近年の学校現場における教育相談の重要性、教育現場において幼児・児童・生徒が直面しやすい様々なメンタルヘルス上の問題、代表的な心理的介入の理論や技法等について概説する。また相談を受ける上で必要な基本的姿勢の涵養を目指し、講義内で教員が提示する教育相談上の諸問題について考察の上リアクション・ペーパーにまとめる課題を講義内で実施する。</p>
成績評価方法	<p>定期試験(70%) 授業参加及びリアクション・ペーパー等(30%)</p>
教科書	<p>持参しなければいけない教科書等は特になし</p>
参考書	<p>「よくわかる臨床心理学」下山晴彦(編) ミネルヴァ書房 ※その他、授業の中で適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>事前に履修しておくべき科目等はないが、子どもの発達に関する講義内容が多く含まれるため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照</p>

特設科目

時間割コード	09209901	担当教員	栗田 佳代子		
単位数	2	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	「学びの場」づくり How Learning Works				

授業の目的・概要	<p>授業の概要</p> <p>『大学における「学びの場づくり」ーよりよいティーチングのための7つの原理』において紹介されているよりよいティーチングのために役に立つ7つの原理を丁寧に理解していきます。「ティーチングのため」に紹介されている原理ですが、社会において人に何かを伝え理解してもらうという機会は誰もが持ちうるものです。また、これは学習者側にとっても役に立つ原理です。各原理について、紹介事例について考え、研究知見を理解し、自分なりの行動指針として昇華していくという方法で学びます。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none">・7つの原理を他者に説明できる。・ティーチングの失敗事例について、その解決案を7つの原理をもとに示すことができる・7つの原理を自分の教える機会あるいは学ぶ機会に応用できる
授業計画	<p>授業は原則下記にしたがって進みます。</p> <p>4/7 (1) ガイダンス この講義の目的・目標、進め方などのガイダンス 学びの場をうまくつくることの重要性</p> <p>4/14 (2) 第1章 学生の先行知識が学習におよぼす影響 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>4/21 (3) 第2章 知識の体系化の方法が学習におよぼす影響 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>4/28 (4) 第3章 学生のモチベーションを高める要素 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>5/12 (5) ここまでのまとめ</p> <p>5/19 (6) 第4章 学生が熟達するには 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>5/26 (7) 第5章 学習を強化できる練習とフィードバック 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/2 (8) 第6章 学生の発達レベルと授業の雰囲気は学生の学習にとって重要な理由 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/9 (9) 第7章 自律的な学習者になってもらうために 表記トピックについての講義とディスカッション・グループワーク</p> <p>6/16 (10) ここまでのまとめ</p> <p>6/23 (11) グループディスカッション</p> <p>6/30 (12) グループディスカッション</p> <p>7/7 (13) グループディスカッション</p>
授業の方法	<p>本授業では、講義スタイルの他に、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、積極的な授業参加を求めます。</p>

成績評価方法	<p>成績評価方法</p> <p>授業への参加状況 50%</p> <p>レポート課題 50%</p> <p>(内訳)100 点満点とした場合の各配点</p> <p>授業の参加状況 50</p> <p>個人ワークへの取り組み 20</p> <p>グループワーク・全体ディスカッションへの貢献 20</p> <p>レポート課題の相互評価への取り組み 10</p> <p>レポート課題 50</p> <p>相互評価 25</p> <p>教員による評価 25</p> <p>* 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真面目に取り組みグループワークや全体に貢献する姿勢を高く評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。</p>
教科書	<p>教科書</p> <p>スーザン A アンブローズ、マイケル W ブリッジズ、ミケーレ ディピエトロ、マリーシャ C ラベット、マリーK ノーマン (著) 栗田佳代子 (訳) (2014)「大学における「学びの場づくり」よりよいティーチングのための 7 つの原理」玉川大学出版部</p>
参考書	<p>参考書・リーディングリストについては授業中に適宜指示します。</p>
履修上の注意・備考	<p>前提知識は特に必要としません。</p> <p>書籍講読を含んだ授業ですので、教科書は受講を決定したらご用意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションを多く行う授業です。 ・連絡手段は slack などを用いる予定です。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209902	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	ディスアビリティ・スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	<p><目的・目標></p> <p>ディスアビリティ(障害=「できなさ」)について考えるとは、どのような営みだろうか？それは、「できなさ」を抱える個体の性質について知ることと同時に、いやむしろそれ以上に、「できること」を条件付け、意味付け、価値付けている社会のあり方について考察することである。</p> <p>この授業では、(1)近年の新しい障害研究のパラダイムと、それに基づく基礎的な理論枠組みについて理解するとともに、(2)社会システムを支える様々な制度や規範と障害問題との連関について、多角的に分析する視点を獲得することを目的とする。</p> <p><授業概要></p> <p>前半でディスアビリティ・スタディーズの基礎的な概念や視点について解説し、後半では関連する日本語文献の講読等を通じてその理解を深化させる。</p> <p>※なお、この授業は、学部横断型「バリアフリー教育プログラム」のコア科目 A 群(選択必修)として開講されている。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス ディスアビリティとは何か I: 近代のカテゴリーとしての障害 ディスアビリティとは何か II: 無力化のメカニズム ディスアビリティとは何か III: リスク社会と排除される身体 ディスアビリティとは何か IV: 「障害の社会モデル」という視点 ディスアビリティとは何か V: 「障害平等」はいかにして可能か 文献講読 I 文献講読 II 文献講読 III 文献講読 IV 文献講読 V ゲストスピーカーとの対話 まとめ
授業の方法	<p>教員による講義、受講生による文献報告、ゲストスピーカーを迎えての対話等を組み合わせて授業を進める。いずれの形式においても、受講生の主体的・積極的な参加により、インタラクティブにディスカッションを展開することが期待されている。</p>
成績評価方法	<p>平常点 50%、レポート 50%の比率で評価を行う。平常点は、授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して評価する。レポートは、授業の終了時に提出を求め、授業目標への到達度の観点から評価する。</p>
教科書	<p>特に指定しない。</p>
参考書	<p>授業内で適宜指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209903	担当教員	中邑 賢龍		
単位数	2	学期	A1A2	時限	水 4
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies				

授業の目的・概要	<p>歩道にひいてある黄色い点字ブロックのデコボコが不便だと感じたことはありませんか？満員の通勤電車で電動車いす利用者が乗って来たら少し迷惑だと感じますか？</p> <p>近年、わたしたちの周りでは、「バリアフリー化」と呼ばれる環境整備が様々な場面で進められており、多くの場合、それは障害者にとって「やさしい」ことだと肯定的に受け止められています。ところが、ある障害者にとって「やさしい」環境を整備しようとしたところ、それが別の障害者や障害をもたない人たちにとって「やさしくない」環境を生み出してしまう、という事態も起きています。このように考えると、バリアフリーとは、一方で問題を解決しつつも、他方で別の問題を新たに生み出してしまうという二重性を内在した営みだと言うことができます。</p> <p>本講義では、バリアフリー化によって生み出される新たな問題と、その問題をめぐって人びとの間に引き起こされる衝突・対立を「バリアフリー・コンフリクト」というキーワードで捉えます。本講義を通じて、多様化、複雑化が進む現代社会において生じている様々なコンフリクトと向き合い、解決していくための技法について一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>以下に示したテーマでの講義を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーコンフリクトとは何か ・「回復」と「代償」のあいだ ・読み書きできない子どもの難関大学進学は可能か？ ・障害者への割引サービスをずるいと感じるあなたへ ・裁かれない人がいるのはなぜか？ ・全体の振り返りとまとめ <p>日程 担当(予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 9/30 近藤 2) 10/7 近藤 3) 10/14 高橋 4) 10/21 高橋 5) 10/28 星加 6) 11/4 星加 7) 11/11 熊谷 8) 11/25 熊谷 9) 12/2 中邑 10) 12/9 中邑 11) 12/16 福島 12) 12/23 福島 13) 1/6 休講 14) 1/13 担当教員複数名
授業の方法	<p>本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(中邑賢龍、福島智、近藤武夫、熊谷晋一郎、高橋麻衣子)および東京大学大学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センター(星加良司)に所属する教員がオムニバス形式で行う講義です。</p>
成績評価方法	<p>期間終了後に提出を求めるレポートによって評価を行います。</p>
教科書	<p>なし</p>

参考書	『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』 中邑賢龍, 福島 智(編), 東京大学出版会, 2012年9月
履修上の注意・備考	授業内容の問い合わせについては、直接担当教員までご連絡下さい。 教室は先端科学技術研究センター3号館2階207室になります。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209904	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会 Diversity and Society				

授業の目的・概要	<p>近年「ダイバーシティ(多様性)」という言葉が、社会や組織の目指すべき目標と関連づけられて語られるようになっていきました。そこでは性別や年齢、性的指向や性自認、障害等にもとづく差異が、社会全体の「活力」や企業の「生産性」向上に直結するものであるかのように捉えられがちです。しかし、私たちの間にある差異は平板なものとしてではなく、権力関係を含んだものとして存在しています。それゆえ、さまざまな摩擦や衝突を生み出すものでもあります。</p> <p>この授業の目的は、私たちの間の差異の編成のされ方やそこに働く権力関係に目を向けることで、ダイバーシティを社会的公正の観点から捉え直すことにあります。その際、フェミニズム研究やクィア研究、ディスアビリティ研究等の知見を参照することで、ダイバーシティについて学際的かつ多領域的に学んでいきます。</p>
授業計画	<p>第1回 ダイバーシティをめぐる問い</p> <p>第2回 差異について考えるための概念:特権、抑圧、交差性</p> <p>第3回 男らしさと多様性(1)</p> <p>第4回 男らしさと多様性(2)</p> <p>第5回 制度としての異性愛</p> <p>第6回 「消費」される性的マイノリティ(1)</p> <p>第7回 「消費」される性的マイノリティ(2)</p> <p>第8回 能力主義を再考する(1)</p> <p>第9回 能力主義を再考する(2)</p> <p>第10回 新自由主義と生の不安定性(1)</p> <p>第11回 新自由主義と生の不安定性(2)</p> <p>第12回 ダイバーシティと社会的公正(1)</p> <p>第13回 ダイバーシティと社会的公正(2)</p>
授業の方法	本授業は、担当教員による講義と指定文献についてのディスカッションを中心に行われます。受講生には指定文献を事前に読み、内容を理解した上で授業に参加することが期待されます。
成績評価方法	<p>1)出席点:20点</p> <p>2)レポート:80点(20点×4回)</p>
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	講義およびディスカッションは日本語で行いますが、指定文献には日本語文献と英語文献の両方が含まれます。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209905	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	マイノリティの排除と包摂 Exclusion and Inclusion of the Marginalised				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、社会における排除・包摂の過程や現象に着目し、様々な社会的マイノリティやマジョリティが置かれている位置と、それらの人々の関係性を分析するための理論や視点を獲得することにある。それにより、社会における異なる立場の人々の関係性について、意図的・無意図的に構築される社会の常識にとらわれることなく、多くの理論や視点を検討し、自らの研究課題に応じた解釈枠組みを選び取る力が得られるはずである。具体的には以下の3点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各社会的マイノリティの社会的位置に関し、どのような理論や視点があるのかについて概観できる。 2) 各理論や視点を批判的に検討できる。 3) 自らの経験や社会問題を、学習した理論・視点をを用いて分析できる。
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・受講生の関心分野についての聴取 2. 社会的マイノリティをめぐる議論の概要 3. 文献講読演習 I 4. 発展演習 I 5. 文献講読演習 II 6. 発展演習 II 7. 文献講読演習 III 8. 発展演習 III 9. 文献講読演習 IV 10. 発展演習 IV 11. 文献講読演習 V 12. 発展演習 V 13. まとめ <p>※具体的なスケジュールについては、受講者の人数等に応じて調整する可能性がある。</p>
授業の方法	<p>教員の講義は補足的なものとし、受講生による課題報告及び教員や受講生同士のディスカッションにより授業を進める。</p>
成績評価方法	<p>文献課題 5 回(事前提出)50%、ディスカッション 20%、期末課題 30%の比率で評価を行う。事前課題については、文献読み取りの的確性と質問・コメントの論理性について、ディスカッションでは解釈の的確性と応用の論理性について、期末課題は授業目標への到達度の観点から評価を行う。</p>
教科書	<p>授業内で適宜指示する。</p>
参考書	<p>Joy Moncrieffe and Rosalind Eyben eds., The Power of Labelling: How People Are Categorized and Why it Matters, published in 2007 by Earthscan in the UK and USA. (カテゴリー化に伴っていかにマイノリティが作られるのかという根本的な問いから出発し、国際援助などの実践現場において、それらがどのように機能し、影響を与えているのかについて、ラベリング・スティグマ・ハビトゥスなどの中範囲の理論を用いて分析している読み応えのある書)</p> <p>Tomas Boronski and Nasima Hassan. Sociology of Education. published by SAGE imprint in 2015 (教育に特化してはいるが、社会学の基礎的な理解とともに、マイノリティグループに関わる批判的理論が多く紹介されているテキスト)</p>

Steven M. Buechler. Critical Sociology (Second Edition). First published 2014 by Paradigm Publishers, later published 2016 by Routledge.

(特に“PART THREE: INEQUALITY AND DIFFERENCE”では、マイノリティに関連する社会学の批判的研究が網羅されている。)

履修上の注意・備考

・社会的マイノリティ・排除・包摂等に関する予備知識は特に必要としません。

・本授業では日本語の文献に限られることから、英語で文献を読むことが求められます。課題文献を熟読し、授業内のディスカッションに積極的に参加することが期待されます。

・授業者の専門分野は教育社会学になりますが、医療・福祉・環境・政治・経済・国際開発等に関わる社会学の他、文化人類学、社会心理学などの学際的分野に関連する課題を扱う予定ですので、学部・研究科領域を超えた履修を歓迎します。

授業の内容に関わる連絡は、教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターの二羽泰子宛でお願いします。

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09209906	担当教員	秋田 喜代美		
単位数	2	学期	A2	時限	集中
講義題目	発達保育実践政策学概論 Introduction to early childhood development, education, and policy research				

授業の目的・概要	<p>発達保育実践政策学は、子どもの育ちを中心に置き、子育て・保育の実践や政策のあり方について、学術的に解明検討を行う学際的学問領域である。本授業では、発達保育実践政策学に関わる多様なトピック、すなわち、乳幼児の発達、保育の理論・歴史・実践・制度・政策についての基礎的事項ならびに国内外の最新研究動向を学ぶ。さらに、学んだことや自身の経験に基づき、これからの子育て・保育の実践や政策、それを支える研究のあり方について他者と議論し、考える。</p>
授業計画	<p>下記の内容について講義とグループワークによって学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発達保育実践政策学の考え方 ②胎児・新生児・乳児の発達 ③乳幼児の認知的発達 ④乳幼児の社会情動的発達 ⑤乳幼児期の発達と子育て ⑥保育の理論と基本的な考え方 ⑦保育の制度・政策 ⑧保育の思想と歴史 ⑨保育の質と保育者の専門性 ⑩海外の保育の動向 ⑪特別なニーズをもつ子どもの発達と保育 ⑫保育の多様な実践のあり方 ⑬発達保育実践政策学の課題について考える
授業の方法	講義とグループワークを適宜交えながら授業を進める。
成績評価方法	レポート
教科書	<p>『あらゆる学問は保育につながる 発達保育実践政策学の挑戦』 秋田喜代美(監修) 山邊昭則・多賀徹太郎(編) 東京大学出版会</p>
参考書	<p>『乳幼児の発達と保育 食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』 秋田喜代美(監修) 遠藤利彦・渡辺はま・多賀徹太郎(編著) 朝倉書店</p> <p>『園庭を豊かな育ちの場に: 実践につながる質の向上のヒントと事例』 秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太(著) ひかりのくに</p> <p>『園づくりのことは 保育をつなぐミドルリーダーの秘訣』 井庭崇・秋田喜代美(編著) 野澤祥子・天野美和子・宮田まり子(著) 丸善出版</p> <p>『保育学用語辞典』 秋田喜代美(監修) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(編著) 中央法規出版</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209907	担当教員	尾竹 永子		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	デリシャスムーブメント:(動きながら考える、知る) Delicious Movement: Move to Think and Think to Move				

授業の目的・概要	<p>この授業は、ニューヨーク在住のコンテンポラリーアーティストによる歴史、身体、時間、空間の認知とあらたな表現の可能性を多角的に探る授業である。探求、認識、発見のプロセスとして身体を動かし、時間と空間が不均衡でありながら連続していることを触知、経験する。また 他の参加者と協力することで 他者の身体と感性を学び、自らの認識力、想像力、感性、美意識を育てる。言葉を使わずに何をどのように認知し、あるいはコミュニケーションするか？ そのようにして学んだことをどのように再び言葉で表現するか？ 身体の動き、また言語表現において 曖昧さは必然である。それに積極的にとりくみながら、太古からのいのちの流れと 生きていることの意志を参加者それぞれがあらたに経験し、表現の可能性を探る。</p>
授業計画	<p>1.まず床に寝て身体をゆっくり動かす事で自分の身体への自覚をたかめる。2.自己表現にとらわれず 課題にそって 身体をうごかす。3.動物、植物、鉱物、もの、環境を身体を通して探る。他者にむかう経験を通じて他者と自分との共通点と違いの発見。境界を経験することによって本質を認識する。4.空間と時間を感知し過去と未来を抱えた現在を大きな時間の流れのなかで認識する。5.他の参加者と一緒に動き、また個別に見合う。6ムーブメントをとおして芸術性と美の可能性を発見する。7.ムーブメントを通して詩、死、暴力、共生、デモクラシー、核、歴史、などについて新たな視点を得て話し合う。</p>
授業の方法	<p>課題にそってムーブメントの実習をし、小グループでの話し合ったあと、全員での話し合いにうつる。また授業時間内にビデオ視聴。特別講義期間中は 授業時間外に 毎日約1時間のテキストの読書も必要。さらに特別講義終了後に読む課題図書もある。後半は参加者同士が見合いながら動き サポートしながら観察する。期末プロジェクトとレポートはクラスの内部で公開する。</p>
成績評価方法	<p>ムーブメントほか授業での積極的参加、他の参加者への協力、課題図書の読み込みと宿題の提出、プレゼンテーション、さらに期末プロジェクトとレポートが重要。</p>
教科書	<p>林京子 祭りの場 林京子 トリニティからトリニティへ ほか PDF 多数</p>
参考書	<p>Eiko & Koma, Time is not Even, Space is not Empty Eiko Otake, A Body in Places</p>
履修上の注意・備考	<p>全4日参加できる人のみ履修可。動きやすい服装でくること。スポーツ、いわゆるダンスの経験など必要なし。 https://www.eikootake.org/teaching http://eikoandkoma.org/videos ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209908	担当教員	中西 正康		
単位数	2	学期	A1A2	時限	木 6
講義題目	演技実践 Acting Lesson				

授業の目的・概要	俳優が行う演技練習を通し感性を磨き、共感力、コミュニケーション能力を高め豊かな人間なる。
授業計画	相手の言葉を聞いてそれを繰り返すレペテション練習を中心に学びます。ただ言葉を繰り返すだけではなく、相手の様子、心の態度から気持ちや感情を受け取り、それを自分がどう感じているのかを相手に伝えます。この練習を行うことにより楽器(自分自身)が繊細になり、相手と共鳴し、交流ができ、思考を使わずに衝動に従い自由になれ、想像の世界で真に生きることができるようになります。 レペテションを使い、キャラクターワーク最終的には実際にシーンを演じてみます。
授業の方法	少しでも多く実際に体験をして欲しいので実技が中心になります。
成績評価方法	演技的に上手い下手ではなく相手とのコミュニケーションをとれているかをポイントに評価をします。
教科書	「リアリズム演技」著・ポビー中西（而立書房）
参考書	「サンフォード・マイズナー・オン・アクティング」―ネイバーフッド・プレイハウス演劇学校の1年間(而立書房)
履修上の注意・備考	動きやすい服装
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209909	担当教員	近藤 良平		
単位数	2	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	身体表現の実践 Practice of Physical Expression				

授業の目的・概要	<p>本授業は、ダンサーの近藤良平によるダンスの授業である。</p> <p>本授業は身体表現を通して、参加者各自の身体への興味を促し、身体の可能性を再考することを目的とする。授業前半では、身体と個人的に向き合う。その後、他者と交流し、他者の身体からの気づきを体感する。これらのことを通して、最終的には物の見方を切り替え、あらゆる局面、状況、人間に至るまでバリアを超え、共感・コミュニケーションできる力を養うことを目指す。</p>
授業計画	<p>授業進行の詳細については受講者の状況により随時変更するが、今のところ以下のような大枠で行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 身体を知る・感じる(その 1) 2 身体を知る・感じる(その 2) 3 感情と身体の関係 4 他者を知る・感じる 5 空間認知とそれによるコミュニケーション 6 主観と客観を切り替えて、感じ判断していく 7 物の見方を切り替える 8 受け取ってコミュニケーションする 9 身体、考えの固定観念をはずす 10 助けあうコミュニケーションでのパフォーマンス 11 チームに分かれてパフォーマンスの準備 12 チームに分かれてパフォーマンスの準備 13 発表
授業の方法	<p>身体に対しての新しいアプローチ・発見を、毎回の授業で、各テーマごとに体験する。授業後半部分では、討論の場を設け、感じた事を発表する。各テーマというのは、授業計画のトピックと同じものである。</p>
成績評価方法	<p>以下の 5 点を踏まえて総合的に判断する。</p> <p>① 出欠状況 ②授業に対しての積極的な参加 ③毎回の授業における簡単なコメントシートの提出(出欠の確認のために、名前のみでも毎回提出)④最終回の発表の内容、⑤最終レポート</p>
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	<p>実技の授業なので、毎回参加すること</p> <p>実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。</p> <p>持ち物:動きやすい服装、飲み物、タオルなど。運動用の靴は必要ありません(裸足もしくは靴下で取り組んでもらいます)</p> <p>ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う表現も専門的な身体技術は必要としません。</p> <p>どの学部 of 学生も歓迎する。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209910	担当教員	尾上 明代		
単位数	2	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	ドラマセラピーを通じた表現実践 Practice for Expression through Drama Therapy				

授業の目的・概要	<p>授業の目標</p> <p>ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。</p> <p>グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。</p> <p>ドラマセラピーの理論的背景と出典分野の基本についての理解が得られる。</p> <p>「演じること」は身体、感情、知性を統合しての活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由で楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。</p> <p>授業の概要</p> <p>ドラマや劇を演じることを通じて表現力や創造性を高めることを目指すコースである。</p> <p>「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。</p> <p>グループワークの中では自分を客観視できるだけでなく、自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。さらに対人援助者(教師やセラピストなど)としての在り方、対象者への有効な働きかけを学べるという点も特徴であると言える。「ドラマ」で「役」を演じるということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、かつ体得できるところがポイントである。</p> <p>ドラマセラピーはクリエイティブアーツセラピー、またグループセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。ドラマセラピーそのものを学ぶ授業ではないが、この手法を使うことで、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解を深め、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。特に教育分野では有用性が高い。</p> <p>* 岡田猛・縣拓 (2013), 芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法, 認知科学, 20(1), pp27-45.</p>
授業計画	<p>第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと初回 interaction のためのゲーム</p> <p>第2回 身体と心の解放</p> <p>第3回 想像力・創造力・即興力を豊かに</p> <p>第4回 フィクション(架空)とリアリティー(現実)の間を行き来する</p> <p>第5回 おとぎ話—象徴・架空の力</p> <p>第6回 ドラマセラピーの基本的な理論と出典分野(講義)</p> <p>第7回 共感することを身体で知る・示す</p> <p>第8回 心の障害物を乗り越えるドラマ</p> <p>第9回 人間関係の探索1(ソシオドラマ)</p> <p>第10回 人間関係の探索2(ソシオドラマ)</p> <p>第11回 自分の「role」認識</p> <p>第12回 「ドラマ」から「現実」の変容へ</p> <p>第13回 創作ドラマの発表1</p>

	<p>第14回 創作ドラマの発表2</p> <p>第15回 グループプロセスの終結・まとめ</p>
授業の方法	<p>授業ではほぼ毎回、表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらう。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていく。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してほしい。</p> <p>毎回、必ずプロセスの振り返りを行い、クラス全体で自由なコメントを交換する。この振り返りや気づきを、ときにはジャーナル(日誌)という形で提出してもらうこともある。</p>
成績評価方法	<p>表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、実技の様子やディスカッションの内容(50%)、3回程度のジャーナル(日誌)と期末レポート(50%)から総合して評価する。</p>
教科書	<p>心ひらくドラマセラピー:自分を表現すればコミュニケーションはもっとうまくいく!</p> <p>尾上明代著(河出書房新社)</p>
参考書	<p>ドラマセラピーのプロセス・技法・上演—演じることから現実へ</p> <p>ルネ・エムナー 著(北大路書房)</p>
履修上の注意・備考	<p>体験型の学習なので、基本的に全回出席することがまず大切ですが、特に初回はオリエンテーションを兼ねているので、必ず出席して下さい。</p> <p>授業内での積極的な参加態度はもちろん良い評価の対象にはなりますが、「授業」だからといって、すべてのワークに無理に参加をしなければならない、というプレッシャーを感じる必要はありません。</p> <p>その時どきの自分の心身の状態に合わせて参加して下さい。</p> <p>「演技が得意な人、人前で発表することが好きな人」にのみ適しているアプローチではないかという勘違いもあるかもしれませんが、そうではなくてアクト(行動、演技)することが「多くの人を取り組みやすく、創造力や表現力などを高める有効な方法であること」を授業内で示します。楽しんで学んでください。</p> <p>もちろん、学習・研究のためには、一定の参加が必要でもあるので、新しいことに積極的に取り組み、学ぶという意欲と心構えをもって臨んでもらえればと思います。</p> <p>受講は、動きやすい服装で。</p> <p>受講生の人数は20人までを目安とします。初回授業の参加者数を見て決定します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209911	担当教員	O JUN		
単位数	2	学期	S2	時限	火 3, 火 4
講義題目	超ドローイング演習 Drawing exercise				

授業の目的・概要	本授業では美術の基礎的実技としてドローイング(描画)制作を行い、芸術表現の意味や方法を実践的に体験する。
授業計画	<p>全7回(毎2時限)の授業</p> <p>第1回 画集、画像、動画を使いドローイングについての講義。ドローイング実技</p> <p>第2回 ドローイング実技</p> <p>第3回 ドローイング実技</p> <p>第4回 作品鑑賞(都内の美術館、ギャラリー)</p> <p>第5回 ドローイング実技、芸大生とのワークショップ</p> <p>第6回 ドローイング実技</p> <p>第7回 ドローイング展と講評</p>
授業の方法	美術作品と制作についての講義と実技演習(ドローイング制作)と課外での鑑賞、芸大生とのワークショップなどによる。
成績評価方法	毎回出欠を取る。本授業は連続する演習実技の体験と授業成果として展示講評までを総合して評価するので特に出席状況を重視する。
教科書	<p>特になし。</p> <p>講義に必要な資料などはその都度こちらで用意する。</p>
参考書	<p>特になし。</p> <p>必要とあらばその都度図書などを紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>制作しやすい服装、汚れてもいいように着替えなども用意すること。</p> <p>毎回の制作に必要な紙、画材、鉛筆、ペン、マーカーなどは各自用意すること。</p> <p>本演習では自身の身体、思考、諸感覚が一番の道具です。毎回、体調をよく整えておくこと。</p> <p>絵を描いたことがある人、ない人、経験の有無は問いません。描いたことがある人は新たな体験を、ない人は初めて体験してみよう。何かを見て、どのようにかして描いてみる、また描かれたものがどのように見え、「これ」が何なのかを経験してみよう。</p> <p>※持参物:A4~A3 サイズの紙(コピー用紙のようなものでもよい)、あるいはドローイングブック(スケッチブックでも構わないが、紙が厚いので薄く枚数を描くうえでドローイングブックが望ましい)。描画用具(HB 以上の濃さの鉛筆、サインペン、マーカー、ボールペン、クレヨン、クレパス、色鉛筆、水彩など。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209912	担当教員	篠田 太郎
単位数	2	学期	A1A2
講義題目	この世界を抽象的視点で遊ぶ(2) Playing in this world with an abstract perspective		
時限	金 2		

授業の目的・概要	この授業の目標は、とにかく視点を多く持つことにあります。美術作品を一義的に語ることはできません。それはそのまま今の社会にも言えることでしょう。ステレオタイプに物事は成立していません。政治、経済、産業、科学、etc..... これら全て、多角的に俯瞰し、長期的な視点で考える必要があるのでしょうか。美術はそのトレーニングツールとして機能します。美術を考察するプロセスを学生個々のフィールドに活かせる事が目標となります
授業計画	前回はそうでしたが、授業計画には悩んでしまいます。昨年为例にとると、初めの 2 回ぐらいは自分の仕事を皆さんに見てもらおうと思います。それ以降は、芸大の学生にワークショップを考えてもらって実行してもらったり、ゲストを招いて対談したり、、東大は教室の関係もあって、いわゆる美術作品の製作と言うわけには行きません。そして美術を理解したりその考え方に触れるのに、製作が必要とも思いません。重要なのはいかに視野を広げるかということであり、いかにステレオタイプな価値観を疑うかということにあると思っています。その辺りを皆さんと接してから様子をみながら、臨機応変に授業計画を同時進行形で考えていけたらと思います。僕は美術とはロングタームで物事を捉えたり思考したりすることが可能なフィールドだと思っています。ですから、授業も即成果を求めるようなものでなく、遠い自身の人生にとってパラダイムシフトが起こるようなことがあればいいと思っています。私は美術作家なのでその主軸は美術を中心に進めますが、これはサブジェクトを経済、政治、科学と、どんなフィールドにも当てはまる内容だと思っています。
授業の方法	大体は教室内でのディスカッションとかになるだろうと思います。簡単な課題も出すと思います。そして時々外に行ったりもするでしょう。おなじ道を歩いて居ても、違う視点の人と一緒に新たな発見があるものです。なので皆さんに触発されて何かいい授業を思いつくかもしれません。そんな感じで授業を進めて行けたらいいなあと思います。去年受講された方が再度受講したいと希望するかもしれませんが、内容的にも雰囲気的にも同じ様なことになるだろうと予測しています。ですから再度受講を希望されてもそれは時間の無駄かもしれません。
成績評価方法	基本的には評価はしません。去年も書きましたが、大学生は問題を作る側であって、解く側では無いと思っていますし、自分で自分を正当に評価出来ることは重要な事なので、その大事な機会を奪いたくはありません。ただ去年の例で、単純に単位が簡単に貰えるから、と言う理由の人は考えてもらいたいです。皆さんの授業料の多くは税金で賄われていることを、そしてそれが許されているのもみなさんが国民から信用されているからだと言うことを。
教科書	インターネット等
参考書	インターネット等
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209913	担当教員	布山 毅		
単位数	2	学期	S2	時限	水 4, 水 5
講義題目	アートとしてのアニメーション表現行為 Animation as Art: Focus on Process				

授業の目的・概要	<p>本授業は、アニメーションを学ぶ授業というよりはアニメーションで学ぶ授業であり、アニメーションの表現行為に含まれる創造性やアート性について、実際につくる経験を通じて学ぶことが主目的になる。アニメーションは物理的には存在せず経験の中にしか存在しえないエフェメラルな表現であるが、その表現行為には独特の実感がある。その根底には常に遊びの感覚があり、単純にその行為は楽しいものでもある。本授業では試行錯誤の容易なプリミティブなアニメーションをつくる経験と省察を繰り返すことを通じ、その表現行為に含まれる魅力を共に探究していきたい。</p>
授業計画	<p>授業計画は受講者に応じて随時更新されるが、基本的には毎回のワークショップ(WS)からなる以下の構成を目安とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> WS1～遊び・共同・即興 WS2～動き・時間・コマ WS3～アニメーターの表現行為(ゲスト) WS4～物語・制約・飛躍 WS5～表現・伝達・ノイズ WS6～アニメーション作家の表現行為(ゲスト) レポートによる総括
授業の方法	<p>アニメーション制作はともすれば技術的に高度化・複雑化しやすく、その技術習得が目的化しやすい。それを避けるため、本授業ではアニメーション表現行為を出来る限りプリミティブな状態にとどめられるよう、授業担当者が開発しているアニメーション教育支援ソフトウェア(KOMA KOMA, KOMA CHECKER 等)を用いる。基本的にグループ単位での活動が中心になるが、部分的にパーソナルなプロジェクトにも取り組んでもらう。また多角的な視点からの探究のためゲストを招いたワークショップや講義を設ける予定。</p>
成績評価方法	出席状況、授業への積極的参加、事後的に記述してもらった経験のリフレクションシートの内容など
教科書	各回の授業内容に応じて適宜紹介する
参考書	授業進行に応じて適宜紹介する
履修上の注意・備考	履修の条件となる専門性や経験は特にないが、希望者が多い場合は機材等の関係で人数制限(25人程度)を行う。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209914	担当教員	西岡 龍彦		
単位数	2	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	映像のための音楽・音響制作 Music Composition and Sound Design for Motion Picture				

授業の目的・概要	<p>映像と音楽や音響の関係を分析し、音楽やサウンドデザインの制作者の意図と制作方法を理解する。短い映像(実写、アニメーションなど)のための音楽とサウンドデザインの制作を経験する。</p> <p>The course aims to learn to analyze visual and auditory aspects in the motion picture and to understand the creative processes and the intention of the music and sound design. The students will experience creating music and sound design for short films of live-action and animation.</p>
授業計画	<p>映像のジャンル、時代やスタイルによって異なる音楽とサウンドデザインの制作方法を分析によって理解する。The students will analyze and understand the different creative methods exercised in the music and sound design for a different genre, era, and style of the pictures.</p>
授業の方法	<p>受講生は、自分で選んだ映像作品の音楽とサウンドデザインを分析し発表する。また、グループによる短い映像作品の音楽とサウンドデザインを完成して講評会を行う。</p> <p>Each student will present the analysis of the music and sound design in a film of one's choice. Also, the students are to submit their group works and receive feedback in the review sessions.</p>
成績評価方法	<p>映像作品の分析と発表、講評会での発言を評価する。</p> <p>Evaluation will be done based on the student's analysis, presentation, and the comments and remarks in the review session.</p>
教科書	<p>使用しない。/ No textbooks are specified.</p>
参考書	<p>使用しない。/ No textbooks are specified.</p>
履修上の注意・備考	<p>受講生に課す「音楽とサウンドデザインの分析と発表」を意識して映像作品を鑑賞しておくこと。</p> <p>When watching cinematic works, reflect on the course assignment of analyses and presentations on the music and sound design.</p> <p>映画、アニメーション、テレビ番組などの音楽やサウンドデザインを集中して聴取する経験をしておくこと。</p> <p>音楽や音響の制作者の意図を理解するために、可能ならできるだけ高性能な音響装置を使うこと。</p> <p>Please focus on the music and sound design when watching movies, animations, or TV programs in daily life. If possible, do use high-quality audio equipment in order to understand the intentions of the creators.</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209915	担当教員	Kinneret Noy		
単位数	2	学期	集中	時限	集中
講義題目	The actor's toolbox: motion, emotion, imagination The actor's toolbox: motion, emotion, imagination				

授業の目的・概要	In this intensive four-session workshop students will be introduced to the basic tools of the actor, and explore selected methods used in acting. The aim is to gain "hands-on" knowledge of the actor's training and creative process.
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. The working of the actor's Body: relaxation, concentration 2. Voice expression 3. the use of imagination in the creative process 4. Acting and emotions – Rasaboxes
授業の方法	<p>Short explanatory introductions</p> <p>group exercises, improvisation</p> <p>discussions</p>
成績評価方法	Class participation of 4 days of group work
教科書	None
参考書	<p>The Eight Efforts: Laban Movement: https://www.theatrefolk.com/blog/the-eight-efforts-laban-movement/</p> <p>Minnick, Michele. "Rasaboxes performer training" The Drama Review 45, 3 (T171), Fall 2001.</p> <p>Schechner, Richard. "Rasaesthetics", The Drama Review 45, 3 (T171), Fall 2001.</p>
履修上の注意・備考	<p>None</p> <p>UTAS 掲示板に授業に関連するドキュメントファイルを掲載していますので、適宜ご確認ください。</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09209916	担当教員	Michael Spencer		
単位数	2	学期	S2	時限	集中
講義題目	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music				
	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music				

授業の目的・概要	<p>The objectives for this course are</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to expand your knowledge of musical practice 2. to be able to apply analytically the concepts introduced within the course, across a wide range of musical genres, but without the need for any formal training in musical theory. 3. to understand the value of music and its deeper role in society
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Thinking differently: music, memory, patterns and the management of expectation, educational practice in schools, societal change and the influence of the record industry on listening habits. 2. The building blocks of music, an introduction: rhythm, melody, harmony, texture, dynamic, silence 3. Rhythm: physiology and movement 4. Melody: prosody and respiration 5. Harmony: Pythagorus, the harmonic series, horizontal motion and vertical structures, Rameau (the Isaac Newton of music), the invention of music notation, and the problem with keyboards 6. Texture: aural colours and the blending of sounds 7. Dynamics: instrument design, noise, technological enhancement 8. Silence: the forgotten element 9. Architecture: the transition from simple to complex musical structures 10. Active listening: refining one's listening practice 11. Review
授業の方法	The course will be comprised of information giving, interactive challenges, and facilitated exchanges between participants
成績評価方法	Class participation (presentations and in-class discussions)
教科書	Not applicable
参考書	A wide variety of music examples will be referred to throughout the course. In addition, recommended lists for further listening will be provided at the end of each session
履修上の注意・備考	<p>Before the course you will be required to prepare a short presentation (2-3 minutes) about a specific piece of music with which you feel a particular connection. There are no prerequisites for how you might do this.</p> <p><N.B.> Please inform the lecturer by email a minimum of 5 days before the course begins in order to enable the collation of materials for the first lecture.</p> <p>Not applicable</p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと</p> <p>学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)</p> <p>http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	